

茨城県友部町

三本松遺跡

2003年3月

友部町三本松遺跡発掘調査会

茨城県友部町

三本松遺跡

2003年3月

友部町三本松遺跡発掘調査会



例 言

1. 本書は、茨城県西茨城郡友部町大字小原1353番地外に所在する三本松遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、「県営畑地帯総合整備事業（一般型）小原地区（南区）」に伴うものであり、事前調査として埋蔵文化財の記録保存を目的として実施された。
3. 本調査は、友部町教育委員会および同調査会の指導のもと、大成エンジニアリング株式会社が実施した。
4. 調査期間・調査面積は下記の通りである。
調査期間 発掘調査 平成15年1月15日～15年2月28日
整理調査 平成15年1月31日～15年3月20日
調査面積 3,400㎡
5. 本書の編集・執筆は、友部町教育委員会および同調査会の委託を受け、大成エンジニアリング株式会社埋蔵文化財調査部が実施した。尚、文責については執筆者名を文末に記した
8. 本調査において検出された諸資料は、友部町教育委員会の責任において保管・活用を図るものとする。
9. 発掘調査および整理作業にあたり、次の方々・諸機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表す。（敬称略）
池田晃一 川井正一 瓦吹 堅 櫻村信行 枝川永男 永山幹夫 服部敬史 和田信行 茨城県教育庁
株式会社阿部建設 株式会社キガ 株式会社フジテクノ
10. 発掘調査・整理作業参加者は次の通りである。

（発掘調査）

長谷川とめ子 塩畑昭子 塩畑勝利 高安やを 小園江なみ 川又洋子 小園江道代 須藤かね
小園江知夏子 高安妙子 飯田昭 大内ふゆ子 白沢清三 富田善一 白沢忠夫 高橋芳正 楠賀きよ 佐藤利男
佐藤八重子 中村伊重 須賀かね 斉藤幸一 正木信行 小園江とき 横井義夫 井原昭夫 長谷川雅子 大園孝一
渡辺幸友

（整理作業）

小倉康正 小室峰子 鈴木雅子 横濱さおり 塚田人作 野村芳国 藤代美代子 夏目泰彦 大久保ひとみ 橋都美
明 白井順子 佐藤友子 船澤郁代 菊池悠末 山下範子 海老原三紗緒 岩瀧和紀子 山田雅子

目次

巻頭図版

例言

目次 / 挿図目次 / 表目次 / 図版目次

凡例

調査会組織名簿

I. 調査概要

1. 発掘調査の原因	1
2. 地理的歴史的環境	1
3. 調査方法	3
4. 基本層序	3

II. 検出遺構

1. 竪穴住居跡	
(1) 時代区分について	7
(2) 弥生時代	7
(3) 古墳時代	21
(4) 奈良・平安時代	33
2. その他の遺構	69

III. 出土遺物

1. 竪穴住居跡出土遺物	
(1) 弥生時代	73
(2) 古墳時代	75
(3) 奈良・平安時代	77
2. その他の出土遺物	85

IV. まとめ	117
---------	-----

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	2	第36図	SI-73・76・84・85遺構図	64
第2図	友部町位置図	2	第37図	SI-81・82・83・87・88遺構図	65
第3図	基本層序	4	第38図	SI-89・90・91・92・94遺構図	66
第4図	遺構配置図(弥生時代)	5	第39図	SI-75遺構図	67
第5図	SI-5・28遺構図	12	第40図	溝・土坑配置図	68
第6図	SI-33・44遺構図	13	第41図	SE-1・SK-4・13・14・26・39・58遺構図	71
第7図	SI-42・45・54遺構図	14	第42図	SI-1・2・3・4遺構図	77
第8図	SI-62・66遺構図	15	第43図	SI-5・28出土遺物	86
第9図	SI-77・78遺構図	16	第44図	SI-28・33出土遺物	87
第10図	SI-79・86遺構図	17	第45図	SI-44出土遺物	88
第11図	SI-74・80遺構図	18	第46図	SI-45・54出土遺物	89
第12図	遺構配置図(古墳時代)	19	第47図	SI-62・66・74・77・78・79出土遺物	90
第13図	SI-3・4・14遺構図	25	第48図	SI-3・4・14出土遺物	91
第14図	SI-15・22遺構図	26	第49図	SI-15・30・32出土遺物	92
第15図	SI-24・32遺構図	27	第50図	SI-22・24・43出土遺物	93
第16図	SI-27・30遺構図	28	第51図	SI-27・53出土遺物	94
第17図	SI-43・63遺構図	29	第52図	SI-53・63・93出土遺物	95
第18図	SI-53・71・95遺構図	30	第53図	SI-1・2・7・9・10出土遺物	96
第19図	遺構配置図(奈良・平安時代)	31	第54図	SI-8・11・13出土遺物	97
第20図	SI-1・2遺構図	48	第55図	SI-12・17・19・20出土遺物	98
第21図	SI-6・7・8遺構図	49	第56図	SI-21・26・31・35・38・40・41・47・48出土遺物	99
第22図	SI-10・11・16・17遺構図	50	第57図	SI-46・52・55・56出土遺物	100
第23図	SI-12・18・19遺構図	51	第58図	SI-55・57・59出土遺物	101
第24図	SI-13・20遺構図	52	第59図	SI-60・61・65・67・68・70・75出土遺物	102
第25図	SI-21・25・26遺構図	53	第60図	SI-76・81・83出土遺物	103
第26図	SI-29・31・34・36遺構図	54	第61図	SI-83・84・85・90・94・SE-1出土遺物	104
第27図	SI-35・37・39・47遺構図	55	第62図	遺構外出土遺物	105
第28図	SI-38・40・41・46遺構図	56			
第29図	SI-48・49・50・51遺構図	57			
第30図	SI-52・55遺構図	58			
第31図	SI-9・56・57遺構図	59			
第32図	SI-58・61・64遺構図	60			
第33図	SI-59・60遺構図	61			
第34図	SI-65・67・68遺構図	62			
第35図	SI-69・70・72遺構図	63			

挿 図 目 次

第1表 遺物観察表(1).....	106	第7表 遺物観察表(7).....	112
第2表 遺物観察表(2).....	107	第8表 遺物観察表(8).....	113
第3表 遺物観察表(3).....	108	第9表 遺物観察表(9).....	114
第4表 遺物観察表(4).....	109	第10表 遺物観察表(10).....	115
第5表 遺物観察表(5).....	110	第11表 遺物観察表(11).....	116
第6表 遺物観察表(6).....	111		

図 版 目 次

図版1	1.SI-5 全景 2.SI-5 土層断面 3.SI-5 炉跡土層断面 4.SI-5 P1土層断面 5.SI-5 P2 土層断面 6.SI-5 P3 土層断面 7.SI-5 P4 土層断面 8.SI-5 P5 土層断面
図版2	1.SI-28 全景 2.SI-28 土層断面 3.SI-28 炉 4.SI-28 P1 土層断面 5.SI-28 P2 土層断面 6.SI-28 P3 土層断面 7.SI-28 P4 土層断面 8.SI-28 P6 土層断面
図版3	1.SI-33 全景 2.SI-33 土層断面 3.SI-33 炉跡完掘 4.SI-33 炉土層断面 5.SI-33 遺物出土状況 6.SI-33 P1 土層断面 7.SI-33 P2 土層断面 8.SI-33 P3 土層断面
図版4	1.SI-33 P4 土層断面 2.調査風景 3.SI-39-40-41-42 全景 4.SI-41-42土層断面 5.SI-44 全景 6.SI-44土層断面 7.SI-44 P1土層断面 8.SI-44 P2 土層断面
図版5	1.SI-44 P3 土層断面 2.SI-44 P4 土層断面 3.SI-45 全景 4.SI-45 土層断面 5.SI-45 炉完掘 6.SI-45 炉跡土層断面 7.SI-45 P5 土層断面 8.SI-45 P2 土層断面
図版6	1.SI-45 P4 土層断面 2.SI-45 P7 土層断面 3.SI-45 P6 土層断面 4.SI-45 P1 土層断面 5.SI-54 全景 6.SI-54 土層断面 7.SI-54 炉 8.SI-54 炉土層断面
図版7	1.SI-54 遺物出土状況 2.SI-54 P1 土層断面 3.SI-54 P2 土層断面 4.SI-54 P3 土層断面 5.SI-54 P4 土層断面 6.SI-54 P6 土層断面 7.SI-54 P7 土層断面 8.SI-54 P9 土層断面 9.SI-54 P11 土層断面 10.SI-54 P10 土層断面 11.SI-54 P12 土層断面
図版8	1.SI-62 全景 2.SI-62 土層断面 3.SI-62 炉 4.SI-62 炉跡土層断面 5.SI-62 遺物出土状況 6.SI-62 P2 土層断面 7.SI-62 P1 土層断面 8.SI-62 P2 土層断面 9.SI-62 P3 土層断面
図版9	1.SI-62 P6 土層断面 2.SI-62 P1 土層断面 3.SI-62 P5 土層断面 4.SI-66 全景 5.SI-66 土層断面 6.SI-66 炉跡 7.SI-66 遺物出土状況 8.SI-66 P1 土層断面 9.SI-66 P2 土層断面
図版10	1.SI-66 P3 土層断面 2.SI-66 P5 土層断面 3.SI-66 P4 土層断面 4.調査風景 5.SI-74全景 6.SI-74 土層断面 7.SI-74 炉完掘 8.SI-74 炉跡土層断面
図版11	1.SI-77-78 全景 2.SI-77 土層断面 3.SI-77 炉跡 4.SI-77 P1 5.SI-77 P2 6.SI-77 P3 7.SI-77 P4 8.SI-78 土層断面 9.SI-78-79間の ビット群土層断面
図版12	1.SI-79 全景 2.SI-79土層断面 3.SI-79 P1 土層断面 4.SI-79 P2 土層断面 5.SI-79 P3 土層断面 6.SI-79 P4 土層断面 7.SI-79 P5土層断面 8.SI-79 P7 土層断面 9.SI-80 全景・土層断面 10.SI-80 P1

- 図版13 1.SI-80 P2 2.SI-80 P3 3.SI-80 P4 土層断面 4.SI-80 P5 土層断面
5.SI-86 土層断面 6.SI-86 全景 7.SI-86 炉跡 8.調査光景
- 図版14 1.SI-3 全景 2.SI-3 土層断面 3.SI-4 全景 4.SI-4 土層断面 5.SI-14 全景 6.SI-14 土層断面
7.SI-14 カマド土層断面 8.SI-14 遺物出土状況
- 図版15 1.SI-14 P1 2.SI-14 P2 3.SI-14 P3 4.SI-14 P4 5.SI-15 全景 6.SI-15 ベルト土層断面
7.SI-15 カマド 8.SI-15 遺物出土状況
- 図版16 1.SI-22 全景 2.SI-22 土層断面 3.SI-22 カマド 4.SI-22 カマド南北土層断面北側
5.SI-22 カマド東西土層断面 6.SI-22 カマド遺物出土状況 7.SI-22 P3土層断面
8.SI-22 P2土層断面 9.SI-22 P4土層断面
- 図版17 1.SI-22 P6 土層断面 2.SI-22 P5 土層断面 3.SI-22 東壁下FP6土層断面
4.SI-22 東壁下FP7 土層断面 5.SI-22 P8 土層断面 6.SI-24 作業風景 7.SI-24 全景
8.SI-24 土層断面 9.SI-24 カマド 10.SI-24 カマド土層断面
- 図版18 1.SI-27 遺物出土状況 2.SI-24 ビット東壁寄り土層断面 3.SI-27 全景 4.SI-27 東西土層断面
5.SI-27 南北土層断面 6.SI-27 炉完掘 7.SI-27 炉土層断面 8.SI-27 P1土層断面
- 図版19 1.SI-27 P2土層断面 2.SI-27 P3土層断面 3.SI-27 P4土層断面 4.SI-30 全景 5.SI-30 土層断面
6.SI-30 カマド 7.SI-30カマド土層断面 8.SI-30 P1土層断面 9.SI-30 調査光景
- 図版20 1.SI-32 全景 2.SI-32 炉跡 3.SI-32 P1土層断面 4.SI-32 P2土層断面 5.SI-32 P3土層断面
6.SI-32 P4土層断面 7.SI-32 P5土層断面 8.SI-32 P6土層断面 9.SI-32 P7土層断面
10.SI-32 P8土層断面 11.調査光景
- 図版21 1.SI-43 全景 2.SI-43 土層断面 3.SI-43 カマド完掘 4.SI-43 カマド土層断面 5.SI-43 P1
6.SI-43 P2 7.SI-43 P3 8.SI-43 P4
- 図版22 1.SI-53 全景 2.SI-53 土層断面 3.SI-53 カマド 4.SI-53 カマド土層断面 5.SI-53-1 遺物出土状況
6.SI-53-3 遺物出土状況 7.SI-53-2 遺物出土状況 8.SI-53 カマド前ビット土層断面
- 図版23 1.SI-63 南側ビット土層断面 2.調査光景 3.SI-63 全景 4.SI-63 土層断面 5.SI-63 カマド
6.SI-63 P1土層断面 7.SI-63 P2土層断面 8.SI-63 P3土層断面
- 図版24 1.SI-71-72 土層断面 2.SI-71 全景 3.SI-71 カマド完掘 4.SI-71 作業風景 5.SI-75 土層断面
6.SI-75 全景 7.SI-93 カマド土層断面 8.SI-93 全景
- 図版25 1.SI-1 使用面全景 2.SI-1 土層断面 3.SI-1 カマド 4.SI-1 カマド土層断面 5.SI-2 全景
6.SI-2 土層断面 7.SI-2 東カマド 8.SI-2 東壁カマド土層断面
- 図版26 1.SI-2 北カマド 2.SI-2 北壁カマド土層断面 3.SI-6 全景 4.SI-6 土層断面 5.SI-6 カマド
6.SI-6 カマド土層断面 7.SI-7 使用面全景 8.SI-7 土層断面
- 図版27 1.SI-7 カマド使用面 2.SI-7 カマド土層断面 3.SI-7 ビット土層断面 4.SI-7 ビット(南壁寄り)
5.SI-8 全景 6.SI-8 土層断面 7.SI-8 カマド土層断面 8.SI-8 P1土層断面 9.SI-8 P2土層断面
- 図版28 1.SI-8 P3土層断面 2.SI-8 P4土層断面 3.SI-8 P5土層断面 4.SI-8 P6土層断面
5.SI-8 カマド右ソデビット土層断面 6.SI-8 カマド左ソデビット土層断面 7.SI-9 全景
8.SI-9 土層断面 9.SI-9 カマド 10.SI-10 カマド土層断面
- 図版29 1.SI-10 全景 2.SI-10 土層断面 3.SI-10 カマド完掘 4.調査光景 5.SI-11 全景 6.SI-11 土層断面
7.SI-11 カマド 8.SI-11 カマド(支脚)
- 図版30 1.SI-11 カマド南北土層断面 2.SI-11 カマド東西土層断面西 3.SI-11 カマド東西土層断面東側

4. SI-11 P1土層断面(東壁寄り) 5. SI-11 P2土層断面(南壁寄り) 6. SI-11 P3土層断面(中央の柱穴)
7. SI-11 ビット(カマド手前) 8. SI-12 全景 9. SI-12 カマド
- 図版31 1. SI-12 カマド土層断面 2. SI-12 南壁 3. SI-13 全景 4. SI-13 土層断面 5. SI-13 カマド土層断面
6. SI-13 カマド土層断面 7. SI-13 P1土層断面 8. SI-13 P2土層断面 9. SI-13 P3土層断面
- 図版32 1. SI-13 P4土層断面 2. SI-13 P5土層断面 3. SI-16 全景 4. SI-16 カマド 5. SI-16 カマド土層断面
6. 調査風景 7. SI-17 全景 8. SI-17 土層断面
- 図版33 1. SI-18 全景 2. SI-18 土層断面 3. SI-18 カマド使用面全景 4. SI-18 カマド土層断面 5. SI-19 全景
6. SI-19 土層断面 7. SI-19 カマド土層断面 8. SI-19 Pit 1土層断面
- 図版34 1. SI-20 全景 2. SI-20 土層断面 3. SI-20 土層断面 4. SI-20 P1土層断面 5. SI-20 P2土層断面
6. SI-20 P3土層断面 7. SI-21 全景 8. SI-21 土層断面
- 図版35 1. SI-25 全景 2. SI-25 土層断面 3. SI-25 カマド 4. SI-25 カマド土層断面 5. SI-25 P1土層断面
6. SI-25 P2土層断面 7. SI-25 P3土層断面 8. SI-26 使用面全景 9. SI-26 土層断面
- 図版36 1. SI-26 北カマド 2. SI-26 北壁カマド土層断面 3. SI-26東カマド 4. SI-26東壁カマド土層断面
5. SI-26 P1土層断面 6. 調査風景 7. SI-29 全景 8. SI-29 土層断面
- 図版37 1. SI-29 カマド土層断面 2. 作業風景 3. SI-31 全景 4. SI-31 土層断面 5. SI-31 カマド
6. SI-31 カマド土層断面 7. SI-31 鉄鏝出土状況 8. SI-31 ビット土層断面
- 図版38 1. SI-34 全景 2. SI-34 土層断面 3. SI-34 東西カマド完掘 4. SI-34 東カマド土層断面
5. SI-34 カマド土層断面 6. 調査光景 7. SI-35 全景 8. SI-35 全景と土層断面
- 図版39 1. SI-35 P1土層断面 2. 調査光景 3. SI-36 全景 4. SI-36 土層断面 5. SI-36 カマド
6. SI-36 カマド土層断面 7. SI-37 全景 8. SI-37 土層断面
- 図版40 1. SI-37 カマド完掘 2. SI-37 カマド土層断面 3. SI-38 カマド土層断面 4. SI-38 カマド完掘
5. SI-39・40・41 全景 6. SI-39 土層断面 7. SI-39 カマド 8. SI-39 カマド土層断面
- 図版41 1. SI-40 土層断面 2. SI-41 土層断面 3. SI-41 カマド土層断面 4. SI-41・42 切合土層断面
5. SI-46 全景 6. SI-46 土層断面 7. SI-46 カマド 8. SI-46 カマド土層断面
- 図版42 1. SI-47 全景 2. SI-47 土層断面 3. SI-47 カマド 4. SI-47 カマド土層断面 5. SI-48 全景
6. SI-48 土層断面 7. SI-49 全景 8. SI-49 土層断面
- 図版43 1. SI-49 カマド 2. SI-49 カマド土層断面 3. SI-50 全景 4. SI-50 土層断面 5. SI-50 カマド完掘
6. SI-50 カマド土層断面 7. SI-51 全景 8. SI-51 土層断面
- 図版44 1. SI-51 カマド完掘 2. SI-51 カマド土層断面 3. SI-52 全景 4. SI-52 土層断面 5. SI-52 カマド
6. SI-52 カマド土層断面 7. SI-52 ビット土層断面 8. 調査光景
- 図版45 1. SI-55 全景 2. SI-55 土層断面 3. SI-55 カマド完掘 4. SI-55 カマド土層断面 5. SI-55 P1土層断面
6. SI-55 P3土層断面 7. SI-55 P4 土層断面 8. SI-55 ビット東南土層断面
- 図版46 1. SI-56 全景 2. SI-56 カマド 3. SI-56 カマド土層断面 4. SI-56 ビット土層断面 5. SI-57 全景
6. SI-57 土層断面 7. SI-57 カマド 8. SI-57 カマド土層断面
- 図版47 1. SI-57 P1土層断面 2. SI-57 P2土層断面 3. SI-57 P3土層断面 4. SI-57 P4土層断面
5. SI-58 全景 6. SI-58 土層断面 7. SI-58 カマド土層断面 8. SI-58 カマド完掘
- 図版48 1. SI-59 全景 2. SI-59 土層断面 3. SI-59 カマド 4. SI-59 カマド土層断面 5. SI-60 全景
6. SI-60 土層断面 7. SI-60 カマド 8. SI-60 カマド土層断面
- 図版49 1. SI-60 P1土層断面 2. SI-60 P2土層断面 3. SI-60 P3土層断面 4. SI-60 P4土層断面

5. SI-61 全景 6. SI-61 土層断面 7. SI-61 カマド 8. SI-61 カマド土層断面
- 図版50 1. SI-61 P2土層断面 2. SI-61 P1土層断面 3. SI-64 全景 4. SI-64 カマド 5. SI-65 全景
6. SI-65 土層断面 7. SI-65 カマド 8. SI-65 カマド土層断面 9. SI-65 ビット土層断面
- 図版51 1. SI-67 A・B全景 2. SI-67 A・B土層断面 3. SI-67 Aカマド 4. SI-68 A・B全景 5. SI-68 A全景
6. SI-68 A・B土層断面 7. SI-68 P2土層断面 8. SI-68 P1土層断面
- 図版52 1. SI-69 全景 2. SI-69-70 土層断面 3. SI-69 カマド土層断面 4. 調査光景 5. SI-70 全景
6. SI-70 土層断面西側 7. SI-70 土層断面東側 8. SI-70 紡錘車 出土状況
- 図版53 1. SI-70 P1土層断面 2. SI-70 P3土層断面 3. SI-70 P4土層断面 4. SI-72 全景
5. SI-72・73土層断面 6. SI-72 カマド完掘 7. SI-73 全景 8. SI-76 全景 9. SI-76 土層断面
- 図版54 1. SI-76 カマド 2. SI-76 カマド土層断面 3. SI-81 全景 4. SI-81土層断面 5. SI-81 カマド
6. SI-81 P1土層断面 7. SI-81 P2土層断面 8. SI-82 全景 9. SI-82 土層断面
- 図版55 1. SI-82 カマド 2. SI-83 全景 3. SI-83 土層断面 4. SI-83 カマド 5. SI-83 遺物出土状況
6. SI-83 遺物出土状況 7. SI-83 遺物出土状況 8. 調査風景
- 図版56 1. SI-84 全景 2. SI-84 カマド土層断面 3. SI-84 カマド 4. 調査光景 5. SI-85 全景
6. SI-85 土層断面 7. SI-85 カマド 8. SI-85 カマド土層断面
- 図版57 1. SI-85 P1土層断面 2. SI-85 P2土層断面 3. SI-85 P3土層断面 4. SI-87 全景 5. SI-89 全景
6. SI-88 全景 7. SI-88 土層断面 8. SI-90 全景 9. SI-90 卵跡
- 図版58 1. SI-90 紡錘車出土状況 2. SI-91 全景 3. SI-92 全景 4. SI-92 カマド土層断面 5. SI-92 カマド
6. 調査光景 7. SI-94 全景 8. SI-94 南北カマド
- 図版59 1. SI-94 北カマド 2. SI-94 南カマド 3. SI-94 カマド土層断面 4. SI-94 P4土層断面 5. SE-1 完掘
6. SE-1 土層断面 7. SK-4 完掘 8. SK-4 土層断面
- 図版60 1. SK-13-SK-14 完掘状態 2. SK-13-SK-14 土層断面 3. SK-26 全景 4. SK-26 土層断面
5. SK-39 完掘 6. SK-39 土層断面 7. SK-58 完掘 8. SK-58 土層断面
- 図版61 SI-5・28・33出土遺物
- 図版62 SI-33・44・45出土遺物
- 図版63 SI-54・62・66・74・77・79出土遺物
- 図版64 SI-3・4・14・15出土遺物
- 図版65 SI-15・22・24出土遺物
- 図版66 SI-27・30・32・43・53出土遺物
- 図版67 SI-53・63・93・1出土遺物
- 図版68 SI-2・7・8・9・10・11・12出土遺物
- 図版69 SI-12・13・17・19・20・21・31出土遺物
- 図版70 SI-26・35・38・40・41・47・48出土遺物
- 図版71 SI-52・55・56・57出土遺物
- 図版72 SI-59・60・61・65・68・70・75・76出土遺物
- 図版73 SI-81・83出土遺物
- 図版74 SI-83・84・85・90・94・SE-1・遺構外出土遺物
- 図版75 遺構外出土遺物・墨書集成

凡 例

1. 検出遺構は下記の略号で表した。

SI—竪穴住居跡 SE—井戸跡 SK—土坑 SD—溝跡 P—小穴（ピット）

2. 遺構実測図の縮尺は基本的に下記のとおりとし、図中にスケールを示した。

竪穴住居跡・井戸跡配置図—1/300 竪穴住居実測図—1/60 土坑・溝跡配置図—1/400

井戸跡・土坑実測図—1/40 溝跡実測図—1/100

3. 遺構配置図中、5m方眼に付したアルファベット及び数字はグリッドの呼称であり、アルファベットは北から南へAから順に、番号数字は西から東へ1から順に付している。
4. 遺構実測図中に付した方位は、国土地理院の北を示す。
5. 遺構断面図中の水糸ラインに付した数字は、標高（単位m）を表す。
6. 遺構実測図中に示した網目（スクリーントーン）は、炉やカマドなどの焼土範囲を表す。また、一部のものについては粘土範囲にも使用した。
7. 遺構実測図中に示した一点鎖線は、住居床面の硬質範囲を表す。
8. 遺物実測図の縮尺は下記のとおりとし、図中にスケールを示した。
土器類・金属製品—1/3 木製品—1/6 石器—1/2
9. 遺物観察表中の計測値の単位はセンチメートル（cm）である。また、（ ）を付した値は推定、< >を付した値は残存を表す。

友部町三本松遺跡発掘調査会組織名簿

- 会 長・市 原 俊 男（友部町教育委員会教育長）
副会長・白 田 清 郎（友部町文化財保護審議会会長）
理 事・深 谷 忠（友部町文化財保護審議会委員）
理 事・友 部 平重郎（友部町文化財保護審議会委員）
理 事・寺 内 寛（友部町文化財保護審議会委員）
理 事・高 野 克 己（友部町文化財保護審議会委員）
理 事・檜 山 成 勇（友部町文化財保護審議会委員）
理 事・南 秀 利（友部町文化財保護審議会委員）
理 事・寺 内 寛（三本松遺跡主任調査員）
理 事・鈴 木 登（友部町教育委員会次長）
監 事・岡 本 規 雄（友部町教育委員会生涯学習課長）
幹 事・木 村 秀 夫（友部町教育委員会生涯学習課）
幹 事・深 澤 充（友部町教育委員会生涯学習課）

I 調査概要

1. 発掘調査の原因

畑地帯総合整備事業は、かんがい施設、道路、農地などの生産基盤の整備とあわせて、生産環境や集落環境を改善するための施設などを地域の実情に応じて一体的に整備することによって、生産性が高く、効率的な畑作農業地域を作る事業であります。そして、畑作かんがい施設の整備により、生産可能な作物品質の拡大、作物の反収の増加、品質の向上（生産物半価の上昇）あるいは、農道の整備による輸送経費の削減、荷傷み防止による品質向上。そして、区画整理による労働生産性の向上などの効果が期待されています。

友部町でも第四次総合計画で6つの目標に沿った基本施策を定めています。その重点施策の一つとして産業振興プロジェクトがあり、農林業の振興が図られることとなります。そのために農業生産基盤の整備が進められ、その一環として畑地帯の整備が行われています。友部町小原地区の土地改良事業もそのような環境の中で、小原地区土地改良組合が設立され、県の指導を受けながら実施されることになりました。

計画地は常磐線を挟んで北区と南区の二地区に別れていますが、その中でも北地区には山王塚古墳など町内最大の古墳を有する一本松古墳群があり、重要な埋蔵文化財が包蔵されている地域であることは良く知られていました。そのため、町教育委員会は平成14年9月に笠間市文化財審議会委員の能島清光氏に依頼して、小原地区内区画整理（南区）計画地内の6区（一部10区）の試掘による確認調査を実施しました。その結果は、埋蔵文化財確認調査報告書として、平成14年10月9日に友部町教育委員会教育長に提出されました。それによると、古墳時代から奈良・平安時代の集落が全面に営まれていたと判断されると結論付けられました。その結果、県教育委員会の指導を受けて、予定地内の発掘調査を実施することになりました。

2. 地理的歴史的環境

友部町は北西部に、八溝山地から張り出した鷲足山塊に属する山内山（標高200m）、和岡塚（105.4m）、十文字山（112.1m）があり、一帯の丘陵地帯を友部丘陵と呼称している。

南西部は筑波山塊の最東端に位置し、標高228.4mの釜見羅山や富士山（128.1m）など、北部山地に比べて起伏の高い、複雑な山相を示している。町の中心部を占めるのは標高30～40mの台地、東茨城台地と呼ばれている。

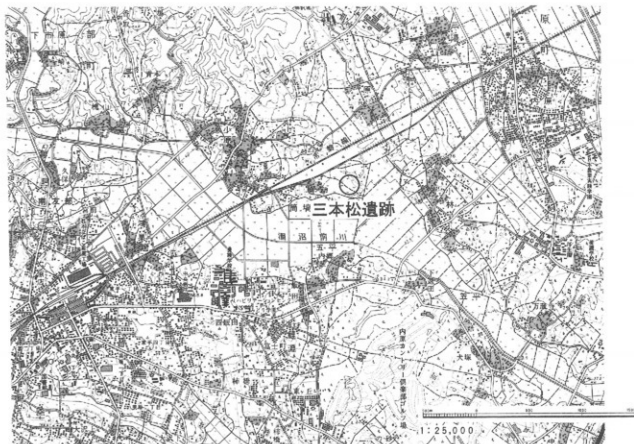
町の中央部には枝折川が東南流し、茨城町で瀧沼川と合流する。南の岩間町との境を東流する瀧沼川は延長63.3キロメートルの1級河川である。笠間市上加賀田から富士山北麓を経て友部町に入り茨城町から瀧沼に注いでいる。瀧沼前川も山内山と上谷原池を水源に東南流し、内原町を経て瀧沼に注いでいる。これら主要河川の流域には水田地帯が拓けている。

友部丘陵から流れ出した瀧沼前川が東茨城台地を下刻し、流域に広大な沖積低地が広がる。遺跡はこの沖積地を望む左岸の台地上に位置している。

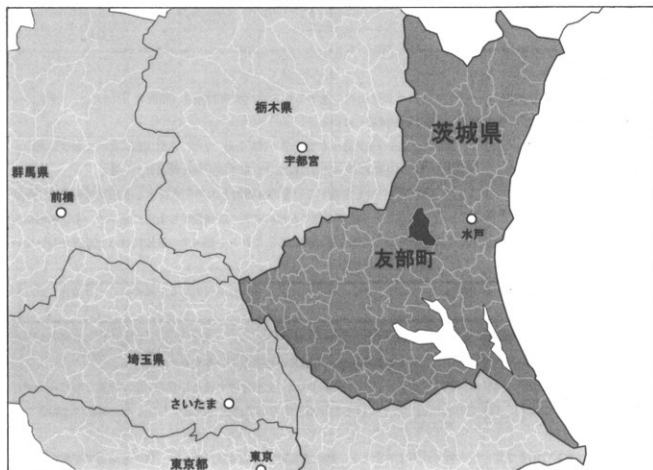
小原地区筒堀の集落の東側一帯に広がる遺跡の一角、3,400㎡を調査対象とし、弥生終末から古墳・古代の各時代にわたる聚住居跡が発見された。周辺にはかなり広大な範囲に亘って遺跡が展開しているものと思われる。

友部町周辺での弥生時代の遺跡は、瀧沼川流域並びに瀧沼前川流域で土器片散布地として八ヶ所が確認されているが、発掘調査されたものはない。採集された土器片の多くは弥生後期後半の十王台式土器を中心にした終末期の土器群である。

古墳時代になると町内全域に古墳が造られるようになる。15の古墳群、12の単独古墳と、4基の連滅古墳が知られてい



第1図 遺跡位置図 (S=1/25,000)



第2図 友部町位置図

る。一本松古墳群は小原地区では最も南東端に位置し、三本松遺跡のすぐ北側に隣接する古墳群である。その中の山王塚古墳は友部町最大の古墳である。現状は直径50m、高さ7.3mの有段の古墳で幅25mの周堀がある。現状は円墳であるが、常磐線建設工事で前方部が削られた前方後円墳であったとの説もある。もしそうであるならば、僅に100m近い県内屈指の古墳となる。諏訪古墳は推定全長52.8m、堀を含めると全長62.4mの前方後円墳で、山王塚古墳に次ぐ町内第二の古墳となる。この地の被葬者の力の大きさを感じると共に、旧茨城国の中心地であったことを物語っている。本遺跡の集落が、これら被葬者と密接な関係にあったことは想像に難くない。

律令時代の主要官道であった古代東海道は常陸四府(石岡市)に達し、その先は、東海東山連絡路として陸奥国松田駅で東山道と連絡していた。友部町仁・古田宇五万堀には、瀬沼川対岸、岩間町安居から水戸市に通ずる古道痕跡が残されている。近年茨城県教育財団の調査によって、9世紀の道路遺構が検出され、東海東山連絡路であることが明らかとなった。

友部町は主要官道の通過点であり、その地理的位置は極めて重要であった。遺跡からは官衙施設は検出されていないが、堅穴建物の密集度から、規模の大きな集落の一部であったことが伺える。

3. 調査方法

三本松遺跡は、丘陵端部に位置し、現況は畑地である。南側には沖積低地が広がっている。調査は、町教育委員会ならびに小原地区土地改良組合の立会いの下に調査範囲の確認を行うと共に、調査区の位置をトータルステーションを用いて決定した。

調査範囲約3,400㎡を0.45のバックホー平爪により調査員立会いの下、慎重に機械掘削を実施した。掘削深度については、確認調査の観察記録に基づき、掘削面をローム層直上とした。これは畑地の耕作によりローム層上面まで耕されていることが判明していたことによる。

掘削した耕作土は埋め戻しのために、調査区外南側に仮置きした。

調査区は国家座標を基準として、5m方眼のグリッドを設定した。出土遺物は遺構外出土のものはグリッド一括で取り上げ、遺構内のは、基本的には遺構一括とし、堅穴住居跡などについては、カマド内・貯蔵穴・ピット内・床面直上などに分離した。完形土器・大形破片・特殊遺物などは地点を記録して取り上げることとした。

遺構平面図・断面図の縮尺は原則1/20とし、長大な溝跡など例外的なものは1/40、1/60などとして実測した。調査区全体の遺構配置図ならびにコンタ図はセスナ機による写真測量とし、縮尺は1/200とした。なお、住居跡等のセクションは原則カマドを中心に断面図の作成を行った。

遺構番号は遺構ごとに調査順に連番号を付し、調査の結果、攪乱など遺構から除外されたものは欠番とした。

調査体制は、町教育委員会ならびに県教育委員会の指導を受けて、大成エンジニアリング株式会社歴史文化財調査部の調査員2名と地元小原地区の有志の方々30名が作業員として協力いただいた。

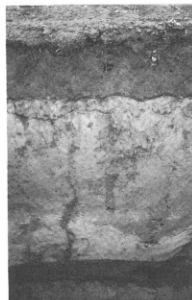
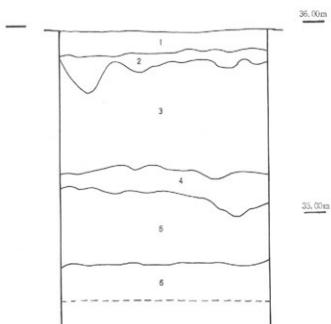
4. 基本層序

調査区北側の調査区域に3m×3m幅、深さ2mの深掘グリッドを設定して、三本松遺跡での基本的土層の観察を行った。この付近での地下水位が浅いためか、下層に行くにしたがい、土壌の含水率が高くなってきた。

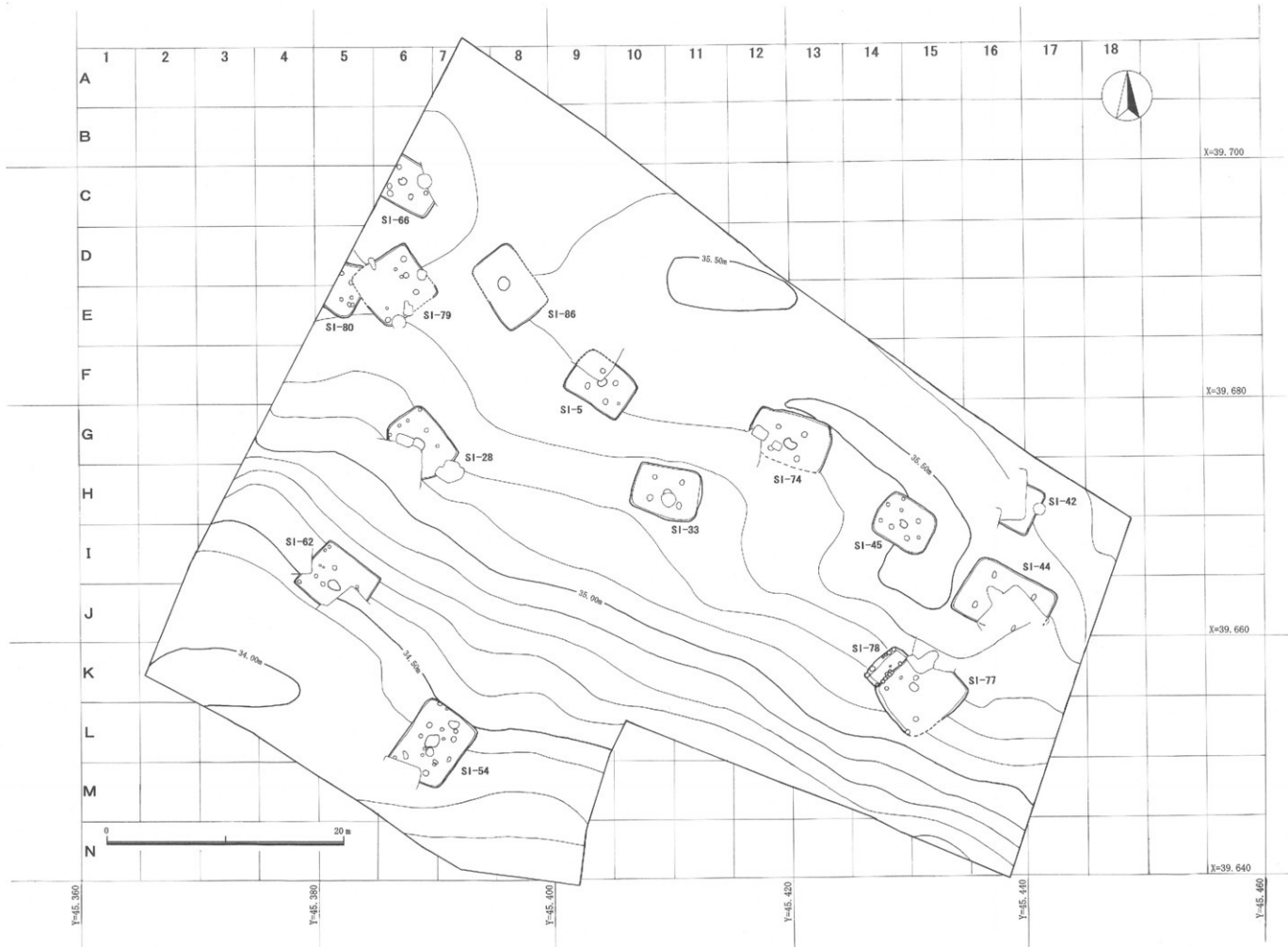
表土は耕作のため攪拌されており、古代ならびに縄文層にあたる富士黒色土層は分離できず、表土層として一括されてしまった。

土層説明

1. 表土層
2. ソフトローム
3. ハードローム
4. ハードロームにアワ土が混じる土
5. 黄褐色火山灰土 (通称アワ土)
6. ハードローム しまりがやや弱い土



第3図 基本層序



第4図 遺構配置図(弥生時代)

Ⅱ 検出遺構

1. 竪穴住居跡

(1) 時代区分について

調査の結果、弥生時代から古墳時代、奈良平安時代に亘る合計93件の竪穴住居跡が検出されている。その分布状況は調査範囲3,400㎡の区域のほぼ全域に亘っており、特に調査区西側では遺構の切り合い、重複が若しく密集している状況が看取できる。また、東西南北、どの壁にも遺構がかかっており、遺構の分布はさらに調査区外へと広範に広がっているものと思われる。

これらの遺構、特に竪穴住居跡の帰属時代については、調査方法（I-3）でも述べたが、全ての遺構の検出面が同一面（ローム面まで耕作による削平）であることや、覆土の色調が非常に酷似していたことなどからプラン検出時での帰属時代の判断が、調査期間の関係もあり、困難であった。このため、時代の判断は、遺構掘削後に切りあいによる新旧、炉やカマドの有無、遺構に伴うであろう出土遺物（カマドや床面直上）の時代・時期などを掘り所に順次決定してゆく方法をとった。ただし、複数の遺構が重複関係にあるものや年代判断の出来る出土遺物の乏しい遺構などについては、調査終了後、整理段階において遺構の形状や主軸の方向、配置などを考慮し時代の決定を行った。この結果、それぞれの遺構の時代区分は次のようになる。

弥生時代（15軒）……………SI-5・SI-8・S SI-33・SI-42・SI-44・SI-45・SI-54・SI-62・SI-66・SI-74
SI-77・SI-78・SI-79・SI-80・SI-86

古墳時代（14軒）……………SI-3・SI-4・SI-14・SI-15・SI-22・SI-24・SI-27・SI-30・SI-32・SI-43・
SI-53・SI-63・SI-71・SI-93

奈良平安時代（64軒）……SI-1・SI-2・SI-6・SI-7・SI-8・SI-9・SI-10・SI-11・SI-12・SI-13・
SI-16・SI-17・SI-18・SI-19・SI-20・SI-21・SI-25・SI-26・SI-29・SI-31・
SI-34・SI-35・SI-36・SI-37・SI-38・SI-39・SI-40・SI-41・SI-46・SI-47・
SI-48・SI-49・SI-50・SI-51・SI-52・SI-55・SI-56・SI-57・SI-58・SI-59・
SI-60・SI-61・SI-64・SI-65・SI-67・SI-68・SI-69・SI-70・SI-72・SI-73・
SI-75・SI-76・SI-81・SI-82・SI-83・SI-84・SI-85・SI-87・SI-88・SI-89・
SI-90SI-91・SI-92・SI-94

※SI-23は欠番

以下、時代区分ごとに詳細を報告する。

(2) 弥生時代

S I - 5（第5図）

本遺構は調査区中央やや西寄りのF9・10グリッドに位置し、北西部分はSI-4（古墳時代）に壊されている。規模は、長軸5.5m、短軸4.35m、確認面からの深さは0.05mを測る。形状は東西方向に長軸をもった隅丸長方形を呈す。

炉はほぼ中央に構築されているが、北西部はSI-4に削平されている。南北方向に長軸をもった楕円形を呈し、底部には僅かに焼土が確認できる。

床は壁際が若干窪んでいるもののほぼ平坦で、全面的にやや硬化している。壁は全面とも外側に傾斜して立ち上がって

いる。覆土は中央部で黒褐色土・暗褐色土2層に区分される。主柱穴は、炉を中心に4基がほぼ等間隔に配置した状態で検出された。また、西壁よりに斜めに掘り込まれたピットが1基検出された。

SI-28 (第5図)

本遺構は調査区西壁近くのG6・7グリッドに位置し、SI-27(古墳時代)と重複し、これに南1/4程が壊されている。また、東壁部分などにも擾乱が絡んでいるため、あまり遺存状態は良くない。規模は、長軸5.8m、短軸4.2m、確認面からの深さは0.2mを測る。形状は東西方向に長軸をもった不整な隅丸長方形を呈す。

炉はほぼ中央に構築されているが、南側は若干SI-27に削平されている。東西方向に長軸をもった楕円形を呈し、中心部には長さ30cm程の炉石が置かれており、この周囲には焼土が僅かながら残っている。

床はほぼ平坦で、中心部を主体に僅かながら硬化している。壁は南壁がほとんど壊されているが、残存壁面はほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は5層に区分されるが、東側は単層に近い。また、西壁際を中心に計6基のピットが検出された。

SI-33 (第6図)

本遺構は、調査区中央部のH10グリッドに位置し、全体的に上部が削平されている。また、中央付近を径2m程の擾乱に切られている。規模は、長軸5.9m、短軸4.5m、確認面からの深さは0.15mを測り、形状は、東西方向に長軸をもった隅丸長方形を呈する。

炉は中央部に土坑が絡むためこれに壊されているが、この土坑の北端に僅かながら炉の痕跡が確認できた。

床はほぼ平坦だが、西側部分は僅かながら高くなっている。壁は全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。主柱穴は中央に4基、ほぼ等間隔に配置された状態で検出された。各柱穴はほぼ楕円形を呈し、床面から0.7m程掘り込まれている。覆土は、暗褐色土主体で3層に区分されるが、中層が大半を占めている。

SI-42 (第7図)

本遺構は調査区北東隅のH16グリッドに位置し、西側はSI-39・41(奈良平安)と重複しており、これらに大きく壊されている。また、東壁には上坑状の擾乱が絡んでいる。確認範囲での規模は、南北4.1m東西2.5m、確認面からの深さは0.1mを測る。形状は西半分が大きく壊されているため正確な形状は不明だが、長方形であると思われる。

SI-44 (第6図)

本遺構は調査区東壁近くのJ16グリッドに位置し、SI-43(古墳時代)と重複し、これに南半分程が大きく壊されている。規模は、長軸7.5m、短軸5.3m、確認面からの深さは0.3mを測る。形状は東西方向に長軸をもったやや歪んだ隅丸長方形を呈する。

炉は中央部がSI-43に削平されているため、遺存状態は悪いが中心部には焼土と被熱の痕跡が認められる。

床はほぼ平坦で、全体的に僅かながら硬化している。壁はほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は東側が削平されているため確認できないが、西側では大きく3層に区分される。また、主柱穴(P1・2・3・4)が4基ほぼ等間隔の配列で検出された。4基とも南北方向に長軸を持った長楕円形を呈し、床面からの深さは0.8m程を測る。

SI-45 (第7図)

本遺構は調査区北東近く、I14・15グリッドに位置している。規模は、長軸5.0m、短軸3.9m、確認面からの深さは

0.1mを測る。形状は東西方向に長軸をもった隅丸長方形を呈する。炉はほぼ中央部に位置し、火床部には焼土と被熱の痕跡が認められる。深さは0.05mを測る。

床はほぼ平坦で、全体的に僅かながら硬化している。壁はほぼ垂直に近い角度で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体で2層に区分される。主柱穴は中央部に4本が方形に並び、さらに入り口の施設に伴う可能性が考えられる柱穴が、西壁の近くに1.5m等間で2個、北壁際西よりに1個穿たれている。

SI-54 (第7図)

本遺構は調査区南壁近くのL6・7グリッドに位置し、南壁部分はSI-12(奈良平安時代)と重複し、これに壊されている。全規模は、長軸6.7m、短軸5.1m、確認面からの深さは0.26mを測り、形状は南北方向に長軸を持った長方形を呈する。

炉はほぼ中央部に構築されており、中心部には自然礫が1点埋設された状態で検出された。

床は所々凹凸があるもののほぼ平坦で、全体的にやや硬化している。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層に区分されるが、他の2層は部分的な堆積状態でありほぼ単一層に近い。床面からは4本の主柱穴(P2・3・4・10)の他、炉を中心に多数のピットが検出された。

SI-62 (第7図)

本遺構は調査区南西部のI5グリッドに位置し、SI-63(古墳時代)と重複しており、これに南東部分を大きく壊されている。また、西壁部分も一部SI-70(奈良平安時代)に壊されている。規模は、長軸5.8m、短軸5.0m、確認面からの深さは0.2mを測る。形状は東西方向に長軸を持った長方形を呈する。

炉は中央部やや南寄りに構築されている。火床部には若干の焼土と被熱の痕跡が認められる。

床はほぼ平坦だが、中央部に向かって若干窪んでいる。壁は全面とも外側に傾斜して立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体で2層に区分される。主柱穴は、3個(P1・7・5)本検出されているが、4本目は推定位置がSI-63に壊されているため確認できないがおそらく4本の主柱穴であろう。また、西壁際にもピットが並んで検出されている。

SI-66 (第8図)

本遺構は調査区北西部西壁際のC6グリッドに位置し、北東部分はSI-12(奈良平安時代)と重複し、これに壊されている。また、西側約1/3は調査区外のため未調査である。確認範囲での規模は、長軸4.3m、短軸4.0m、確認面からの深さは0.18mを測る。形状は西が調査区外へ続いているため全容は把握できないが、東西方向に長軸を持った長方形であると思われる。

炉は調査区はほぼ中央近くで検出されている。床面から若干窪んだ程度の炉で、底部に僅かに被熱の痕跡が確認できる。

床は所々凹凸があるもののほぼ平坦で、中央部は若干硬化している。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体で2層に区分される。調査区断面での確認であるため、上層はかなり上から堆積していることが確認できる。床面からは5個のピットが検出されているが、このうち炉を囲む3基(P2・4・5)は、配置状況からして主柱穴であると思われる。4本目の推定位置は攪乱により壊されている。

SI-74 (第11図)

本遺構は調査区中央部北東寄りのG13グリッドに位置し、南側はSI-34・75(奈良平安時代)、東側はSI-37(奈良平安時代)と重複し、これらに壊されている。また、攪乱も多く絡むため遺存状態は良く、南側が大きく攪乱されているた

め正確な規模は不明だが、確認範囲では長軸6.9m、短軸は4.0m程で確認面からの深さは0.2mを測る。形状は東西方向に長軸を持った長方形を呈する。

炉はほぼ中央部に構築されている。中心部には被熱した自然煤が1点置かれており周囲にも焼土が多く残っている。

床は所々凹凸があるもののほぼ平坦で、全体的にやや硬化している。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は4層に区分される。炉を囲んだ状態で4基の支柱穴がほぼ等間隔で配置されている。

SI-77 (第9図)

本遺構は調査区南東部のK15グリッドに位置し、北側・東側はSI-55・76(奈良平安時代)が絡んでおりこれらに壊されている。規模は、長軸6.4m、短軸5.8m、確認面からの深さは0.18mを測る。形状は東西方向に長軸を持った長方形を呈する。

炉は中央部西寄りに構築されている。東西方向に長軸を持った楕円形の炉で、中心部には僅かに焼土が認められる。

床は所々凹凸があるもののほぼ平坦で、部分的ではあるが硬化した箇所も認められる。壁はやや緩やかな傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体で大きく4層に区分される。ピットが数基検出されており、対になるものも(P2・4)もあるが、全体的には、配置に規則性は窺えない。また、南壁下には幅0.22m、深さ0.1m程の周溝が検出されている。

SI-78 (第9図)

本遺構は調査区南東部のK14グリッドに位置し、東側は同時代のSI-77と重複しており、これに大きく壊されている。東側が大きく削平されているため全容は把握できないが、残存部分では南北軸3.7m、東西軸は1.7m程が残存するのみで、確認面からの深さは0.12mを測る。

炉は検出されていない。

床はほぼ平坦で、壁はやや緩やかな傾斜で立ち上がっている。覆土は確認範囲では暗褐色土主体で2層に区分される。東壁を除く全壁下に周溝が検出されており、西側の周溝内に沿った状態でピットも数基検出されている。

SI-79 (第10図)

本遺構は調査区西壁際のE6グリッドに位置し、SI-24・25(奈良平安時代)と重複し、これらに大きく壊されている。遺存状態が悪いため明確には判断できないが、残存部分から推測すると一辺が5.5mほどの方形をした竪穴住居であると思われる。確認面からの深さは、遺存状態の良い北側部分では0.2mを測る。

炉は中央部にかけて大きく削平されているため、痕跡を確認できなかった。

床はほぼ平坦だが、中央部に向かって若干窪んでいる。壁も全体的に残りが悪いが、確認範囲ではほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は北壁近くで部分的に観察できたのみだが、この部分ではほぼ単一層である。

SI-80 (第11図)

本遺構は調査区西壁際のE5グリッドに位置し、北東部分はSI-25(奈良平安時代)と重複し、これに大きく壊されている。西側は調査区外へ続くため未調査である。規模は、南北軸4.4m、東西軸は調査区西壁まで2.4m、確認面からの深さは0.5mを測る。形状は残存部分から推測すると、長方形の竪穴住居であると思われる。

炉は調査範囲では検出されていない。遺構の規模からして調査区西壁外に構築されているものと思われる。

床はほぼ平坦だが、中央部が若干盛り上がりしており、また東壁際は僅かに窪んでいる。壁は、東壁がほぼ垂直に立ち上

がるものの、南北壁はやや傾斜して立ち上がっている。覆土は観察断面北側ではピット状の遺構が絡むためやや込み入っているが、本住居の覆土としては2層で、中央付近で南北に分けられる。東壁際等に5基のピットが検出されている。

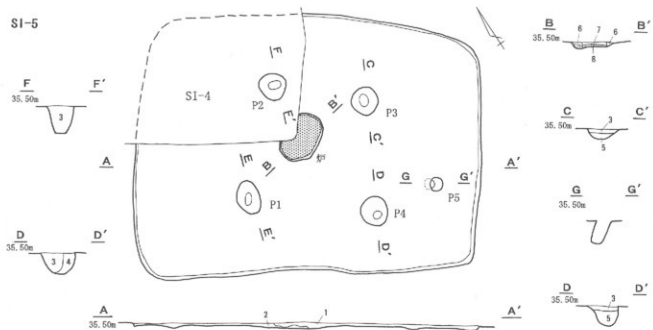
SI-86 (第10図)

本遺構は調査区北西部のE8グリッドに位置し、SI-6・7・10・56(奈良平安時代)と重複し、これらに大きく壊されている。規模は南北軸6.4m、東西軸は東壁の大半が壊されているため不明瞭ではあるが、約4.5m、確認面からの深さは0.18mを測り、形状は残存部分から推測すると、長方形の竪穴住居であると思われる。

炬は床中央部がSI-10に大きく壊されているため、痕跡は不明瞭であるが、焼土範囲が確認された。

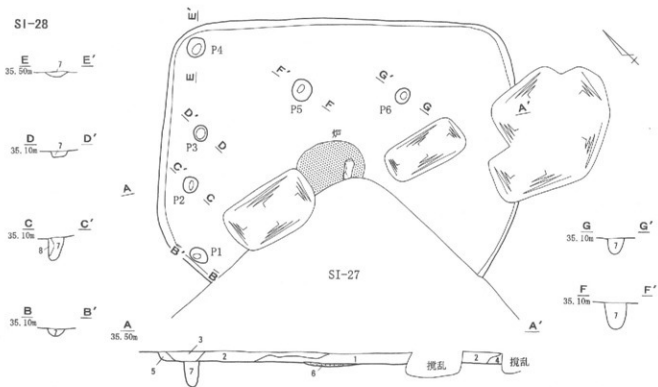
床は所々大きく窪んだ部分が見られる。壁は全体的にやや傾斜して立ち上がっている。覆土は上層に部分的な堆積が見られるが、大別すれば3層に区分できる。柱穴等は検出されていない。

SI-5



- | | | | |
|---------|-------------------|---------|-------------------|
| 1. 黒褐色土 | ローム状、ロームブロックを少量含む | 5. 黒褐色土 | ローム状、ロームブロックを中量含む |
| 2. 暗褐色土 | ローム状、ロームブロックを少量含む | 6. 暗褐色土 | 黒土を少量含む |
| 3. 暗褐色土 | ローム状、ロームブロックを中量含む | 7. 黒褐色土 | ローム状、焼土を微量含む |
| 4. 暗褐色土 | ローム状、ロームブロックを多量含む | 8. 焼土層 | |

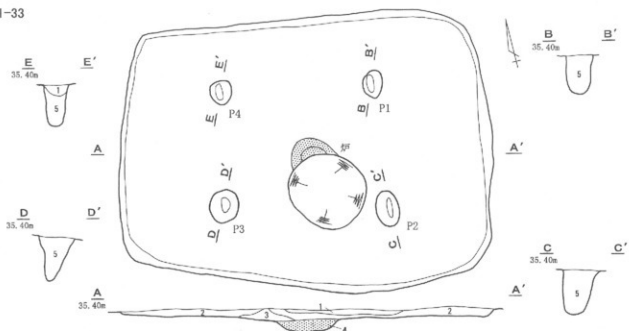
SI-28



- | | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 1. 褐色土 | ローム状を少量含む | 5. 黒褐色土 | ローム状を少量含む |
| 2. 暗褐色土 | ローム状を少量含む | 6. 暗褐色土 | 焼土を少量含む |
| 3. 暗褐色土 | ローム状を多量含む | 7. 褐色土 | ローム状を少量含む |
| 4. 暗褐色土 | ローム状を中量含む | 8. 黒褐色土 | ローム状を多量含む |

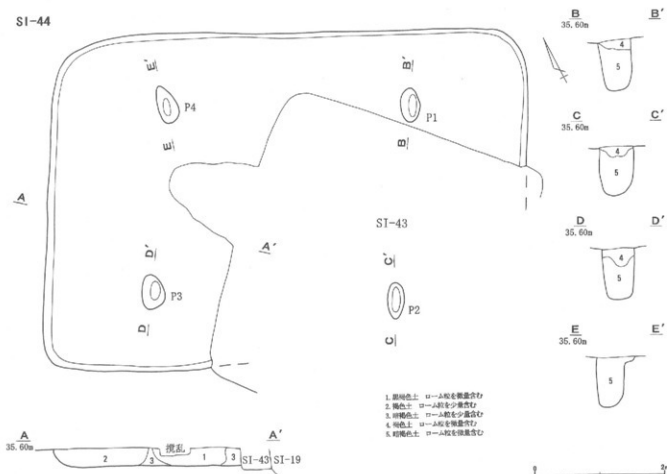
第5図 SI-5・28遺構図

SI-33



1. 黒褐色土 粘粒が少なく、硬まり強い
2. 暗褐色土 粘粒が少なく、やや硬まっている
3. 黒褐色土 ローム殻を少量含む、粘粒が少なく、やや硬まっている
4. 赤褐色土 黄土を少量含む
5. 黒褐色土 ローム殻、ロームブロックを少量含む、粘粒が少なく、やや硬まっている
6. 黒褐色土 ローム殻、ロームブロックを少量含む、粘粒が少なく、やや硬まっている

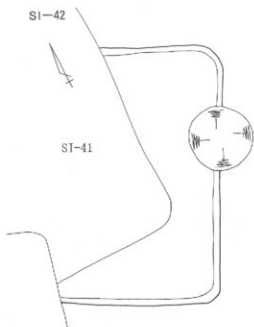
SI-44



SI-43

1. 黒褐色土 ローム殻を少量含む
2. 褐色土 ローム殻を少量含む
3. 暗褐色土 ローム殻を少量含む
4. 褐色土 ローム殻を少量含む
5. 暗褐色土 ローム殻を少量含む

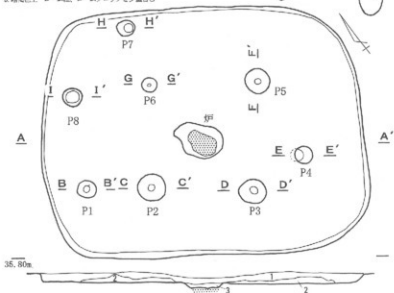
第6図 SI-33・44遺構図



SI-45

H 35.80m H' 35.80m G 35.80m G' 35.80m F 35.80m F'

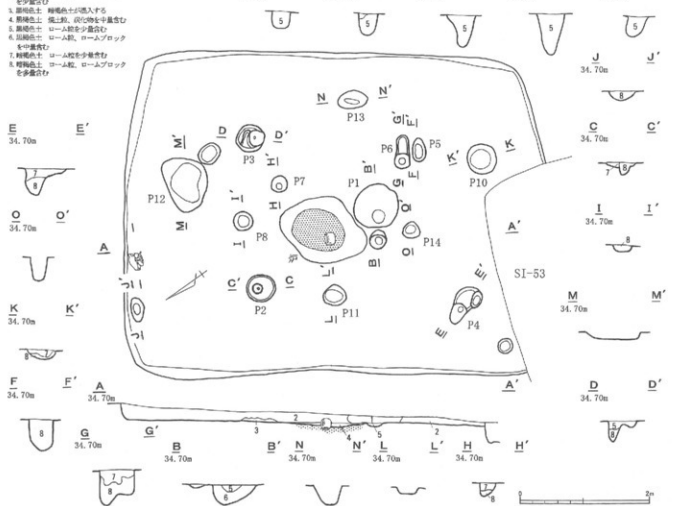
1. 輝褐色土 ローム粒を少量含む
2. 輝褐色土 ローム粒を少量、原色上を少量含む
3. 輝褐色土 焼土質を少量含む
4. 輝褐色土 ローム粒を少量含む
5. 輝褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む



SI-54

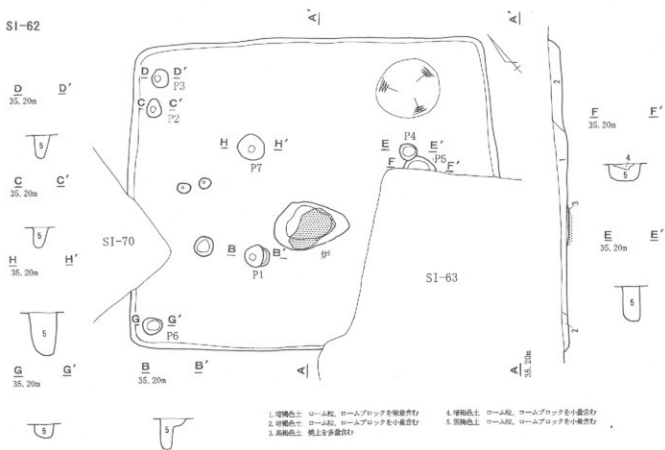
1. 輝褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む
2. 輝褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む
3. 黒褐色土 輝褐色土が混入する
4. 輝褐色土 焼土質、灰化物を少量含む
5. 黒褐色土 ローム粒を少量含む
6. 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む
7. 輝褐色土 ローム粒を少量含む
8. 輝褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む

I 35.80m I' 35.80m B 35.80m B' 35.80m D 35.80m D' 35.80m C 35.80m C' 35.80m E 35.80m E'

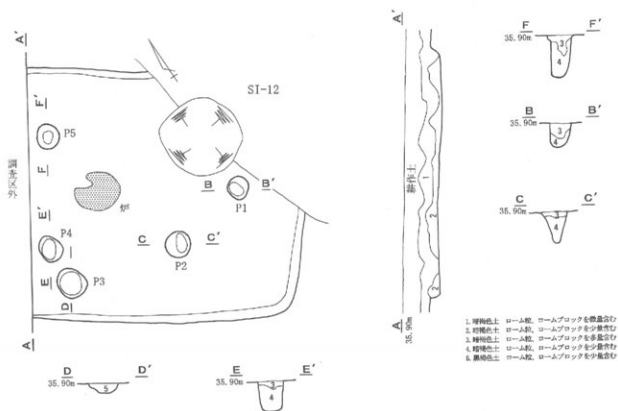


第7図 SI-42・45・54遺構図

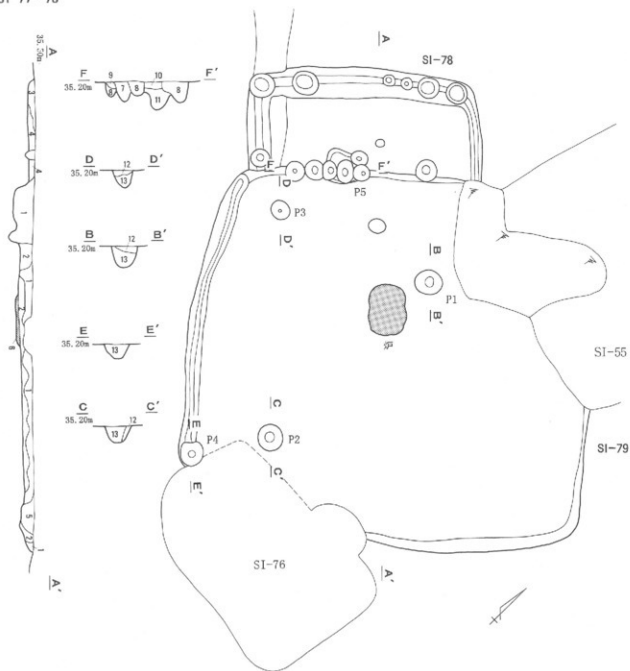
SI-62



SI-66



第8図 SI-62・66遺構図

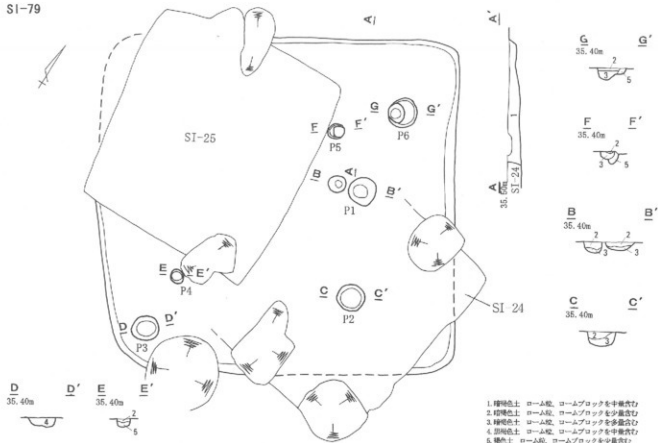


- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1. 赤褐色土 砂礫を少し含む。粘性弱い | 7. 暗褐色土 粘性なし。締まりあり |
| 2. 暗褐色土 黄褐色砂子を少量含む。粘性やや強い | 8. 赤褐色土 粘性なし。締まりあり |
| 3. 暗褐色土 黄褐色砂子を少量含む。粘性やや強い | 9. 暗褐色土 粘性なし。締まりあり |
| 4. 暗褐色土 黄褐色砂子を少量含む。粘性やや強い | 10. 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性なし。締まりあり |
| 5. 赤褐色土 粘性弱い | 11. 赤褐色土 締まりあり |
| 6. 暗褐色土 粘土を含む | 12. 赤褐色土 粘性なし。締まりあり |
| | 13. 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性なし。締まりあり |

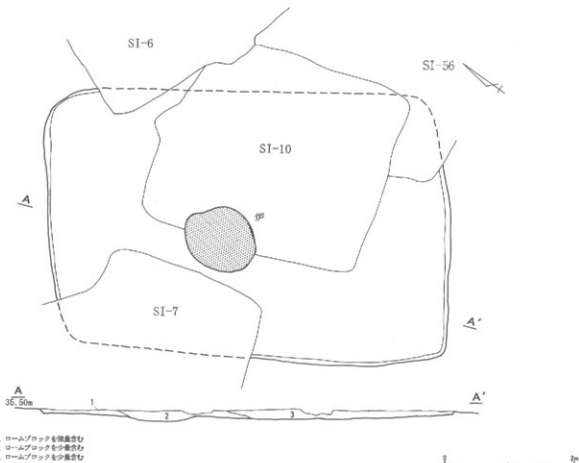


第9図 SI-77・78遺構図

SI-79

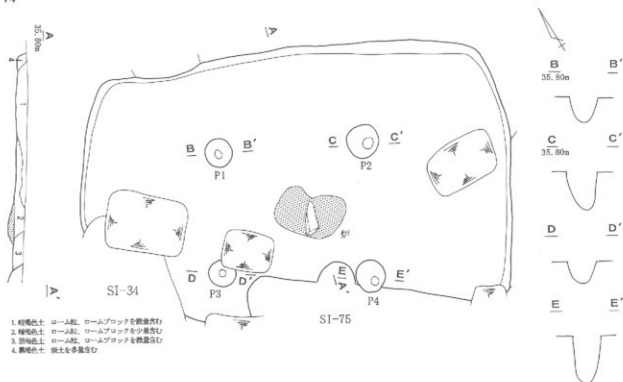


SI-86

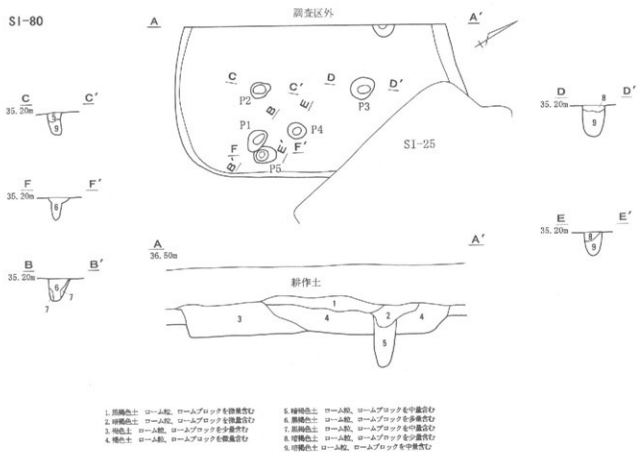


第10図 SI-79・86遺構図

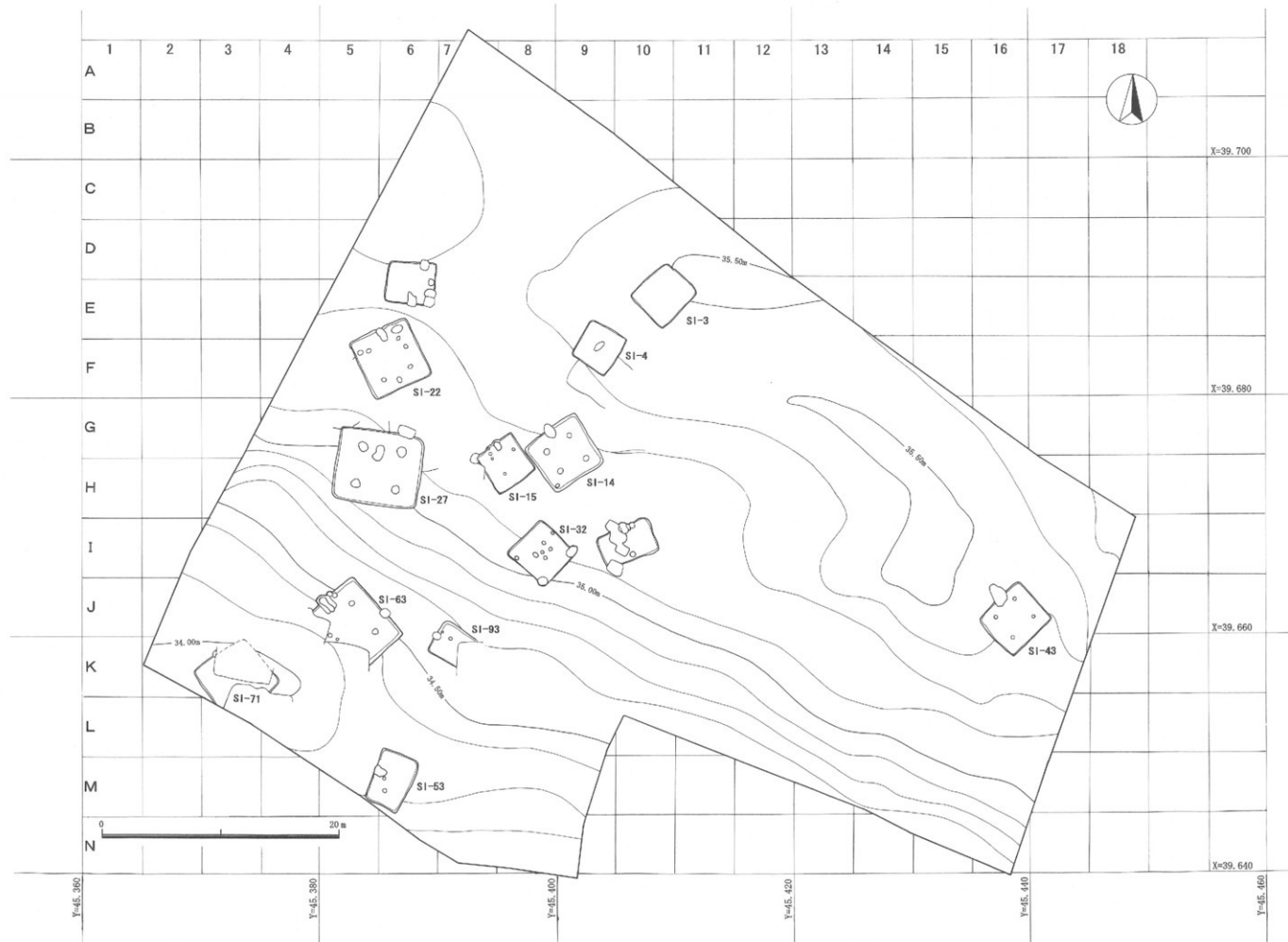
SI-74



SI-80



第11図 SI-74・80遺構図



第12図 遺構配置図 (古墳時代)

③ 古墳時代

SI-3 (第13図)

本遺構は調査区北壁近くのE10グリッドに位置し、SI-2(奈良平安時代)に北西隅部を壊されている。規模は、長軸4.4m、短軸3.9m、確認面からの深さは0.08m程を測り、形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

床は、ほぼ平坦で、不明瞭ではあるが全面的にやや硬化している。壁は、ほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は褐色土が主体で2層に区分される。

SI-4 (第13図)

本遺構は調査区北西部のF9グリッドに位置し、攪乱などは絡まないものの全体的に上部を削平されている。規模は、一辺が3.6m、確認面からの深さは0.15m程の深さを測り、形状は方形を呈する。

床は、床のほぼ中央に土坑状の窪みが検出されたが、被熱の痕跡や焼土などもなく炉とは確認できなかった。

床は、凹凸が多くややでこぼこしており、南側は若干低くなっている。壁は、ほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は黒褐色土主体で4層に区分される。

SI-14 (第14図)

本遺構は調査区中央部西寄りのG9グリッドに位置している。規模は、長軸5.1m、短軸4.8m、確認面からの深さは0.24mを測り、形状は若干歪んではいるが、ほぼ正方形を呈する。

カマドは西壁のほぼ中央に構築されており、半分ほどが壁外に突出した状態で、火床には多くの焼土が残っている。

床は、カマド手前がやや盛り上がっているものの、他はほぼ平坦である。カマド手前から中央部にかけて僅かながら硬質転用が認められた。壁は、全面ともほぼ垂直に近い角度で立ち上がる。径0.4~0.5m、深さ0.3~0.6m程の主柱穴が4本、ほぼ等間隔に配置された状態で検出された。また、南隅にもピットが1基検出されている。周溝はカマド左にあたる西壁南側部分を除いた壁下から検出されている。覆土は、暗褐色土主体の単一層である。

SI-15 (第14図)

本遺構は調査区西側のH8グリッドに位置し、北東部に攪乱が絡んでおり、これに床面まで壊されている。また、南西隅も攪乱により壁上部が削平されている。規模は、長軸3.8m、短軸3.6m、確認面からの深さは0.18mを測り、形状はほぼ正方形を呈する。

カマドは、西壁のほぼ中央に構築されており、壁外に僅かながら突出している。粘土などの構築材は残っていないが、火床部分はローム土が焼けており焼土も多く残っている。

床は、ほぼ平坦に構築されているが、硬化面などは確認できなかった。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。ピットは5基検出されているが、このうちカマド左側の3基は直線状に並んだ状態で、いずれも規模は小さい。覆土は暗褐色土を主体とした単一層である。

SI-22 (第14図)

本遺構は、調査区西壁近くのF6グリッドに位置し、壁際に僅かに攪乱がかかるものの、遺存状態はほぼ良好である。規模は、長軸5.4m、短軸5.3m、確認面からの深さは0.32mを測り、形状はほぼ正方形を呈する。

カマドは、西壁のほぼ中央に構築され、僅かに壁外に突出するものの全体としては壁内に構築されている。遺存状態が良く、左右両袖の粘土も多く残っている。特に右袖部分は残りが良い。火床部分には焼土が多く残っており、ここに上部

器の壺が2個ほど設置されたままの状態出土した。また右袖の脇からも同様の壺が1個出土している。

床は、ほぼ平坦に構築されており、硬化面はカマド手前から中心部および南側にかけて広く分布している。壁は、全面とも床面からはほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。径約30cm、深さ60cm程の主柱穴が4本ほど等間隔に配置された状態で検出されている。また、カマド右脇には長軸1.0m、短軸0.6m、深さ0.45mの楕円形をした貯蔵穴も検出されている。覆土は、3層に区分され、西側は平坦だが東側は流れ込んだような堆積状態である。

SI-24 (第15図)

本遺構は、調査区西壁近くのD6グリッドに位置し、壁際を中心に4箇所ほど擾乱が絡んでいる。SI-25(奈良平安時代)と重複し、これらを切っている。規模は、長軸4.0m、短軸3.5m、確認面からの深さは0.26mを測り、形状は、東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは、東壁の南寄りに位置する。僅かに壁外に突出するものの、全体としてはほぼ壁内に構築されている。火床部分はローム土が焼けており、焼土の残りも良い。

床は、中央部が若干盛り上がっているもののほぼ平坦に構築されている。また、中心部を主体に壁際近くまで広く硬化している。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。カマド左脇から貯蔵穴と思われる径0.5m、深さ0.3m程の円形の上坑(P1)が検出されている。この上坑の中段からは土師器の壺が1個ほど完形の状態出土した。覆土は、暗褐色土主体の単層である。

SI-27 (第16図)

本遺構は、調査区西壁近くのII6グリッドに位置し、SI-26(奈良平安時代)と重複し、これに北西隅上部を壊されている。また、南壁上部にも上坑が絡んでいるが、比較的遺存状態は良好である。規模は、長軸7.2m、短軸6.2m、確認面からの深さは0.5mを測り、今回検出された該期の住居の中でもっとも規模が大きく、形状は、東西方向に長軸をもった隅丸長方形を呈する。

炉は、中央部北寄りに構築されている。床面を僅かに掘り込んだだけの楕円形の炉だが、底部には被熱の痕跡と僅かながら焼土粒も確認できた。

床は、ほぼ平坦に構築されており、中心部を主体に僅かながら硬化している。また、掘り方の調査では中央部から壁に向かって一旦掘り込まれているのが確認できた。壁は、全面とも床面からはほぼ垂直に立ち上がっている。柱穴の規模も大きく径0.8m、深さ0.9mほどの主柱穴が4本、ほぼ等間隔に配置された状態で検出された。覆土は、2層に区分され、上層は黒褐色土、下層は暗褐色土である。

SI-30 (第16図)

本遺構は、調査区中央部のI10グリッドに位置し、南西隅が僅かにSI-29(奈良平安時代)と重複しており、これに上部を若干壊されている。また、カマド左脇から中央部にかけて大きく擾乱が絡んでいるため、あまり遺存状態は良くない。規模は、長軸4.7m、短軸2.9m、確認面からの深さは0.24mを測り、形状は、東西方向に長軸をもった隅丸長方形を呈する。

カマドは、北壁のほぼ中央に位置し、壁外に突出した状態で構築されている。右袖部に若干の粘土が残っており、また火床部にも焼土が確認できた。

床面は、所々凹凸があるもののほぼ平坦で、中央部から東側にかけて広く硬化している。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。南壁中央部近くにピットが検出されている。覆土は、2層に区分されるが、上層は部分的に

堆積するのみで下層が大半を占めている。

SI-32 (第15図)

本遺構は、調査区中央部西寄りのI 8グリッドに位置し、上部を大きく削平されており、また南東隅も土坑に壊されているため遺存状態は悪い。規模は、長軸4.2m、短軸4.0m、確認面からの深さは遺存状態の良い部分でも0.05m程で、形状は、ほぼ正方形を呈する。

炉は、床の中央部やや北寄りに構築されている。床面を僅かに掘り込んだだけの炉であるが、被熱の痕跡は確認できた。

床面は、凹凸が多くややでこぼこしている。壁は遺存状態が悪いため不明瞭ではあるが、確認範囲ではほぼ垂直に立ち上がっている。炉の周側と壁際から計8基のピットが検出された。北東隅の壁際に土坑状の窪みが検出されているが、発掘調査では本住居に絡んだ遺構であるかは不明である。覆土は、ほとんど残っていないが、確認範囲では褐色土主体の単一層である。

SI-43 (第17図)

本遺構は、調査区東壁近くのJ 16グリッドに位置し、西側及び中央北側に径1m程の土坑が絡んでおり、これに床面まで壊されている。規模は、長軸4.7m、短軸4.4m、確認面からの深さは0.34mを測り、形状はほぼ正方形に近い形を呈する。

カマドは、西壁のほぼ中央に位置し、壁外に僅かに突出した状態で構築されている。火床部分には焼土が多く残っており、また構築材と思われる粘土も僅かながら検出されている。

床は、ほぼ平坦だが、壁際は若干低くなっている。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。径0.2m、深さ0.6m程の主柱穴が4本、ほぼ等間隔に配置された状態で検出された。覆土は、2層に区分されるが、上層は西側に堆積するのみで下層が覆土の2/3近くを占めている。

SI-53 (第18図)

本遺構は、調査区南壁際のM 6グリッドに位置し、北東部に土坑状の擾乱が絡むものの、遺存状態は比較的に良好である。規模は、長軸4.7m、短軸3.2m、確認面からの深さは0.2mを測り、形状は、南北方向に長軸をもったやや歪んだ長方形を呈する。

カマドは、西壁のほぼ中央に位置し、壁内に構築されている。両軸の遺存状態が良く、構築時の粘土が多く残っている。火床部分にも焼土が多く残っており、ここに支脚に転用したものと思われるが高杯が逆さの状態で見られていた。

床面は、若干の凹凸があるもののほぼ平坦に構築されている。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。カマド近くにピットが2基検出されているが、配置に規則性は窺えない。幅0.15m、深さ0.1m程の周溝がカマド部分を除く全壁下で検出されている。覆土は、3層に区分され、南側から流れ込んだような堆積状態を呈する。

SI-63 (第17図)

本遺構は調査区南西部のJ 5グリッドに位置し、南半分はSI-57・89(奈良平安時代)に大きく壊されている。また、北面には土坑状の擾乱に壊されている。規模は、東西軸6.54m、南北軸は確認範囲では4.1m、確認面からの深さは遺存状態の良い北側では0.2mを測る。形状は南側が大きく削平されているため正確な形状は把握できないが、正方形ないし長方形であると思われる。

カマドは西壁に位置し、半分程が壁外に突出した状態で構築されており、左右の両袖には多くの粘土が残っている。また、火床にも多くの焼土が残っている。

床はほぼ平坦に構築されている。壁も確認範囲では、ほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗茶褐色土主体の単一層である。主柱穴は、北側に2基検出されており、それ以外のものの推定位置はSI-57・89に壊されているが、その配置からするとおそらく4本柱であると思われる。また、カマド右脇等からは計1基のピットが検出されている。

SI-71 (第18図)

本遺構は調査区南壁際のK3グリッドに位置し、SI-61・72(奈良平安時代)と重複しており、これらに大きく壊されているため遺存状態は非常に悪い。確認範囲では一辺が5.1m程の正方形を呈している。

カマドは西壁のほぼ中央部に焼土の痕跡が僅かに残る程度で、規模等は不明である。

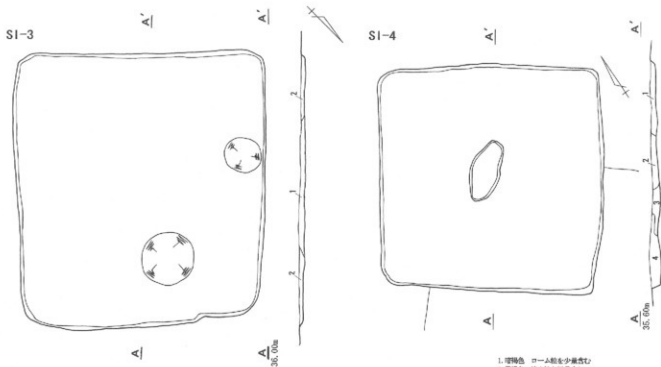
床はほぼ平坦で、壁は垂直に近い傾斜で立ち上がっている。柱穴等は検出されていない。

SI-93 (第18図)

本遺構は、調査区南側のK7グリッドに位置し、SI-50(奈良平安時代)と重複し、これに東半分を壊されている。また、全体的に上部を削平されており、特に南側は大きく削り取られているため遺存状態は非常に悪い。規模は、確認範囲での規模は長軸約2.5m、短軸約2.2m、確認面からの深さは0.1m程を測り、形状は、遺存状態が悪いため不明瞭ではあるが、確認範囲では東西方向に長軸をもった長方形であると思われる。

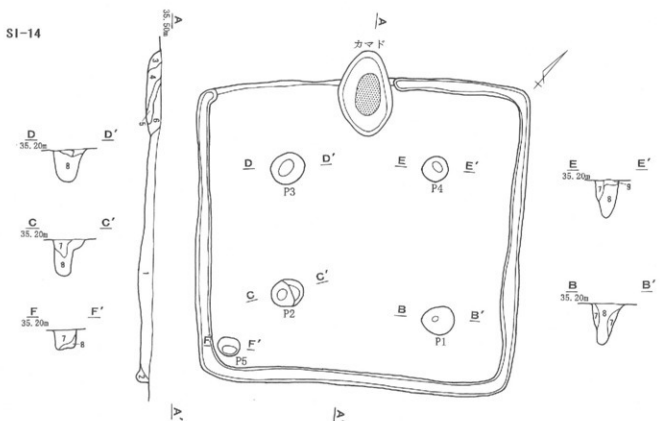
カマドは、西壁のほぼ中央に位置し、壁外に突出した状態で構築されている。火床部には僅かながら焼土が確認できた。

床は、ほぼ平坦である。残存壁面はほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。カマド右脇と中央部付近にピットが1基ずつ検出されている。周溝は、カマド右脇から北壁にかけて検出された。覆土は、ほとんど残っていないが、確認範囲では暗褐色土が主体の単一層である。



1. 暗褐色土 ロームブロックを少量含む、石粒や骨角。
 2. 暗褐色土 粘粒、骨りともに多。

1. 暗褐色 ローム粒を少量含む
 2. 暗褐色 焼土粒を少量含む
 3. 暗褐色 ローム粒・灰土粒、炭化物を少量含む
 4. 暗褐色 ローム粒・ロームブロックを少量含む



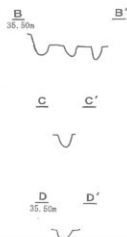
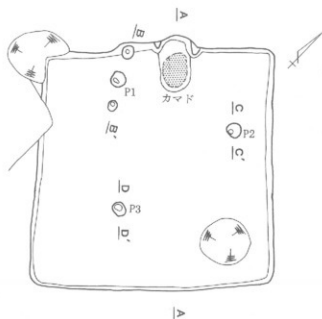
1. 暗褐色土 暗褐色土を多量に含む
 2. 暗褐色土 ローム粒を少量含む
 3. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを多量含む、焼土粒を少量含む
 4. 暗褐色土 白色焼土・焼土粒を多量に含む
 5. 灰質暗褐色土 焼土粒・炭化物を少量含む

6. 褐色土 白色土・焼土粒を多量に含む
 7. 褐色土 ローム粒・ロームブロックを少量含む
 8. 褐色土 ローム粒・ロームブロックを少量含む
 9. 暗褐色土 ローム粒を少量含む



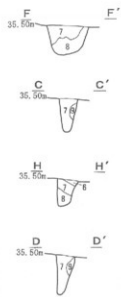
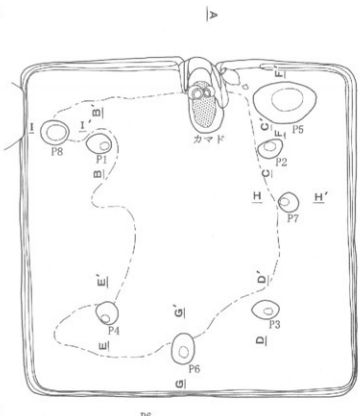
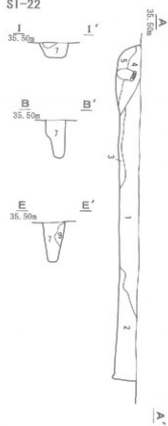
第13図 SI-3・4・14遺構図

SI-15



- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 暗褐色土 ローム粒を微量含む | 5. 黒褐色土 ローム粒を微量含む |
| 2. 黒褐色土 ロームブロックを少量含む | 6. 暗褐色土 焼土粒を少量含む |
| 3. 褐色土 焼土を微量含む | 7. 暗褐色土 ローム粒を少量含む |
| 4. 暗褐色土 焼土粒を多数に含む | |

SI-22

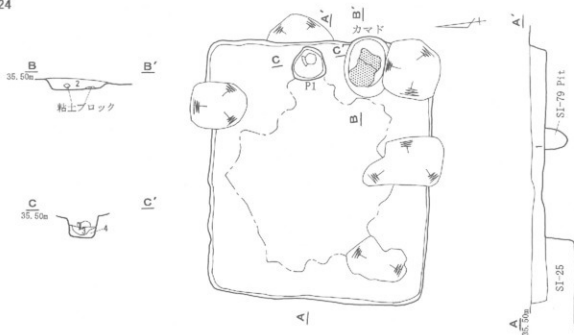


- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 暗褐色土 ロームブロックを少量含む | 5. 暗褐色土 ローム粒を少量含む |
| 2. 褐色土 ロームブロックを少量含む | 6. 暗褐色土 ローム粒を少量含む |
| 3. 暗褐色土 灰色粘土粒子を多数含む | 7. 暗褐色土 ローム粒を多数に含む |
| 4. 暗褐色土 灰色粘土粒子・焼土を少量含む | 8. 暗褐色土 ロームブロックを多数に含む |
| 5. 暗褐色土 灰色粘土粒子・焼土を多数に含む | |



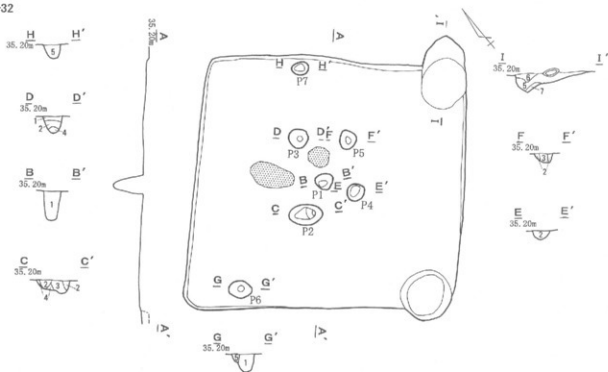
第14図 SI-15・22遺構図

SI-24



1. 粘褐色土 ローム殻・ロームブロックを中量含む
2. 暗褐色土 粘土ブロック・焼土を少量含む
3. 灰褐色土 ローム殻・ロームブロックを少量含む
4. 黒褐色土 ローム殻・ロームブロックを中量含む

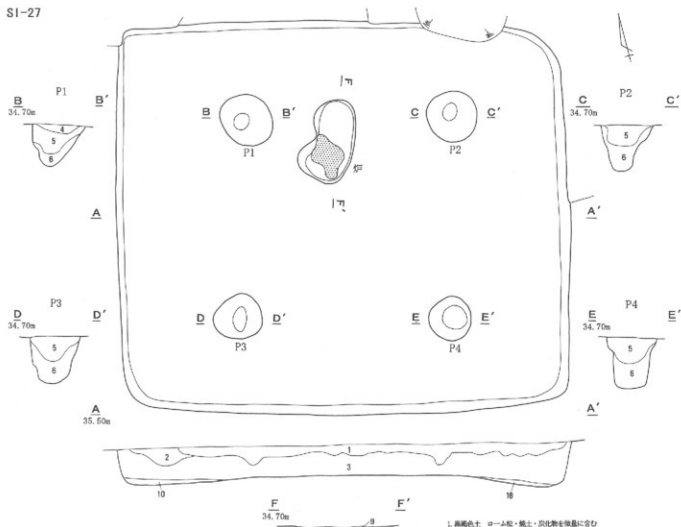
SI-32



1. 粘褐色土 ローム殻・ロームブロックを少量含む、粘性強い、締まり強い
2. 暗褐色土 ローム殻・ロームブロックを多量含む、粘性強い、締まりあり
3. 黒褐色土 ローム殻・ロームブロックを少量含む、粘性なし、締まりあり
4. 粘黄褐色土 粘褐色土、モザイク状に混じる、粘性あり、締まり強い
5. 粘黄褐色土 ローム殻・ロームブロックを多量含む、粘性なし、締まり強い
6. 褐色土 ローム殻を少量含む、粘性強い、締まり強い
7. 灰褐色土 褐色土に少量混じる、粘性あり、締まりあり

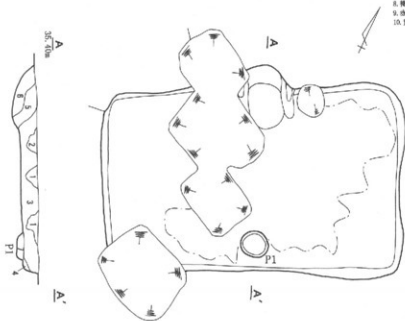
第15図 SI-24・32遺構図

SI-27



1. 黒褐色土 ローム粒・焼土・灰化物を多数に含む
2. 暗褐色土 ローム粒を少量、焼土を微量含む
3. 暗褐色土 ローム粒を少量含む
4. 褐色土 ローム粒を少量含む
5. 暗褐色土 ローム粒を少量含む
6. 暗褐色土 ローム粒を多数に含む
7. 暗褐色土 焼土を少量含む
8. 褐色土 焼土を少量、ローム粒を少量含む
9. 赤褐色土 焼土を多数に含む
10. 黄褐色土 ローム粒・ロームブロックを多数含む

SI-30

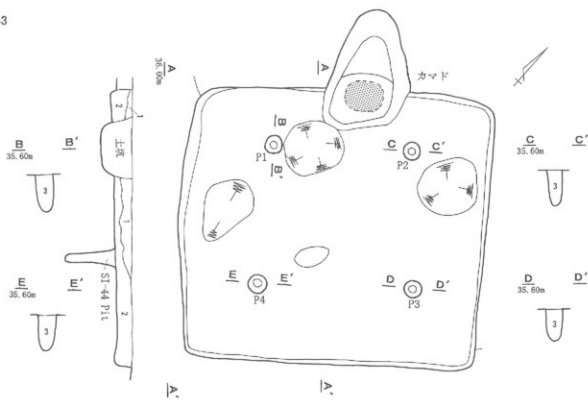


1. 暗褐色土 ローム粒を少量含む、粘性なし、締まりなし
2. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを多数に含む、粘性あり、締まりなし
3. 暗褐色土 ローム粒を少量、ロームブロックを少量含む、粘性あり、締まりなし
4. 暗褐色土 暗褐色土がモザイク状に混じる、粘性あり、締まりあり
5. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを多数に含む、粘性あり、締まりあり
6. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを多数に含む、粘性なし、締まりなし
7. 暗褐色土 ローム粒を微量に含む



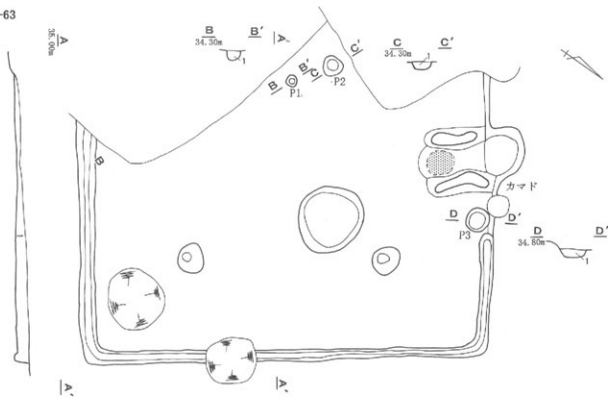
第16図 SI-27・30遺構図

SI-43



1. 厚褐色土 ローム粒・ロームブロックを多数含む。粘性あり、締まりあり
2. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性あり、締まりあり
3. 厚褐色土 ローム粒・ロームブロックを多数含む。粘性あり、締まりあり

SI-63



1. 暗褐色土 ローム粒を多数含む。粘性あり、締まりあり

1. 厚褐色土



第17図 SI-43・63遺構図

SI-53

B

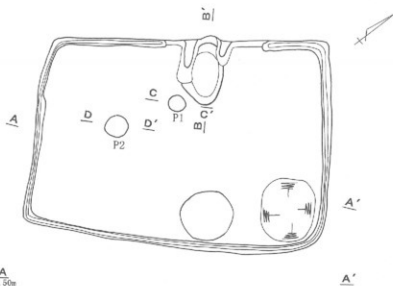
B'

C
34.50m

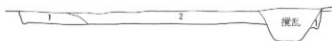
C'

D
34.50m

D'

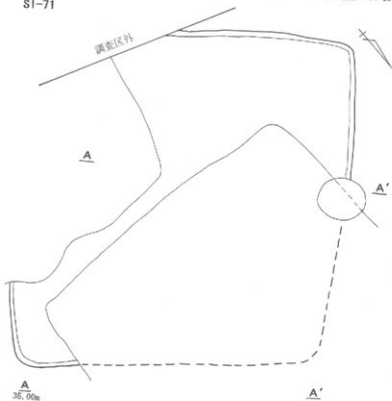
A
34.50m

A'



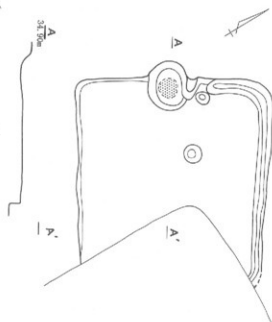
1. 黒褐色土 ローム粒子を散見含む。粘りなし。跡残りあり
2. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを散見含む。褐色土がモザイク状に混じる。粘性あり。跡残りあり
3. 暗褐色土 白色土がモザイク状に混じる。石粒なし。跡残りあり
4. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。泥化層・粘土を散見含む。粘性あり。跡残りあり
5. 暗褐色土 粘土・焼土ブロックを散見含む。粘りなし。跡残りあり
6. 褐色土 ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。粘性あり。跡残りあり
7. 褐色土 ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。
8. 暗褐色土 ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。

SI-71

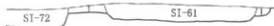
A
35.00m

A'

SI-93

A
34.50m

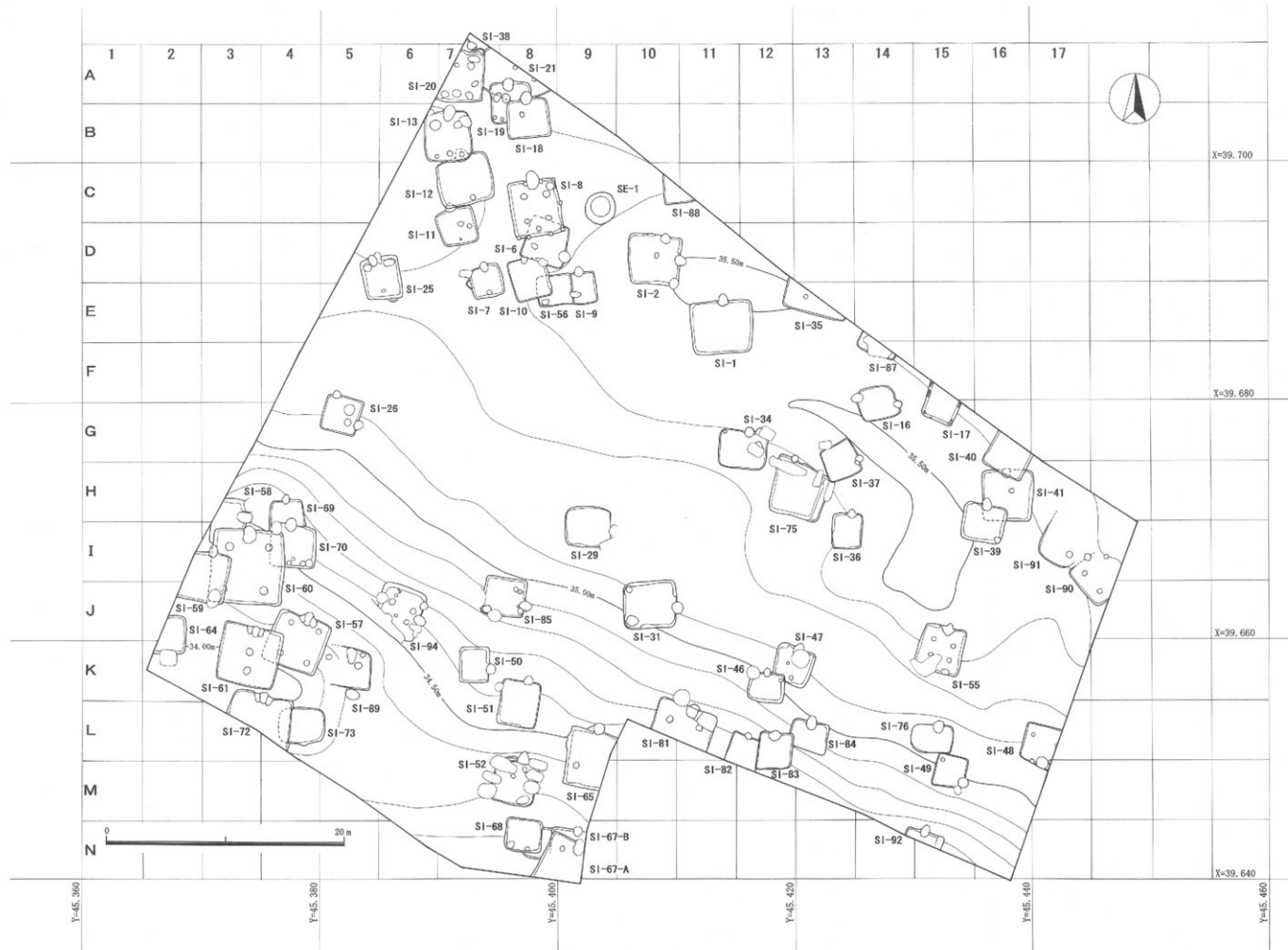
A'



1. 暗褐色土



第18図 SI-53・71・93遺構図



第19図 遺構配置図 (奈良・平安時代)

③ 奈良・平安時代

SI-1 (第20回)

本遺構は調査区北壁近くのE11グリッドに位置し、遺存状態は他の遺構との重複関係もなく良好である。規模は、長軸5.25m、短軸4.5m、確認面からの深さは0.19mを測り、形状は東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央の壁外に突出した状態で構築され、先端部では煙道の痕跡と思われる浅い掘り込みが確認されている。両袖部では構築剤の白色粘土と共に土師器の妻が逆さの状態で見出されている。火床は僅かに窪んだ状態で焼土も少量ながら確認できた。

床は中央部がやや窪んでいるが、全体としてはほぼ平坦に構築されており、カマド右袖付近から中央部および東側にかけて僅かながら硬化した面が確認できた。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている覆土は暗褐色土の単一層であるが、南側では流れ込んだような状態で2層に区分される。周溝は北壁のカマド西側を除いた全壁下から検出されている。

SI-2 (第20回)

本遺構は調査区北西部北壁近くのD10グリッドに位置し、上部は大きく削平され、南東隅は土坑状の攪乱で床面まで壊されている。規模は、長軸4.4m、短軸4.2m、確認面からの深さは遺存状態の良い部分で0.06m程である。形状は若干歪んではいるが、ほぼ正方形を呈す。

カマドは住居の東壁と北壁で検出されている。遺存状態および硬化面の分布状況からして東壁のカマドの方が新しいと思われる。東壁のカマドは壁のほぼ中央に位置し、壁外に大きく突出した状態で構築されている。北壁のカマドは壁の中央やや東寄りに位置し、壁の内側に構築されている。両カマドとも火床部分からは焼土が検出されている。

床は、中央部にピット状の窪みがあるもののほぼ平坦に構築されており、東カマド手前から中央部にかけて広範囲に硬化している。壁は、遺存度が悪いためほとんど残っていない部分もあるが、確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。周溝はカマド部分を除く全壁下から検出されている。

SI-6 (第21回)

本遺構は調査区北西部のD8グリッドに位置し、全体的に上部が大きく削平され、南壁を中心に所々攪乱で床面まで壊されている。規模は、長軸3.75m、短軸3.4m、確認面からの深さは0.2mを測り、形状はやや歪んだ長方形を呈す。

カマドは東壁の南側に大きく突出した状態で構築され、火床中心部には僅かに焼土が残っている。

床は、中央部が少し盛り上がった状態で、全体的にややでこぼこしている。硬化面は不明瞭ではあるがカマド手前等に僅かに分布している。壁は、遺存状態が悪いものの、確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。また、東壁北側の壁下が僅かに窪んでおり、周溝の痕跡と思われるが判然としない。覆土は暗褐色土主体の単一層である。

SI-7 (第21回)

本遺構は調査区北西部のD7グリッドに位置し、西側に攪乱が絡み、特に北西隅は床面まで壊されている。規模は、長軸2.7m、短軸2.6m、確認面からの深さは0.4mを測る。形状は若干歪んではいるが、ほぼ正方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に構築されている。半分ほどが壁外に突出した状態で、左右の袖部分には構築時の粘土が残っている。また、火床部分にも少量ながら焼土が残っていた。

床はほぼ平坦で、中央部から南壁近くまで硬化している。壁は全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は明褐色土主体の単一層である。周溝はカマドのある北壁部分を除いた壁下から検出されている。南壁近くには径0.4

m、深さ0.3m程の柱穴が1基検出されている。

SI-8 (第21図)

本遺構は調査区北西部のC8グリッドに位置し、SI-6(奈良平安時代)と重複し、これに南側上部を壊されている。規模は、長軸4.6m、短軸4.2m、確認面からの深さは0.3mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央部に構築されている。壁外に突出した状態で、火床には多くの焼土が残っている。

床は中央部が僅かに盛り上がっているものの、全体としてはほぼ平坦で、カマド手前から中央部にかけて僅かながら硬化している。本住居の床は、中央部は掘り込まれていないものの壁下は大きく掘り込まれており、この部分を掘め戻して構築されているのが掘方の調査で確認されている。壁は全面ともほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は大きく3層に区分されるが、上層が覆土の半分ほどを占めている。周溝はカマド右にあたる北壁東側部分を除いた壁下から検出されている。北東隅からは径60cm、深さ40cm程の土坑状の窪みが検出されており、貯蔵穴であると思われる。また、径0.4~0.5m、深さ0.5~0.7m程の支柱穴が4本、ほぼ等間隔に配置された状態で検出された。他にカマドの両脇に2基、南壁中央部近くや東壁、南壁際でも2基が対になって検出されている。

SI-9 (第31図)

本遺構は調査区北西部のE9グリッドに位置し、全体的に上部を床面近くまで削平されている。また、西側はSI-56(奈良平安時代)と重複しており、これに床面まで壊されている。規模は、長軸2.7m、短軸は約2.3m、確認面からの深さは0.08m程である。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、壁外に大きく突出した状態で構築されており、先端部には須恵器の坏が逆さまに置かれていた。火床部分からは焼土が少量確認されている。

床はほぼ平坦で、カマド手前から南壁にかけて広く硬化している。壁は遺存状態が悪いものの、確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は明褐色土主体の単一層である。遺存状態は悪いものの、東壁下に一部周溝が検出されている。

SI-10 (第22図)

本遺構は調査区北西部のD8グリッドに位置し、全体的に上部が削平されおり、中央部には攪乱が数箇所入っている。北東隅はSI-6、これに床面近くまで壊されているため、遺存状態は非常に悪い。規模は、長軸3.6m、短軸3.3m、確認面からの深さは0.07m程である。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、壁外に僅かに突出した状態で構築されている。火床部分からは焼土が少量確認されている。

床は全体的に凹凸が著しく、中央部は僅かながら硬化している。壁は遺存状態が悪いものの、確認範囲では傾斜して立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。遺存状態は悪いものの東壁下に一部周溝が検出されている。

SI-11 (第22図)

本遺構は調査区北西部のD7グリッドに位置し、遺存状態は良好である。規模は、長軸3.2m、短軸3.1m、確認面からの深さは0.35mを測る。形状は若干歪んではいいるが、ほぼ正方形を呈する。

カマドは北壁の中央やや西寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には、支脚として使用さ

れていたものと思われるが、長方形に加工された礫が直立した状態で残存している。そして礫の上には坏が逆さまに被せられた状態で置かれていた。また、この礫の周囲には僅かながら焼土が確認できた。

床はほぼ平坦で、中央部は広く硬化しており、南壁近くには長さ20cm程の自然礫が1点検出されている。壁は全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。周溝はカマドを除いた全壁下から検出されている。カマド手前と床中央部近くから土坑状の窪み（P3）が検出されている。また、南壁と東壁近くからはピットが3基検出されている。

SI-12（第23図）

本遺構は調査区北西部のC7グリッドに位置し、SI-11・13と重複しており、これに切られている。規模は、長軸4.8m、短軸4.1m、確認面からの深さは0.2mを測る。形状は東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、壁外に突出した状態で構築されている。左右両袖には僅かながら粘土が付着しており、火床には多くの焼土が残っている。

床はほぼ平坦で、カマド手前から南壁にかけて硬化している。壁は全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。周溝はカマド左にあたる北壁西側部分を除いた壁下から検出されている。南壁中央近くにはピットが1基検出されている。

SI-13（第24図）

本遺構は調査区北西部西壁際のB7グリッドに位置し、南側はSI-12と重複しており、これを壊している。また、北東部は土坑と重複しており、これに切られている。

規模は、長軸4.1m、短軸4.0m、確認面からの深さは0.5mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、壁外に突出した状態で構築されており、火床には僅かに焼土が残っている。

床は、中央部が若干盛り上がっているもののほぼ平坦に構築されており、中央部は僅かながら硬化している。壁は全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は4層に区別される。主柱穴が4本はほぼ等間隔に配置された状態で検出されている。また、南壁中央近くからはピットが1基検出されている。

SI-16（第22図）

本遺構は調査区北壁近くのF、G14グリッドに位置し、上部はかなり削平されており、南西隅には土坑状の擾乱が絡む。規模は、長軸3.2m、短軸2.8m、確認面からの深さは0.2mを測る。形状は東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは東壁の中央やや南寄り構築されている。カマドは半分ほどが壁外に突出した状態で、火床には多くの焼土が残っている。

床はほぼ平坦に構築されている。壁は全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。柱穴等のピットは検出されていない。

SI-17（第22図）

本遺構は調査区北壁際のF、G15グリッドに位置し、北側は調査区外へ続く。確認範囲での規模は、長軸2.9m、短軸2.8m、確認面からの深さは0.06mを測る。形状は北側が調査区外であるため正確な形状は不明だが、確認範囲では南北方向に長軸をもった長方形であると思われる。

カマドは調査区外の北壁に位置すると思われる。

床はほぼ平坦で、壁も確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。ピットは検出されていないが、確認範囲では全壁下に周溝が検出されており、溝内には皿状の凹凸が多く見られる。

SI-18 (第23図)

本遺構は調査区北西隅のB8グリッドに位置し、遺存状態は良好である。規模は、長軸4.8m、短軸4.0m、確認面からの深さは0.4mを測る。形状は若干歪んではいるが、ほぼ長方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には、僅かながら残土が残っている。

床は全体的に凹凸が著しい。壁は全面ともやや傾斜して立ち上がっている。また、南壁際の中央部にピットが1基検出されている。

SI-19 (第23図)

本遺構は調査区北西隅のA8グリッドに位置し、南東部分はSI-18と重複し、これに壊され、また、西壁際は土坑に壊されている。規模は、長軸3.5m、短軸3.4m、確認面からの深さは0.1mを測る。形状は、正方形であると思われる。

カマドは北壁のほぼ中央に位置している。

床はほぼ平坦だが、中央部から北側にかけて少し低くなっている。また、カマド手前は僅かながら硬化している。壁は、確認範囲ではほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は黒褐色土主体の単一層である。南西隅にはピットが2基検出されている。

SI-20 (第24図)

本遺構は調査区北西隅西壁際のA7グリッドに位置し、西側は調査区外に続いている。また、北側はSI-38と重複し、これに切られている。規模は、長軸4.4m、確認面からの深さは0.5mを測る。形状は、西側が調査区外であるため全容は把握できないが、東西方向に長軸をもった長方形であると思われる。

カマドは調査区外の北壁または西壁に構築されているものと思われる。

床はほぼ平坦だが、中央部から壁近くまで広く硬化している。また、掘り方調査では壁際が大きく掘り込まれているのが確認できた。壁は、確認範囲ではほぼ垂直に立ち上がっているが、北壁は上部がテラス状の段になっている。覆土は褐色土主体の単一層である。主柱穴が3基、ほぼ等間隔に配置された状態で検出されている。また、南壁際の主柱穴の間にも同規模のピットが検出されており、更に北東隅には貯蔵穴と思われる土坑も検出されている。

SI-21 (第25図)

本遺構は調査区北西隅北壁際のA8グリッドに位置し、SI-19・20と重複し、これに切られている。形状および規模も不明確で、2軒程重複している可能性も考えられる。北側は調査区外であり、南側ではSI-19・20と重複しているため全容は把握できない。

カマドは調査区内では検出されていない。

床は確認範囲では平坦に構築されており、全体的に硬化している。壁も遺存状態が悪いが、確認範囲ではほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は黒褐色土主体の単一層である。ピットは2基検出されている。

SI-25 (第25図)

本遺構は、調査区西壁際のD6グリッドに位置している。規模は、長軸3.6m、短軸3.3m、確認面からの深さは0.5mを測り、形状は、南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは、北壁の西寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床部分には焼土が僅かに確認できた。

床はほぼ平坦で、全面的に僅かながら硬化している。壁は、全面ともほぼ垂直に立ち上がっている。カマドの右隣にあたる北東隅からは貯蔵穴と思われる楕円形の土坑(P2)が検出されている。他に、南壁中央部近くでピットが1基とカマド左手前からは浅い土坑状の窪みも確認された。周溝はカマドを除く全壁下で検出されており、遺存状態が良く平均して幅0.2m、深さ0.1mの規模を有する。覆土は大きく5層に区分され、ほぼレンズ状に堆積している。

SI-26 (第25図)

本遺構は調査区西壁近くのG5グリッドに位置し、遺存状態は良好である。規模は、長軸3.1m、短軸3.0m、確認面からの深さは0.23mを測る。形状は若干歪みではあるが、ほぼ正方形を呈する。

カマドは北壁の西寄りと東壁の南寄りに構築されている。両カマドとも半分ほどが壁外に突出した状態で、ほぼ同規模の構造だが遺存状態からして東カマドの方が新しいと思われる。

床は所々凹凸があるものの、ほぼ平坦に構築されている。壁は全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は西壁下に褐色土の堆積が見られる他は、暗褐色土主体の単一層である。東カマドの手前に径0.5m程の土坑(P1)が1基検出されている。

SI-29 (第26図)

本遺構は調査区中央部のH、J29グリッドに位置する。東側には大きな擾乱が絡み、これに床面まで壊されている。規模は、長軸3.8m、短軸3.3m、確認面からの深さは0.06mを測る。形状は東西方向に長軸をもった隅丸長方形を呈する。

カマドは擾乱により大きく壊されているため若干の焼土が確認されたに過ぎないが、東壁のほぼ中央に位置しているものと思われる。

床はほぼ平坦で、壁もほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。ピットは検出されていないが、周溝が南壁下から西壁中央付近まで検出されている。

SI-31 (第26図)

本遺構は調査区中央やや南寄りのJ10グリッドに位置し、全体的に上部が削平されているものの、ほぼ良好である。規模は、長軸4.25m、短軸3.92m、確認面からの深さは0.14mを測る。形状は東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは東壁の中央やや南寄りに位置し、半分ほどが壁外に突出した状態で構築されている。火床部中央には焼土が多く残存している。

床はほぼ平坦で、壁もほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体で2層に区分される。ピットが1基、北西隅の壁際で検出されている。周溝は部分的に途切れがちではあるが、全壁下から検出されている。なお、南西隅では土坑が検出されているが、本住居に伴ったものであるかは不明である。

SI-34 (第26図)

本遺構は調査区中央部北寄りのG12グリッドに位置し、東側には土坑状の大きな擾乱が2基絡んでおり、これに床面ま

で壊されている。規模は、長軸4.08m、短軸3.2m、確認面からの深さは0.18mを測る。形状は東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁の中央やや東寄りと更にその東側に構築されているが、遺存状態からして西カマドの方が新しい。西カマドは半分ほどが壁外に突出した状態で、左袖には自然礫が立て掛けられた状態で残存しており、火床部には焼上も残っている。東カマドも構造は西カマドと同じだが、規模は一回りほど小さい。東半分が攪乱により壊されているものの、火床には僅かながら焼上が確認された。

床はほぼ平坦で、カマド手前から中央部にかけて広く硬化している。壁は、全向ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は南壁近くで2層に区分される。

SI-35 (第27回)

本遺構は調査区北壁際のF13グリッドに位置し、北側は調査区外に続いている。規模は、長軸5.2m、短軸は確認範囲では2.5m、確認面からの深さは0.18mを測る。形状は北半分が調査区外であるため全容は把握できないが、確認範囲では東西方向に長軸をもった長方形であると思われる。

カマドは調査区内では検出されていないが、北壁または東壁に構築されているものと思われる。

床はほぼ平坦で、壁は傾斜して立ち上がっている。覆土は明褐色土主体の単一層である。また、径0.36m、深さ0.7m程のピットが1基検出されている。

SI-36 (第26回)

本遺構は調査区中央東寄りのI13グリッドに位置し、全体的に上部が削平されているものの、ほぼ良好である。規模は、長軸2.95m、短軸2.5m、確認面からの深さは0.08mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁の中央東寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床部奥には焼上が多く残存している。

床は凹凸が著しく、カマド手前から中央付近まで広く硬化している。壁は傾斜して立ち上がっている。覆土は3層に区分される。周溝は北西部壁下と南東部壁下から検出されている。

SI-37 (第27回)

本遺構は調査区北東部のG、H13グリッドに位置し、全体的に上部が削平されている。やや歪んではいないものの一辺が3.0m程の不整な方形を呈し、確認面からの深さは遺存状態の良い北側では0.14mを測る。

カマドは東壁の中央やや南寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。右袖手前部分が空んだ状態で、火床の左袖付近には焼土が残存している。

床は中央部がやや盛り上がった状態で、カマド手前から中央部南寄りにかけて硬化している。壁は傾斜して立ち上がっている。覆土は3層に区分される。柱穴や周溝等は検出されていない。

SI-38 (第28回)

本住居は当初SI-20のカマドと判断したが、別遺構であることが判明したので新たに住居番号を付した。

調査区北西隅のA7グリッドに位置し、調査区内ではカマド部分のみで、遺構の大半は調査区外である。主体部が調査区外であるため、形状や規模等は不明である。

カマドは東壁に位置し、火床部からは焼上が多く検出されている。

SI-39 (第27図)

本住居は調査区北東隅、H16グリッドに位置し、SI-41・42の南西角を壊している。規模は南北軸3.1m、東西軸3.7m、確認面からの深さは0.23mを計り、形状は東西方向長い長方形を呈す。

カマドは北壁のほぼ中央に壁外に大きく突き出した状態で検出されており、火床の中央部からは焼土が多く検出されている。床はほぼ平坦でカマドの西側を中心に硬化面が検出されている。壁は全面とも急角度で立ち上がり、北壁を除く壁下に周溝が廻る。覆土は暗褐色土主体の自然堆積層である。

SI-40 (第28図)

本遺構は調査区東側北壁沿い、G16グリッドに位置し、北側約1/3は調査区外のため未調査である。規模は東西軸3.7m、確認面からの深さは0.13mを計り、形状は方形または南北に長い長方形を呈すと思われる。

カマドは調査区外の北壁にあると思われ、床はほぼ平坦で中央部で硬化面が検出されている。また、西壁・東壁の壁下では周溝が検出されている。覆土は暗褐色土主体の自然堆積層である。

SI-41 (第28図)

本遺構は調査区北東部、H16グリッドに位置し、北側中央部をSI-40に、南西部をSI-39に壊されている。

カマドは煙道部分が一部SI-40に壊されるが北壁のほぼ中央部に位置している。床は、ほぼ平坦でカマドの手前部分で硬化した面が確認された。周溝はカマド右脇の北壁東半分を除く全壁下で検出されている。

SI-46 (第28図)

本遺構は調査区南東部のK12グリッドに位置し、南西隅に土坑状の攪乱が陥っており、これに上部を壊されている。規模は、長軸3.0m、短軸2.5m、確認面からの深さは0.18mを測る。形状は東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁の中央やや西寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には僅かながら焼土が確認された。

床は所々凹凸があるものの、ほぼ平坦に構築されている。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は3層に区分され、南から流れ込んだような堆積状態を呈する。周溝はカマド右脇の北壁東半分を除く全壁下から検出されている。北東部にピットが1基検出されている。

SI-47 (第27図)

本遺構は調査区南東部のK12グリッドに位置し、南西隅はSI-46、北側は土坑と重複しており、これらに床面まで壊されている。規模は、長軸3.3m、短軸3.0m、確認面からの深さは0.15mを測る。形状は東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁の中央やや西寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には僅かながら焼土が確認された。

床は壁際が若干低くなっているものの、ほぼ平坦に構築されている。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。周溝は、カマドのある北壁を除く全壁下から検出されている。南壁中央部近くには径0.4m、深さ0.2m程のピットが1基検出されている。

SI-48 (第29図)

本遺構は調査区東壁際のL17グリッドに位置し、南西隅には攪乱が絡み、これに床面まで壊されている。東側は調査区外へ続く。確認範囲での規模は、南北軸3.6m、東西軸3.0m、確認面からの深さは0.12mを測る。形状は東半分が調査区外であるため正確な形状は不明だが、確認範囲では正方形ないし長方形であると思われる。

カマドは調査区外の東壁に位置すると思われる。

床はほぼ平坦で、壁も確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。また、径0.2m程のピットが4基検出されている。調査区壁際の2基は並んだ状態だが、他は配置に規則性が窺えない。

SI-49 (第29図)

本遺構は調査区南東隅のM15グリッドに位置し、全体的に上部が削平されており、北東部分には土坑状の攪乱が絡んでいる。規模は、長軸3.1m、短軸2.6m、確認面からの深さは0.04mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは東壁の中央南寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。

床はほぼ平坦で、カマド手前から中央部南寄りにかけて硬化している。壁は傾斜して立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。南東隅には貯蔵穴と思われる土坑状の窪みが検出されている。北西部からはピットも検出されている。

SI-50 (第29図)

本遺構は調査区南側のK7グリッドに位置し、遺存状態は良好である。規模は、長軸3.0m、短軸2.48m、確認面からの深さは0.14mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは東壁の中央南寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には焼土が多く残っている。

床はほぼ平坦で、カマド手前から西壁近くまで広く硬化している。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は2層に区分される。周溝は、カマド右脇の東壁南半分を除く全壁下から検出されている。

SI-51 (第29図)

本遺構は調査区南側のK8グリッドに位置し、遺存状態は良好である。規模は、長軸3.8m、短軸3.3m、確認面からの深さは0.2mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁の中央東寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には焼土が多く残っている。

床はほぼ平坦だが、南東部が若干凹んでいる。硬化面がカマド手前から南壁近くまで細長く分布している。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。周溝は、南西隅から南壁の西半分にかけて検出されている。

SI-52 (第30図)

本遺構は調査区南側のM8グリッドに位置し、東西の壁部に多くの攪乱が絡んでいるため、遺存状態は非常に悪い。やや歪ながら一辺が3.6m程の正方形を呈し、確認面からの深さは遺存状態の良い北側では0.4mを測る。

カマドは北壁の中央やや東寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には焼土が僅かに残っている。

床はほぼ平坦で、中央部が若干硬化している。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。床中央部北寄りとカマド右手前近くにピットが検出されている。

SI-55 (第30図)

本遺構は調査区東側のJ、K15グリッドに位置し、南西隅に攪乱が絡んでおり、これに床面まで壊されている。規模は、長軸3.9m、短軸3.7m、確認面からの深さは0.52mを測る。形状は方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、壁外に突出した状態で構築されている。火床には僅かながら焼土が残っており、左右の袖部分では少量の粘土も確認された。

床はほぼ平坦に構築されているが、掘り方調査では南側は0.3m近く盛土されているのが確認できた。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体で3層に区分される。周溝は、カマド右脇の北壁東半分を除く全壁下から検出されている。主柱穴は4基ほぼ等間隔に配置された状態で検出されている。また、南壁際からもやや大きめのピットが検出されており柱穴または、貯蔵穴と思われる。

SI-56 (第31図)

本遺構は調査区北西部のE9グリッドに位置し、SI-10、SI-9と重複する。規模は、長軸2.9m、短軸2.6m、確認面からの深さは0.12mを測る。形状は東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは東壁の南寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床の中心から手前にかけて焼土が残っており、奥には掌大の花崗岩の礫が1点検出されている。

床はほぼ平坦に構築されており、東半分が広く硬化している。壁は遺存状態が悪いものの、確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。南西隅に土坑が1基検出されている。

SI-57 (第31図)

本遺構は調査区南西部のJ4グリッドに位置し、南西部はSI-61と重複しており、これに床面まで壊されている。規模は、長軸4.5m、短軸4.3m、確認面からの深さは0.22mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁の中央やや東寄りに位置し、半分程が壁外に突出した状態で構築されており、左右の袖部分には粘土が多く残っている。また、火床にも多くの焼土が確認された。

床は壁際が若干低くなっているもののほぼ平坦に構築されているが、掘り方調査ではこの壁際にかけて大きく掘り込まれているのが確認された。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。主柱穴が4基、ほぼ等間隔に配置された状態で検出されている。

SI-58 (第32図)

本遺構は調査区南西部西壁際のH3グリッドに位置し、南側はSI-60と重複しており、これに床面まで壊されている。また、北西隅は調査区外である。規模は、長軸3.5m、短軸2.9m、確認面からの深さは0.22mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは東壁の中央やや北寄りに位置し、半分程が壁外に突出した状態で構築されている。火床には僅かに焼土が残っている。また、支脚として使用されたとと思われる砂岩製の礫も出土している。

床は、部分的に凹凸があるもののほぼ平坦に構築されており、中央部は広く硬化している。壁は、確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。周溝は、カマド左脇から北壁にかけて検出されている。カマド右袖部分からピット状の窪みが検出されている。

SI-59 (第33図)

本遺構は調査区南西部西壁際のF3グリッドに位置し、南東隅はSI-60と重複している。また、西側は調査区外であり、全体的に上部を大きく削平されている。規模は、長軸7.7m、短軸は確認範囲では5.2m、確認面からの深さは遺存状態の良い北側で0.3mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁に位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には多くの焼土が残っている。

床は全体的にやや凹凸があり、カマド手前から中央部にかけて僅かながら硬化している。また、掘り方調査では主に壁際部分が掘り込まれているのが確認できた。壁は、確認範囲ではほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体のほぼ単一層である。

SI-60 (第33図)

本遺構は調査区南西部西壁近くのI3グリッドに位置し、南西隅はSI-59と重複しており、これに床面まで壊されている。また、北東隅ではSI-70と重複している。規模は、長軸6.2m、短軸6.0m、確認面からの深さは0.54mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、僅かに壁外に突出した状態で構築されており、左右の両袖には多くの粘土が残っている。また、火床からは多くの焼土が検出された。

床はやや凹凸があるものの、ほぼ平坦に構築されており、カマド手前が僅かに硬化している。また、掘り方調査では主に南側部分が掘り込まれているのが確認できた。壁は、ほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は2層に区分されるが、下層は北側の床面近くに堆積するのみであり上層が覆土の大半を占めている。周溝は、東と南の壁下から検出されている。また、主柱穴が4基、ほぼ等間隔に配置された状態で検出されている。

SI-61 (第32図)

本遺構は調査区南西部のK3グリッドに位置し、遺存状態は良好である。規模は、長軸5.1m、短軸4.96m、確認面からの深さは0.24mを測る。形状は南側が僅かに狭くなっているが、ほぼ正方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、壁内に構築されており、左右の両袖には多くの粘土が残っている。火床は大きく窪んでおり、手前には焼土が僅かに残っている。

床は、中央部がやや盛り上がっているもののほぼ平坦に構築されているが、掘り方調査では中央部から壁際にかけて掘り込まれているのが確認できた。壁はほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は2層に区分される。中央部には径0.6m程のビットが2基検出されている。

SI-64 (第32図)

本遺構は調査区南西部西壁際のJ2グリッドに位置し、南側には土状の擾乱が絡んでおり、これに上部を壊されている。西半分は調査区外である。規模は、南北軸3.1m、東西軸は確認範囲では2.2m、確認面からの深さは0.25mを測る。形状は西半分が調査区外であるため正確な形状は把握できないが、正方形ないし長方形であると思われる。

カマドは調査区内では検出されていない。西壁ないし北壁に構築されていると思われる。

床は凹凸が著しく、西側は若干硬化している。壁は、確認範囲では傾斜して立ち上がっている。周溝は南壁下から検出されている。

SI-65 (第34図)

本遺構は調査区南側のL9グリッドに位置し、東側は調査区外である。規模は、長軸5.0m、確認面からの深さは0.3mを測る。形状は南北方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは北壁に位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には焼土が僅かに残っており、奥には土師器の甕が逆さに置かれている。

床はほぼ平坦だが、中央部から南西にかけて若干窪んでいる。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。周溝は、カマド右脇以外の全壁下から検出されている。

SI-67 (A・B) (第34図)

本遺構は調査区の南中央、N9グリッドに位置する。現場調査の段階では同一のものとして調査したが、整理段階で建替えによる新旧関係があるものと判断しそれぞれ新をA、旧をBとして分離している。

調査できたのは北西角1/4のみである。カマドの東半分についても調査区外である。確認面からの深さは0.45mを測る。覆土は大きく2層に区分できる。BはAに重複しカマド以外の殆どが壊されている。

SI-68 (A・B) (第34図)

本遺構は調査区の南中央、N8グリッドに位置する。SI-67同様、現場調査の段階では同一のものとして調査したが、整理段階で建替えによる新旧関係があるものと判断しそれぞれ新をA、旧をBとして分離した。

Aは隅丸長方形を呈し、長軸3.2、短軸2.7m、確認面からの深さは0.25mを測る。西壁及び南東角壁下に周溝が検出されている。また、南西角には住居に伴うであろうピットが穿たれる。Bはその殆どがA及びSI-67に壊されているが、Aと同様な形状で、南西角にピットが穿たれる。

SI-69 (第35図)

本遺構は調査区南西部のH4グリッドに位置するし、東側はSI-70と重複しており、これに床面まで壊されている。規模は、南北軸は2.7mまでしか測れないが、東西軸は3.05m、確認面からの深さは0.23mを測る。形状は南側が大きく削平されているため正確な形状は分からないが、正方形ないし長方形であると思われる。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には焼土が僅かに残っている。床はほぼ平坦で、壁は確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は、確認範囲では暗褐色土主体の単一層である。柱穴等は検出されていない。

SI-70 (第35図)

本遺構は調査区南西部のI4グリッドに位置し、西側はSI-60と重複しており、これに床面まで壊されている。規模は、長軸3.2m、短軸3.0m、確認面からの深さは0.3mを測り、形状は東西方向に長軸の長方形を呈する。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には焼土が僅かに残っている。床はほぼ平坦で、壁は確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は2層に区分される。周溝は、北西隅を除く全壁下から検出されている。南壁近くにはピットが4基検出されている。

SI-72 (第35図)

本遺構は調査区南壁際のL4グリッドに位置し、南側は調査区外である。確認範囲での規模は、東西5.1m、南北3.8

m、確認面からの深さは0.32mを測る。形状は、南半分が調査区外であるため正確な形状は不明だが、正方形ないし長方形であると思われる。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、壁外に僅かに突出した状態で構築されており、火床には焼土が多く残っている。床はでこぼこしているが、壁は垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は3層に区分される。柱穴等は検出されていない。

SI-73 (第36図)

本遺構は、調査区南西部南壁際、L4グリッドに位置し、西側はSI-72と重複しこれを壊している。規模は長軸3.1m、短軸2.75m、確認面からの深さは0.2mを測る。形状は東西に主軸を持つ隅丸長方形を呈す。床はほぼ平坦であり、壁は外側に傾斜し立ち上がる。覆土は暗褐色土主体で、2層に分かれる。

SI-75 (第39図)

本遺構は調査区中央部東寄りのH13グリッドに位置し、北半分に芋穴と思われる擾乱が数個絡んでいる。規模は、長軸4.5m、短軸4.0m、確認面からの深さは0.3mを測る。形状は北西角が突出した状態の歪んだ方形を呈する。

カマドは北壁のやや西側に位置しているが、規模は小さい。

床はやや凹凸が多く、中央部は若干盛り上がった状態で、この部分は僅かに硬化している。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は南北で大きく2層に区分される。柱穴は検出されなかったが、東西壁下と南壁下には幅0.18m、深さ0.1m程の周溝が検出された。また、東側にはテラス状の段があり、拡張された可能性も考えられる。

SI-76 (第37図)

本遺構は調査区南東部のL15グリッドに位置し、北西部は大きく削平されている。規模は、長軸3.5m、短軸2.35m、確認面からの深さは比較的に遺存度の良い北側部分で0.1m程である。形状は東西方向が長軸のやや丸みを帯びた長方形を呈する。

カマドは北壁の中央やや東寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。

床は所々凹凸があるものの、ほぼ平坦に構築されている。壁は、確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。柱穴等は検出されていない。

SI-81 (第37図)

本遺構は調査区南壁際のL10グリッドに位置し、南側は調査区外である。規模は、東西軸5.1m、南北軸は確認範囲では0.2m、確認面からの深さは0.37mを測る。形状は、南半分が調査区外であるため正確な形状は不明だが、正方形ないし長方形であると思われる。

カマドは北壁中央やや東寄りに位置し、壁内に構築されている。袖には多くの粘土が残っており、火床にも焼土が僅かに残っている。

床はほぼ平坦に構築されているが、掘り方調査ではカマド近くが掘り込まれているのが確認された。壁は、確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。ピット2基と北東隅からは貯蔵穴と思われる土坑が検出されている。

SI-82 (第37図)

本遺構は調査区南壁際のL12グリッドに位置し、東側はSI-83と重複しており、これに床面まで壊されている。南側は

調査区外である。確認範囲での規模は、東西軸2.6m、南北軸2.3m、確認面からの深さは0.1mを測る。形状は、南半分が調査区外であり、東側も削平されているため正確な形状は不明だが、正方形ないし長方形であると思われる。

カマドは北壁に位置し、壁外大きく突出した状態で構築されている。カマド奥壁際には多量の焼土が残っている。床はほぼ平坦で、壁は確認範囲では傾斜して立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。柱穴等は検出されていない。

SI-83 (第37図)

本遺構は調査区南壁近くのL12グリッドに位置し、中央部に土坑状の擾乱が認められ、南西隅は上部を削平されており、SI-82・84と重複し、これを壊している。規模は、長軸3.0m、短軸2.9m、確認面からの深さは0.34mを測る。形状はほぼ正方形を呈している。

カマドは北壁中央やや西寄りに位置し、壁外に僅かに突出して構築されている。両袖には多くの粘土が残っており、奥壁近くには上製の支脚が残存している。火床にも焼土が多く残っている。

床はほぼ平坦に構築されており、カマド手前が僅かに硬化している。壁は全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。北壁以外の壁下には不明瞭ながら周溝が検出されている。北東隅の床には、口縁部のみの甕の中に坏が数点重なった状態で遺存している。

SI-84 (第36図)

本遺構は調査区南東部のL13グリッドに位置し、南西隅はSI-83と重複しており、これに床面まで壊されている。南側は大きく削平されている。確認範囲での規模は、東西軸3.1m、南北軸2.5m、確認面からの深さは比較的遺存度の良い北側部分で0.2m程である。形状は南側が大きく削平されているため正確な形状は不明だが、正方形ないし長方形であると思われる。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。火床には僅かながら焼土が確認された。

床は所々凹凸があるものの、ほぼ平坦に構築されている。壁は、確認範囲ではほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。柱穴等は検出されていない。

SI-85 (第36図)

本遺構は調査区中央やや南寄りのJ8グリッドに位置し、全体的に上部が削平されているものの、遺存状態はほぼ良好である。規模は、長軸3.50m、短軸3.10m、確認面からの深さは0.15mを測る。形状は東西方向に長軸をもった長方形を呈する。

カマドは東壁の中央やや南寄りに位置し、大きく壁外に突出した状態で構築されている。

床は中央部がやや盛り上がっているものの、ほぼ平坦に構築されている。壁は、全面ともほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単一層である。周溝は部分的に途切れがちではあるが、全壁下から検出されている。また、南西隅では土坑(P1)が検出されている。小規模ながらピットも3基検出されている。

SI-87 (第37図)

本遺構は調査区北壁際のF14グリッドに位置し、北側は調査区外に続いており、中央部には大きな擾乱が絡んでいる。確認範囲での規模は、東西軸3.4m、南北軸1.2m、確認面からの深さは0.19mを測る。形状は、北半分が調査区外である

ため全容は把握できないが、確認範囲では東西方向に長軸をもった長方形であると思われる。

カマドは調査区内では検出されていないが、北壁または東壁に構築されているものと思われる。

床はほとんど残っていないが、遺存部分はほぼ平坦である。壁は傾斜して立ち上がっている。覆土は暗褐色土主体の単層である。柱穴等は検出されていない。

SI-88 (第37図)

本遺構は調査区北壁際のC10、11グリッドに位置し、北側は調査区外に続いている。確認範囲での規模は、東西軸2.6m、南北軸2.2m、確認面からの深さは0.23mを測る。形状は、北半分が調査区外であるため全容は把握できないが、確認範囲では東西方向に長軸をもった長方形であると思われる。

カマドは調査区内では検出されていないが、北壁または東壁に構築されているものと思われる。

床は平坦で、壁はほぼ垂直に近い傾斜で立ち上がっている。覆土は大きく2層に区分され、下層が2/3程を占めている。柱穴等は検出されていない。

SI-89 (第38図)

本遺構は調査区南西部のK5グリッドに位置し、全体的に大きく削平されており、北東部分が残存するのみである。確認範囲での規模は、東西軸2.6m、南北軸3.0m程である。形状は削平部分が大きく正確な形状は不明だが、遺存部の形状からして正方形ないし長方形であると思われる。

カマドは北壁に位置し、壁の内側に構築されている。火床には僅かながら焼土が確認された。

床は凹凸が著しい。壁は、確認範囲では傾斜して立ち上がっている。柱穴は2基検出されている。

SI-90 (第38図)

本遺構は調査区北東隅のI、J18グリッドに位置し、北側は大きく削平され、東側は調査区外へと続いている。確認範囲での規模は、東西軸3.9m、南北軸1.7m程である。北半分が大きく削平されているため正確な形状は不明だが、正方形ないし長方形であると思われる。

床はほとんど残っていないが、遺存部分はほぼ平坦である。壁は傾斜して立ち上がっている。柱穴は3基検出されたが、残り1本は調査区外に在ると思われる。

SI-91 (第38図)

本遺構は調査区北東隅のI17グリッドに位置し、北側は大きく削平されている。このため規模不明であるが、東西軸で3.0m前後を計る。北半分が大きく削平されているため正確な形状は不明だが、正方形ないし長方形であると思われる。

床はほとんど残っていないが、遺存部分はほぼ平坦である。壁は傾斜して立ち上がっている。

SI-92 (第38図)

本遺構は調査区南東部南壁際、N15グリッドに位置し、北側のカマド部分の検出で南側大半調査区外の為未調査である。確認された範囲での規模は、東西軸3.25mを測る。調査区外のため正確な形状は不明だが、正方形ないし長方形であると思われる。カマドは北壁の外側に張り出して構築されている。

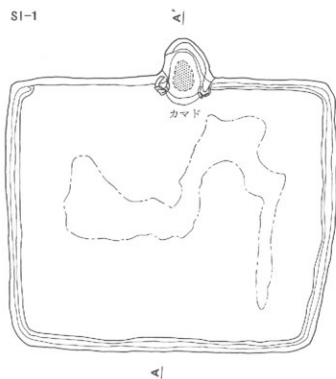
SI-94 (第38図)

本遺構は調査区南西より、J6グリッドに位置し、南側はSI-63(古墳時代)と重複し、これを壊すが、調査段階では新旧を逆に調査し、整理段階で遺物などを検討した結果、該期の遺構とした。このため実測図上では南側のSI-63部分を省き表現した。

規模は、東西軸3.9m、南北軸4.1m程を測り、形状は正方形を呈す。

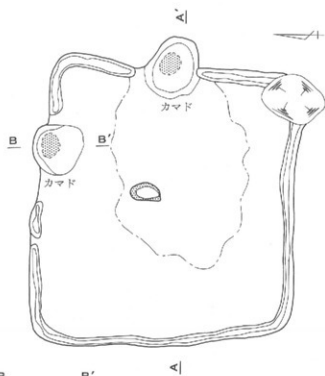
カマドは、東壁の中央部及び北側に大小2基(あるいは建て替えによるものか)確認された。床はほぼ平坦で、壁は丸みを帯びて立ち上がり、北壁および西壁の壁下に周溝が廻っている。床面のピットから土柱穴は4本(1本は推定)であると思われる。

SI-1



1. 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性、締まりともに強い。
2. 褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性、締まりともに強い。
3. 黒褐色土 ロームブロック少量含む。粘性、締まりやや強い。
4. 黒褐色土 粘土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、締まりともに強い。
5. 赤褐色土 粘土粒子を少量含む。粘性、締まりともに強い。
6. 赤褐色土 ロームブロック少量含む。粘性、締まりともに強い。

SI-2

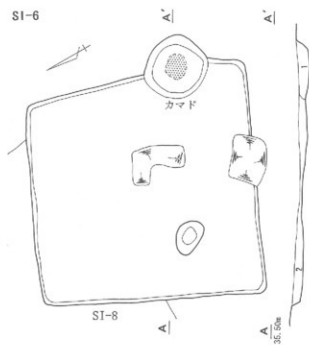


1. 暗褐色土 粘土粒子を少量含む。粘性、締まりともに強い。
2. 暗褐色土 褐色土粒子を少量、粘土粒子を少量含む。粘性、締まりともに強い。
3. 黒褐色土 粘性、締まりやや強い。

1. 暗褐色土 粘土粒子を少量含む。粘性強い、締まり強い。

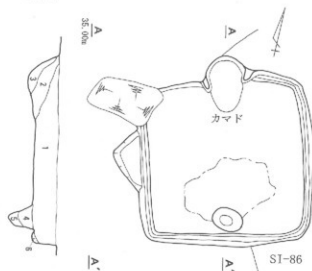
第20図 SI-1・2 遺構図

SI-6



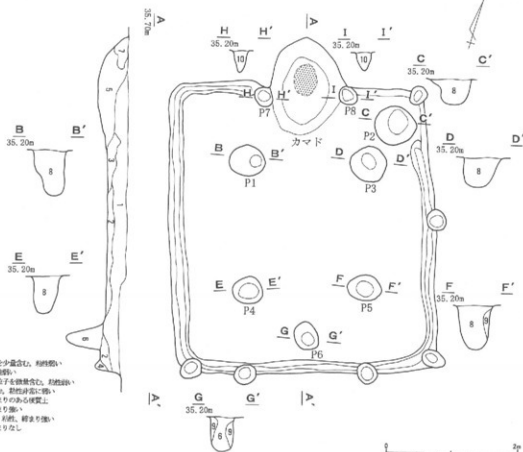
1. 黒褐色土 焼土粒子を少量含む。粘性、締まりともにやや強い。
2. 褐色土 ローム粒子・ロームブロックを微量含む。

SI-7



1. 黒褐色土 暗褐色土粒子・ローム粒子を少量含む。粘性、締まり強い。
2. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性、締まりともに強い。
3. 暗褐色土 焼土粒子を多量含む。
4. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。粘性あり、締まり強い。
5. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。粘性あり、締まりなし。
6. 褐色土 ロームブロックを多量含む。

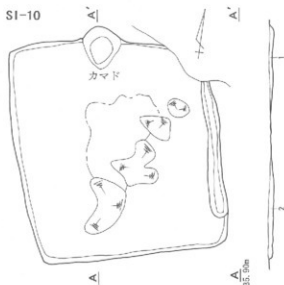
SI-8



1. 暗褐色土 ローム粒子を多量、ブロックを少量含む。粘性強い。
2. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。粘性強い。
3. 暗褐色土 灰色粘土粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性強い。
4. 暗褐色土 褐色、ローム粒子を多量含む。粘性非常に強い。
5. 暗褐色土 ローム粒子を多量含む。締まりのある硬質土。
6. 暗褐色土 ロームブロックを含む。締まり強い。
7. 暗褐色土 粘土ブロックを含む。粘性、締まり強い。
8. 暗褐色土 ロームブロックを含む。締まりなし。
9. 暗褐色土 締まりなし。
10. 暗褐色土 粘性、締まりなし。

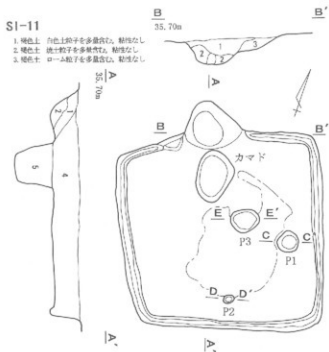
第21図 SI-6・7・8 遺構図

SI-10



1. 黒褐色土 焼土粒子を微量含む。粘性、締まりあり
2. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性、締まりあり

SI-11

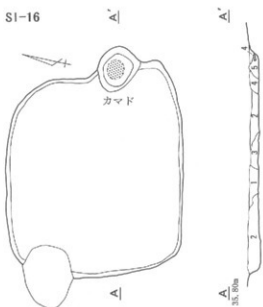


1. 暗褐色土 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性、締まりあり
2. 暗褐色土 焼土粒子が細く、ロームブロックを多量含む。灰質褐色土がモザイク状に混じる。粘性、締まりあり
3. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。粘性、締まりなし
4. 暗褐色土 黒褐色土粒子を多量、ローム粒子を微量含む。粘性、締まりともに強い
5. 暗褐色土 焼土粒子・灰化遊粒子・ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性あり、締まりなし



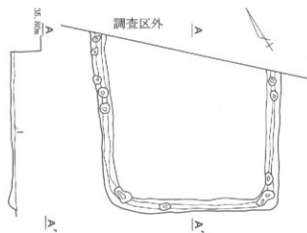
1. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性あり、締まりなし
2. 暗褐色土 焼土粒子を微量含む。粘性あり、締まりあり
3. 暗褐色土 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性あり、締まりあり
4. 暗褐色土 暗褐色土粒子を多量含む。粘性あり、締まりあり

SI-16



1. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性なし、締まりあり
2. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多量含む。焼土粒子・灰化遊粒子を微量含む。粘性なし
3. 暗褐色土 ローム粒子を多量含む。粘性弱い。締まりややあり
4. 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。粘性、締まりあり
5. 暗褐色土 焼土粒子・ロームブロックを多量含む。粘性あり、締まりややあり

SI-17

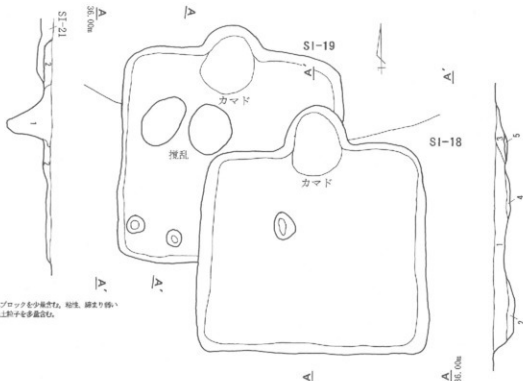


1. 暗褐色土 灰化遊粒子を微量含む。粘性、締まりともに強い



第22図 SI-10・11・16・17遺構図

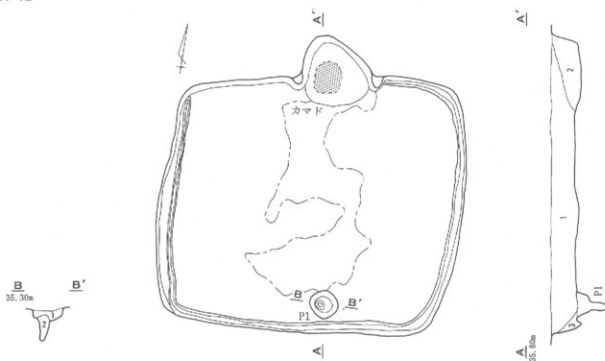
SI-18・19



1. 厚褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性・締まり強い
2. 黒褐色土 珪砂土粒子を多量含む。

1. 褐色土 ローム粒子・ロームブロック・粘土粒子・低土ブロック・炭化黒粒子を少量含む。
2. 厚褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多量含む。
3. 厚褐色土 粘土を少量含む。
4. 粘褐色土 締まりなし。
5. 粘褐色土 粘土を多量含む。締まりなし。

SI-12



1. 粘褐色土 ロームブロック少量を含む。粘性・締りともに強い
2. 厚褐色土 珪砂土粒子を少量、炭褐色砂少量。粘性なくボンボン

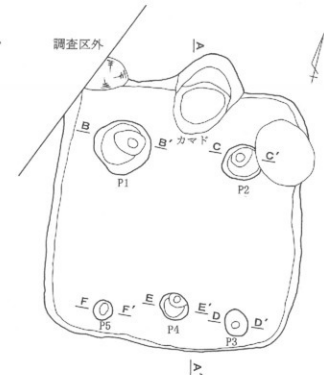
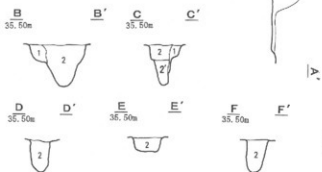
1. 褐色土 ローム粒子・ロームブロック・白色土灰を少量。粘土灰を微量含む。粘性・締まりともになし
2. 厚褐色土 粘土を少量含む。粘性やや強い
3. 粘褐色土 締まりなし。



第23図 SI-12・18・19遺構図

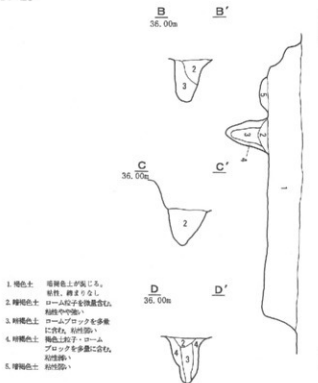
SI-13

1. 黒褐色土 ローム殻・赤色スロリアを豊富に含む。粘性強い。
2. 灰褐色土 砂質土粒子を多量に含む。粘性弱い。
3. 黒褐色土 灰色粘土粒を少量含む。一部にローム殻を多量に含む。粘性強い。
4. 灰褐色土 ローム殻を多量に含む。粘性あり。
5. 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
6. 灰褐色土 灰色粘土粒を多量に。粘土粒を少量含む。粘性強い。
7. 黒褐色土 褐色土粒を多く含む。粘性強い。

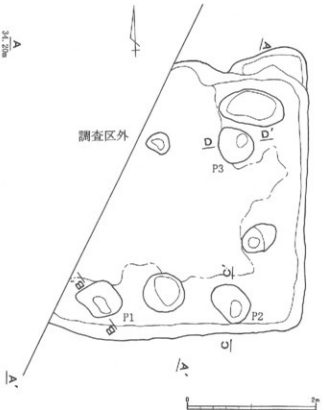


- 1 灰褐色土 黒褐色ローム殻を多量に含む。粘りあり
- 2 灰黒褐色土 ローム殻を含む。粘りなし
- 3 灰黒褐色土 少し黒色が強い

SI-20

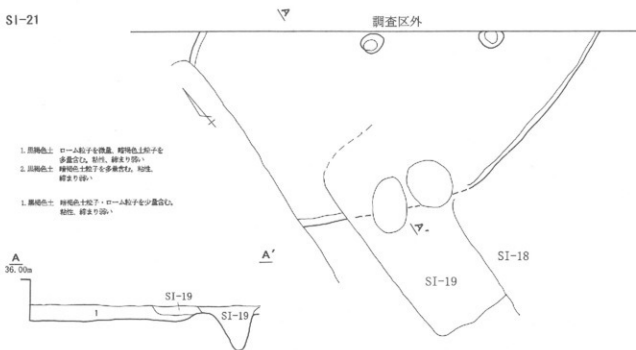


1. 褐色土 暗褐色土が混じる。粘り、粘りなし。ローム粒子を豊富に含む。粘性中程度。
2. 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性強い。
3. 暗褐色土 褐色土粒子・ロームブロックを多量に含む。粘性強い。
5. 暗褐色土 粘性強い。

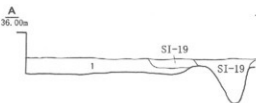


第24図 SI-13・20遺構図

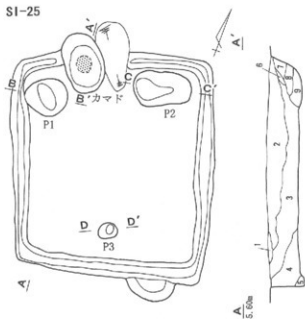
SI-21



1. 黒褐色土 ローム粒子を少量、暗褐色土粒子を多量含む。粘性、締まり強い。
2. 黒褐色土 暗褐色土粒子を多量含む。粘性、締まり強い。
3. 黒褐色土 暗褐色土粒子を少量含む。粘性、締まり強い。



SI-25

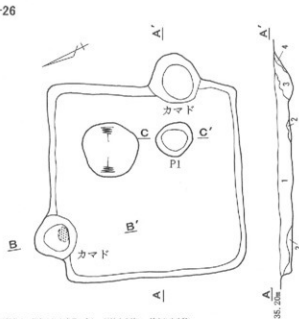


1. 暗褐色土 褐色土を少量含む。粘性、締まり強い。
2. 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性、締まり強い。
3. 灰褐色土 ロームブロックを多量含む。粘性、締まりあり。
4. 暗褐色土 褐色土粒子を多量含む。締まりあり。
5. 灰褐色土 ロームブロックを少量含む。締まりあり。
6. 暗褐色土 暗褐色土粒子を含む。粘性、締まり強い。
7. 灰褐色土 粘土粒子を多量含む。粘性、締まり強い。
8. 暗褐色土 粘土粒子を多量含む。粘性、締まりやや強い。
9. 暗褐色土 暗褐色土粒子を少量、黄土粒子を多量含む。

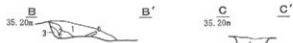


1. 褐色土 ロームブロック多量
2. 暗褐色土 締まりあり
3. 褐色土 締まりあり
4. 褐色土 ロームブロック含む

SI-26



1. 暗褐色土 褐色土粒を多量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
2. 褐色土 粘性強い。締まり強い。
3. 暗褐色土 黄土粒、黄土ブロックを少量、ロームブロックを少量、黄土粒を含む。粘性あり。締まり強い。
4. 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性あり。締まりあり。



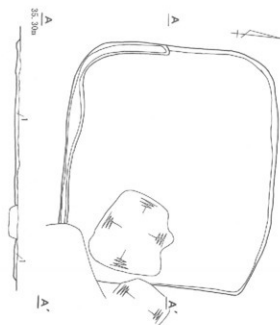
1. 暗褐色土 黄土粒、黄土ブロックを少量、白色土粒を含む。粘性弱く、締まりなし。
2. 暗褐色土 黄土粒を少量含む。粘性弱く、締まりなし。
3. 暗褐色土 ロームを土とする土塊。粘性あり。締まりあり。

1. 暗褐色土 ロームブロックが少量混じる。粘性あり。締まりあり。



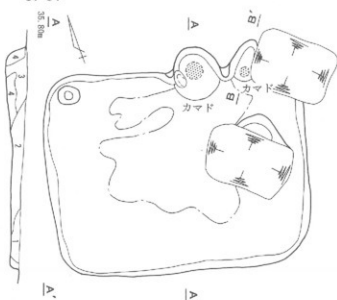
第25図 S I - 21・25・26遺構図

SI-29



1. 灰褐色土 ロームに暗褐色土がセグイタびに混じり、粘性あり、締まりあり

SI-34

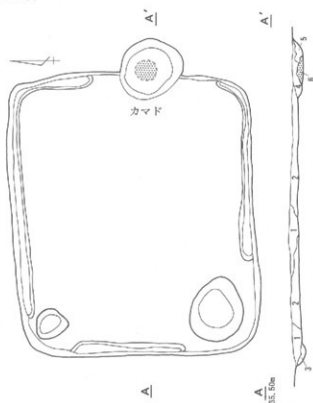


1. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む、粘性、締まりともになし
2. 灰褐色土 ローム粒子・ロームブロックを少量含む、白色土に灰子・焼土粒子を少量含む
3. 灰褐色土 粘性、締まりともに強い
4. 灰赤褐色土 焼土粒子・ローム粒子を含む、粘性、締まりともに強い



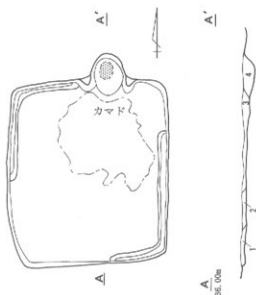
1. 灰褐色土 焼土粒子を少量含む、粘性、締まり弱い
2. 暗褐色土 ロームブロックを少量、焼土粒子を少量、灰赤土粒子を含む

SI-31



1. 灰褐色土 粘性、締まりともに強い
2. 暗褐色土 灰褐色土粒子を少量含む、粘性、締まりともに強い
3. 暗褐色土 褐色土粒子を少量含む、粘性、締まりともに強い
4. 暗褐色土 焼土粒子・焼土ブロックを少量含む、粘性弱く、締まりあり
5. 暗褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・灰化塊状子・白色土粒子を少量含む
6. 暗褐色土 焼土ブロック・白色土粒子を少量含む

SI-36

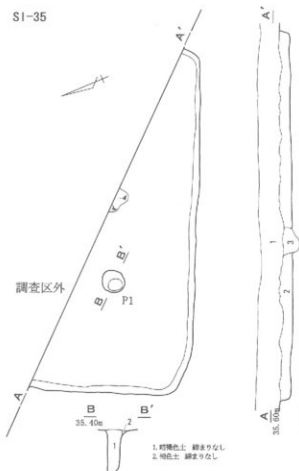


1. 褐色土 ローム粒子・ロームブロックを少量含む、粘性なし、締まりややあり
2. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む、粘性なし、締まりあり
3. 灰褐色土 焼土粒子を含む、粘性なし、締まりあり
4. 暗褐色土 焼土粒子・焼土ブロックが層状に混じり、締まりあり



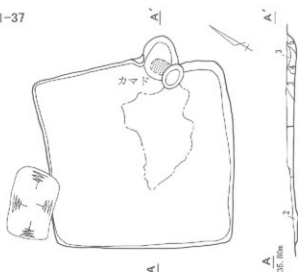
第26図 SI-29・31・34・36構造図

SI-35



1. 粘褐色土 締まりなし
2. 褐色土 締まりなし

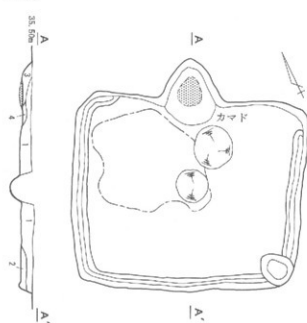
SI-37



1. 粘褐色土 ローム殻子を少量含む。粘性、締まり強い。
2. 褐色土 粘褐色土殻子を少量含む。粘性、締まりやや弱い。
3. 粘褐色土 ローム殻子を少量含む。粘性、締まり強い。
4. 粘褐色土 ローム殻子を少量、焼土殻子・焼土ブロック・数層の白色焼土を含む。粘性なし。締まり強い。
5. 粘褐色土 ローム殻子を少量含む。粘性なし。締まりあり。

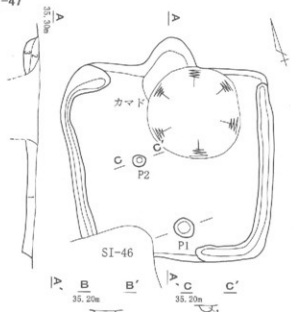
1. 黄土
2. 粘褐色土 ローム殻子を含む。粘性、締まりともに強い。
3. 灰褐色土 ロームブロックを含む。締まりなし。

SI-39



1. 粘褐色土 ローム殻子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性、締まり強い。
2. 灰褐色土 ロームブロックを多量含む。
3. 茶褐色土 焼土殻子・ローム殻子を多量含む。
4. 灰褐色土 焼土殻子・ローム殻子を少量含む。

SI-47

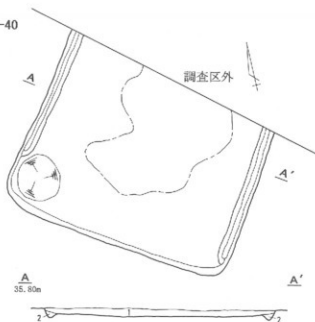


1. 粘褐色土 ローム殻子・ロームブロックを多量含む。

1. 粘褐色土 焼土殻子・白色土殻子を少量含む。粘性なし。締まりなし。
2. 粘褐色土 焼土殻子を多量、白色土殻子を少量含む。粘性なし。締まりなし。
3. 粘褐色土 ローム殻子を少量含む。粘性、締まりともに強い。

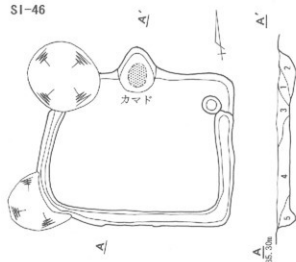
第27図 SI-35・37・39・47遺構図

SI-40



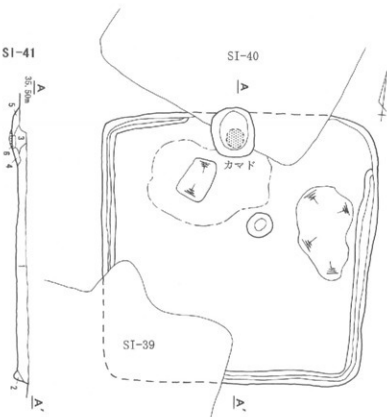
1. 輝褐色土 ローム粒子を少量含む。粘りなし。締まり強い。
2. 暗褐色土 ローム粒子を多量含む。粘り強い。

SI-46



1. 輝褐色土 ローム粒子・ロームブロック粒子・白色土粒子を数粒含む。粘りなし。締まり強い。
2. 輝褐色土 粘土粒子を多量。白色土粒子・灰化物を数粒含む。土塊片を含む。粘りなし。締まり強い。
3. 暗褐色土 黒褐色土粒子を多量。ロームブロック粒子を少量含む。粘性。粘まり強い。
4. 輝褐色土 ローム粒子・ロームブロック粒子を少量含む。粘り強い。
5. 輝褐色土 ローム粒子を多量含む。粘り強い。

SI-41



1. 輝褐色土 ローム粒子を少量含む
2. 黒褐色土 ローム粒子を少量含む
3. 輝褐色土 ローム粒子・塊上粒子を多量に含む
4. 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む
5. 黒褐色土 ロームブロックを少量含む
6. 輝褐色土 粘土粒子・ブロック主体

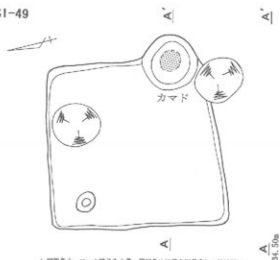
SI-38



1. 輝褐色土 粘土粒を数粒含む。粘性・粘まりとりに強い。
2. 褐色土 粘土粒を多量に含む。粘り強い。やや粘まりあり

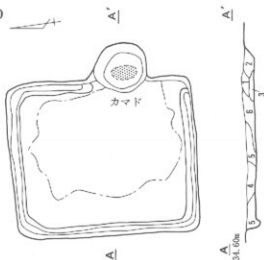
第28図 SI-38・40・41・46遺構図

SI-49



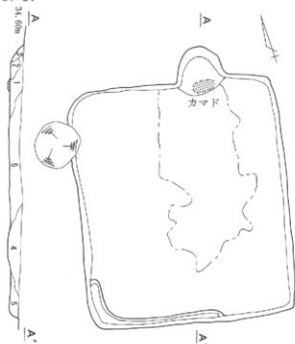
1. 埴輪色土 ローム粒子を少量、黒褐色土粒子を複数含む。粘性強い。
2. 赤褐色土 粘土粒子・ブロックを層状に含む。締まりなし。
3. 切替色土 黄土粒子を多数含む。粘性なし。締まりありなし。

SI-50



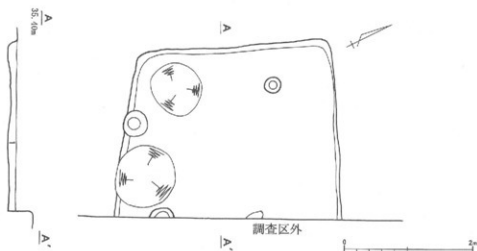
1. 埴輪色土 ロームが少量混入。粘性なし。締まりなし。
2. 暗褐色土 ローム粒子が少量。ロームブロック、黄土粒子、赤土ブロック、炭化物が複数混入。粘性強い。締まりあり。
3. 暗褐色土 黄土粒子・黒土ブロックが多数混入。粘性あり。締まりあり。
4. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多数含む。粘性あり。締まり強い。
5. 切替褐色土 ローム粒子・一層より多いロームブロックを多数含む。粘性あり。締まりあり。
6. 埴輪色土 ローム粒子・ロームブロックを少量。黄土粒を複数含む。粘性なし。締まりなし。

SI-51



1. 埴輪色土 ローム粒子が少量。ロームブロック・黄土粒子・黒土ブロック・白色土粒子が混入。粘性なし。締まりあり。
2. 暗褐色土 ロームブロック・黒土ブロックが少量。白色土粒子が多数混入。粘性なし。締まりあり。
3. 暗褐色土 黄土粒子・黒土ブロックが多数混入。粘性強い。締まりあり。
4. 埴輪色土 ローム粒子・ロームブロック・白色土粒を少量含む。粘性あり。締まりあり。
5. 切替褐色土 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性あり。締まりあり。

SI-48

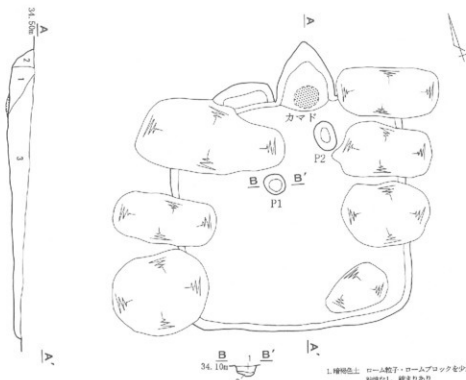


1. 切替色土 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性あり。締まり強い。

第29図 SI-48・49・50・51遺構図

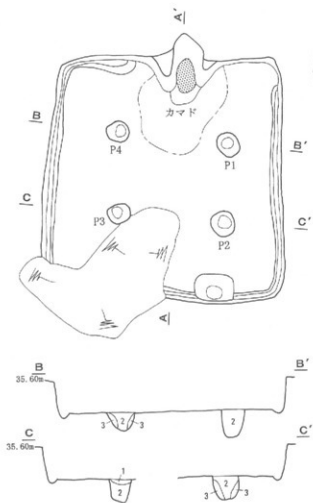
SI-52

1. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多数、白色土粒子を少量、粘土粒子を豊富含む。粘性なし、締まりなし
2. 灰褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多数、白色土粒子・流石粒子を豊富含む。粘性なし、締まりあり
3. 褐色土 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性あり、締まりあり



1. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性なし、締まりあり
2. 灰褐色土 暗褐色土がモザイク的に混じる。粘性あり、締まりなし

SI-55

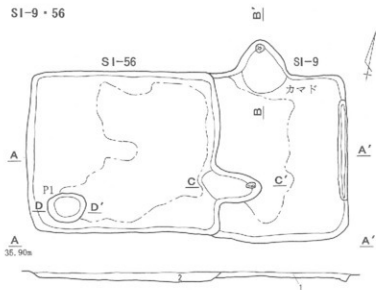


1. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。白色粘土粒子を少量含む
2. 灰褐色土 ローム粒子を多数含む
3. 灰褐色土 ローム粒子を含む
4. 灰褐色土 流石粒子を少量含む
5. 暗褐色土 ロームブロック・流石粒子を少量含む
6. 暗褐色土 流石粒子を多数含む

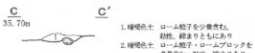
1. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
2. 暗褐色土 ローム粒子を多数含む
3. 灰褐色土 ロームブロック粒子を多数含む

第30図 SI-52・55遺構図

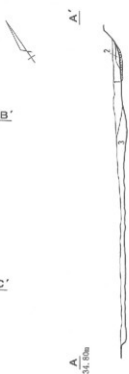
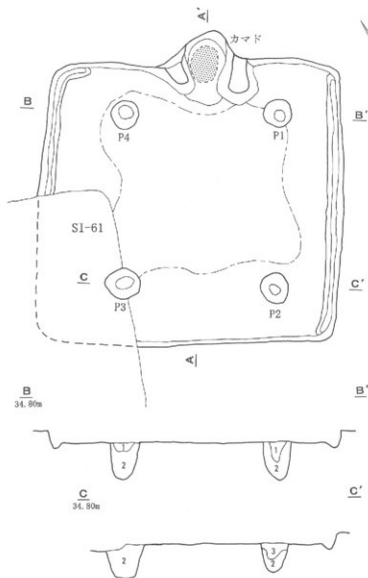
SI-9・56



1. 厚褐色土 ローム粒子を少量含む。粘性なし。締まり弱。
2. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性、締まりともに弱い。



SI-57



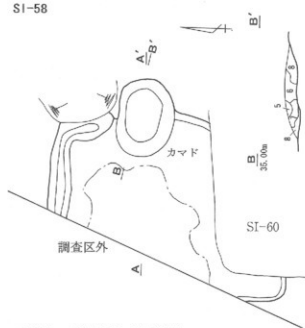
1. 暗褐色土 灰色粒子・焼土粒子を多量に含む。
2. 厚褐色土 焼土粒子を多量に含む。
3. 暗褐色土 褐色土粒子・灰色粒子を少量含む。

1. 厚褐色土
2. 暗褐色土 ロームブロックを含む。
3. 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。



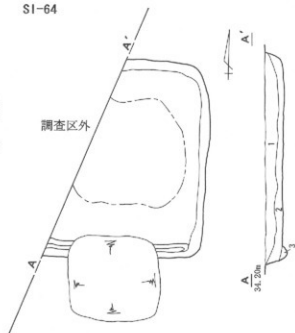
第31図 SI-9・56・57遺構図

SI-58



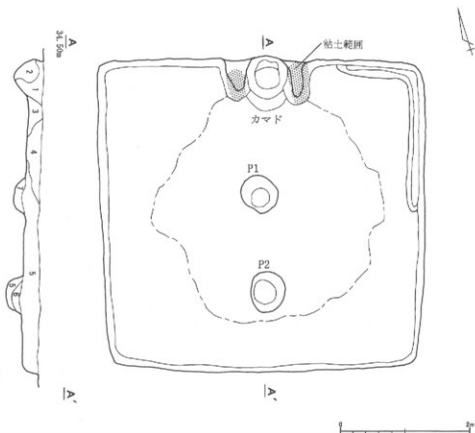
1. 黒褐色土 ローム粒子を多数含む。粘質。締まりなし。
2. 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘質なし。締まりあり。
3. 灰褐色土 ローム粒子・粘土粒子・白色土粒子を少量含む。粘性。締まりなし。
4. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。粘質。締まりあり。
5. 黒褐色土 灰色粘土粒子を多数含む。粘質。締まり強い。
6. 灰褐色土 粘土粒子を少量含む。
7. 暗褐色土 灰色粘土粒子を少量含む。粘土粒子を多数含む。
8. 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。粘質。締まり強い。

SI-64



1. 灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
2. 暗褐色土 ロームブロック・粘土を含む。
3. 黒褐色土

SI-61



1. 灰褐色土 ロームブロック粒子を多数含む。
2. 灰褐色土 ロームブロックと粘土を多数含む。
3. 暗褐色土 粘土粒子を多数含む。
4. 黒褐色土 ロームブロック・粘土ブロックを少量含む。
5. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
6. 暗褐色土 土に粘土が混入。色調がやや明るい。
7. 灰褐色土 ローム粒子を少量含む。

第32図 SI-58・61・64遺構図

SI-59

調査区外

カマド

粘土ブロック

1. 暗褐色土 黒褐色土を多量含む、粘性、硬まり強い

1/50 0.00m

SI-60

カマド

P4

P1

SI-59

P3

P2

1. 暗褐色土 ロームブロック・粘土を少量含む
 2. 灰褐色土 ロームブロック・粘土を少量含む
 3. 灰褐色土 ローム粘土を少量含む
 4. 灰褐色土 粘土粘土を多量含む
 5. 黄褐色土 粘土粘土・焼土粘土を多量含む
 6. 暗褐色土 粘土粘土を含む
 7. 田代粘土 腐り方

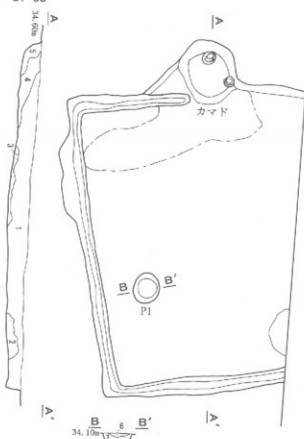
1/50 0.00m

1. 暗褐色土 ローム粘土を多量含む
 2. 黒褐色土 ローム粘土を多量含む

2m

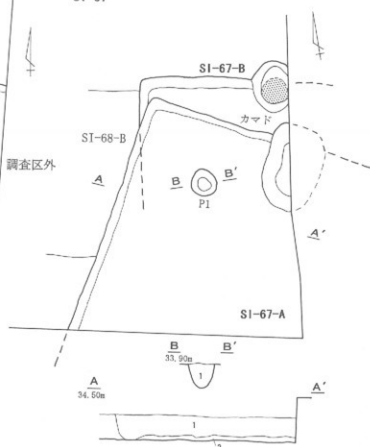
第33図 SI-59・60遺構図

SI-65



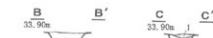
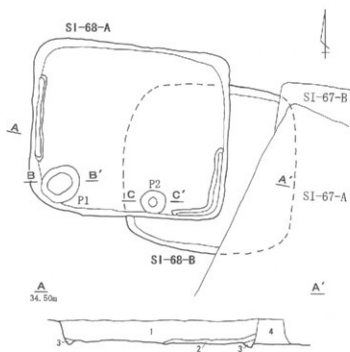
1. 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多数、副産物・焼けた子を併量含む。粘性あり、締まり強い。
2. 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性なし、締まりあり
3. 褐色土 ローム粒・ロームブロックを少量、焼けた子を多数、白色粘土ブロック、焼土粒を少量含む。粘性あり、締まりあり
4. 暗褐色土 締まり強い。
5. 黒褐色土 締まり強い。
6. 褐色土 ロームブロックを多数含む。締まり強い。
7. 褐色土 灰褐色土粒子含む。ロームブロックを多数含む。締まり強い。

SI-67



1. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
2. 灰褐色土 焼土粒を少量含む

SI-68



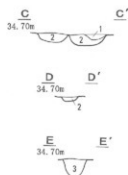
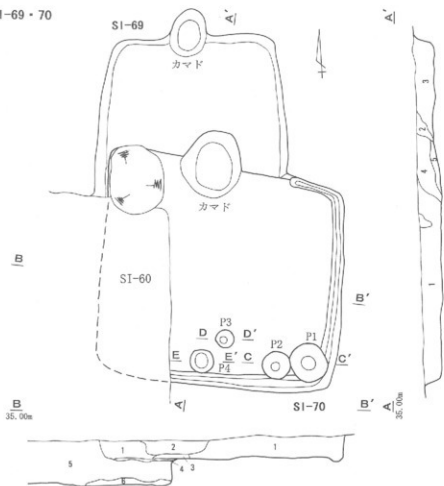
1. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
2. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
3. 暗褐色土 焼土粒を少量含む

1. 灰褐色土 ロームブロックを多数、ローム粒子を少量含む
2. 暗褐色土 灰褐色土粒を多数含む
3. 暗褐色土 ローム粒子を多数含む
4. 暗褐色土 焼土粒を多数、ローム粒子を少量含む、3500 層土



第34図 SI-65・67・68遺構図

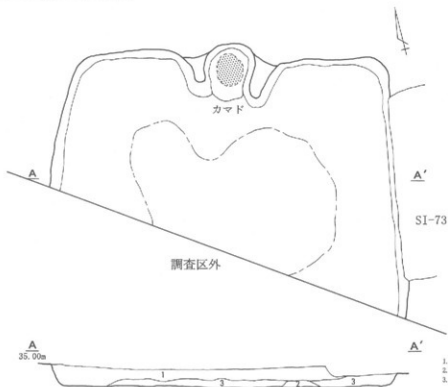
SI-69・70



1. 灰褐色土 粘りなし、締まりあり
2. 褐色土 ロームブロック粒子を含む、粘りなし、締まりあり
3. 褐色土 ローム粒子を少量含む、粘り、締まりなし

1. 暗褐色土 ローム粒子を少量、ロームブロックを散見含む、粘性、締まり強い
2. 暗褐色土 粘土粒子を多量、灰色粘土粒子を少量含む、粘性、締まり強い
3. 暗褐色土 ロームブロック粒子を多量、粘土粒子を少量含む、粘性、締まり強い
4. 暗褐色土 ローム粒子を多量、粘土粒子を少量含む、粘性、締まり強い
5. 暗褐色土 粘土粒子を中量含む、粘性弱い、やや締まりあり

SI-72

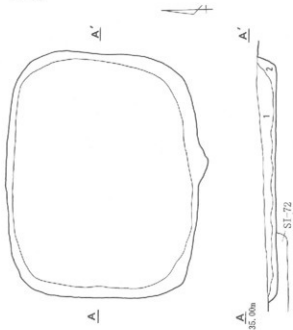


1. 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
2. 灰褐色土 ロームブロック主体
3. 暗褐色土 ロームブロック粒子を多量含む



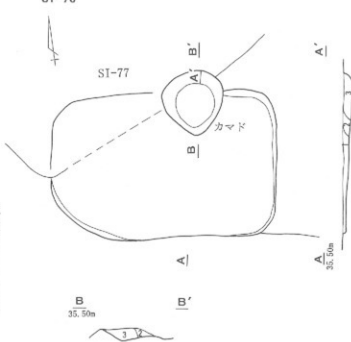
第35図 SI-69・70・72遺構図

SI-73



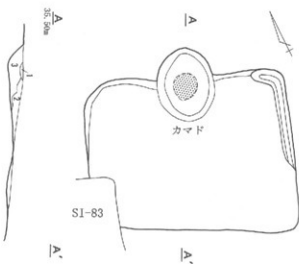
1. 暗褐色土 黒色土粒子を多数含む。
2. 暗褐色土 ロームブロックを多数含む。

SI-76



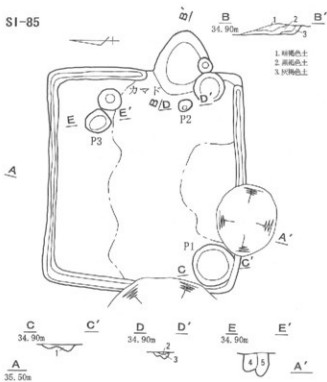
1. 深褐色土 褐色土粒子を多数含む。粘性、締まり強い。
2. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。粘性、締まり強い。
3. 暗褐色土 焼土粒子を多数、ローム粒子を少量含む。粘性、締まり強い。

SI-84



1. 深褐色土 粘性、締まり強い。
2. 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。粘性、締まり強い。
3. 暗褐色土 焼土粒子・ローム粒子を少量含む。粘性、締まり強い。

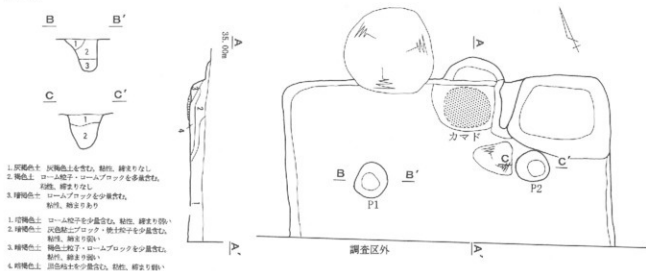
SI-85



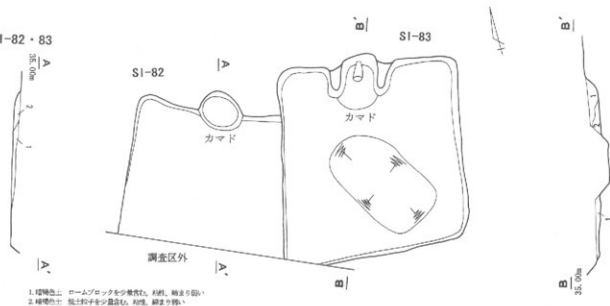
1. 暗褐色土 粘性、締まりなし。
2. 深褐色土 粘性、締まりなし。
3. 褐色土 粘性、締まりあり。
4. 深褐色土 粘性強い、締まりあり。
5. 深褐色土 質粘土層に、粘性、締まりなし。

第36図 SI-73・76・84・85遺構図

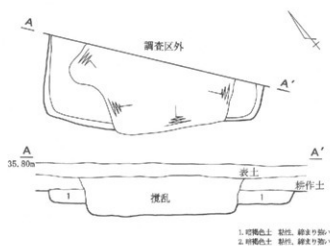
SI-81



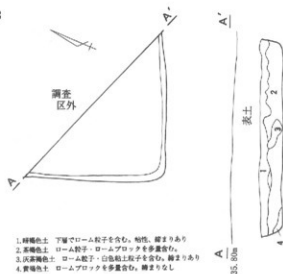
SI-82・83



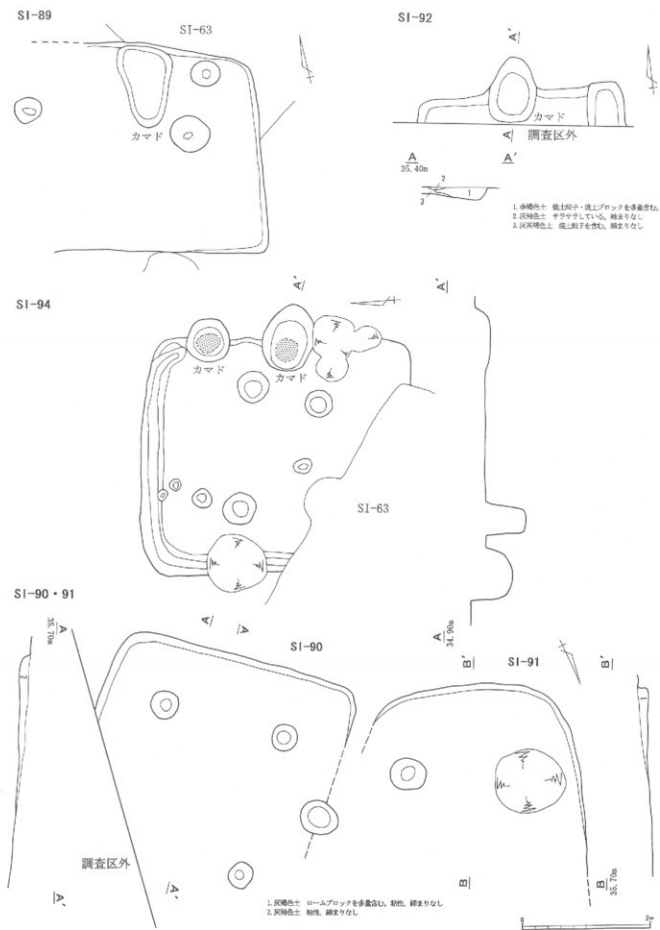
SI-87



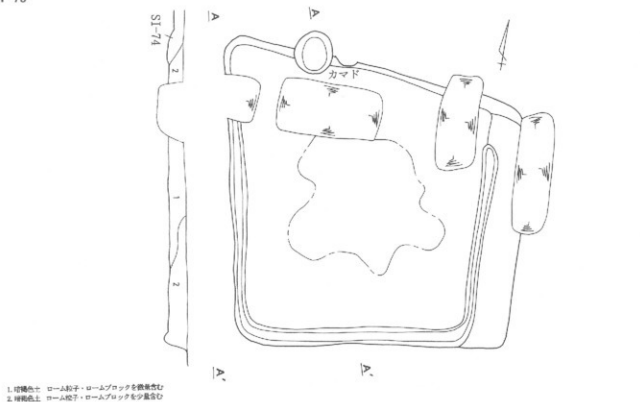
SI-88



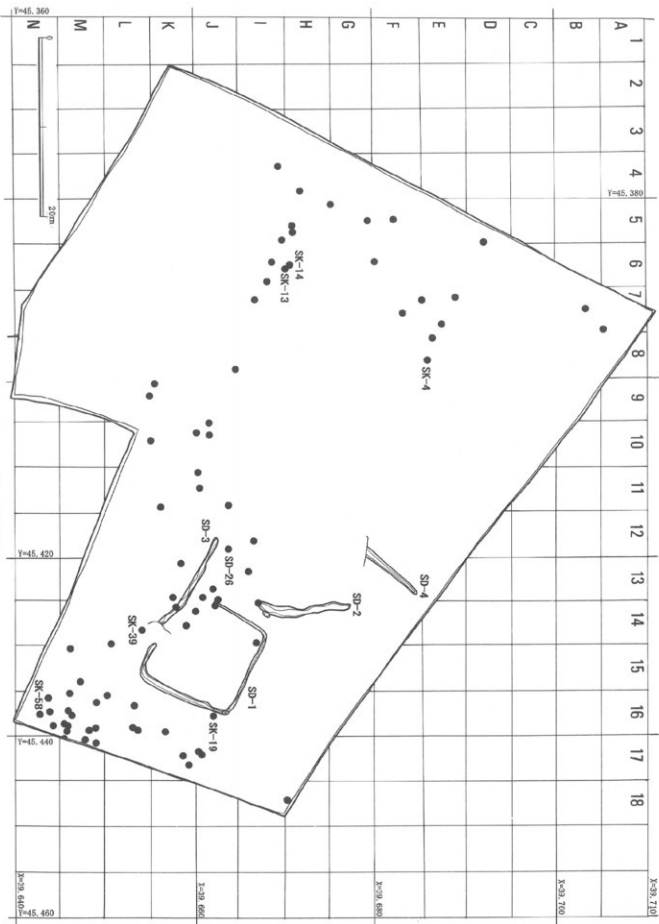
第37図 S I - 81・82・83・87・88遺構図



第38図 S I - 89・90・91・92・94遺構図



第39図 SI-75遺構図



第40图 港・土坑配置图

2. その他の遺構

本調査では堅穴住居跡の他に井戸跡1基、土坑89基、溝跡4条の遺構が検出されている。

(1) 井戸跡

SE-1 (第41図)

調査区北西部北壁近く、SI-8とSI-2の中間部のD9グリッドに位置する。平面形状は直径2.7m前後の円形を呈す。断面形状は段掘り状態で、中央北よりの径1.6m、検出面からの深さ1.5mの部分は平坦になり、さらにその中央0.5mの部分は未調査ではあるがより深く掘り込まれている。

段掘り上部の壁は、底面から約0.4mの所までは垂直に立ち上がり、その上部はラッパ状に開き立ち上がっている。覆土は大きく縦方向に二分割、すなわち中心部と段上部の周辺部に分けられる。周辺部は大きく上下2層に区分でき、下層はやや色調の明るい暗褐色土で硬く締まっている。上層はロームブロックを多量に含む暗褐色土で、下層同様硬く締まっており、上下いずれも人為的な埋め土だと思われる。中心部についても基本的に上下2層に区分でき、下層下部は未調査のため、確認していないが、上下とも色調の暗い暗褐色土が主体で締まりはやや弱い。

本遺構の帰属時期は、出土遺物や住居の位置関係等から奈良平安時代のものと考えられる。

(2) 土坑

89基検出された土坑は、その分布状況を概観すると調査区のはほぼ全域に亘り検出されているが、特に南下半の南東部、南西部により多く密集し分布していることが看取される。また、その多くは堅穴住居跡を壊して構築されており、特に重複遺構の集中する西側においてその傾向が著しい。平面形状は、土坑と認識して調査したもののすべてがほぼ円形(楕円・不整形を含む)を呈し、断面形状も殆どの遺構が隅の丸い箱型を呈している。規模については直径が概ね1.0m～1.5mの中に納まり、深さは検出面の違いこそあれ、概ね60cm以内に納まるようである。覆土は締まりの弱い黒褐色土または暗褐色土の混じり土が主体で、堆積状態についても大半が単層で土層が区分できたものについても自然堆積ではなく人為的な埋め戻し、または、非常に短期間で埋没したものと思われる。出土遺物については、そのすべてが弥生土器や古代の遺物であり、いずれも遺構に伴うものではなく埋没時の流れ込みによるものごとと思われる。以上のような状況から考えると、89基検出された全土坑の帰属時期は、切り合いの新旧から見れば大きく中世以降であり、また、形状や覆土の状況から見れば、当該地方特有の近代の芋穴に酷似しており、この点から見れば、近代以降と考えられる。いずれにしても、調査区全域に分布する土坑については、弥生時代～奈良平安時代の堅穴住居跡と同時期に存在した遺構では無く、近代以降の芋穴である可能性が非常に高い。このため、本書ではその代表的なもの6基(SK26・13・14・58・39・4)を図示し報告するとともに、その他の遺構については写真及び実測図のみの資料保存を行うこととした。

SK-26 (第41図)

調査区中央やや東より、J12グリッドに位置する。平面形状は、直径1.4mの円形を呈す。断面形状は深さ0.55mの箱型を呈し、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。覆土は締まりの弱い暗褐色土主体の単層で、上部は耕作土に攪乱される。

SK-13・14 (第41図)

調査区中央西壁より、H6グリッドに位置し、SK13がSK14を壊し、また、古墳時代の住居跡S127の南東壁を壊している。平面形状は、直径1.4m前後の円形を呈す。断面形状はSK13が深さ0.3m、SK14が0.2mの隅の丸い箱型を呈し、壁はともにやや丸みを帯び立ち上がる。覆土は暗褐色土主体である。

SK-58 (第41図)

調査区南東隅、N16グリッドに位置する。平面形状は、長軸1.1m、短軸0.9mの南北に長い楕円形を呈す。断面形状は深さ0.65mの底部の丸い箱型を呈し、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。覆土は締まりの弱い黒褐色土主体で、上部は耕作土に攪乱される。

SK-39 (第41図)

調査区南東隅、L14グリッドに位置する。平面形状は、一辺1.3mの円形に近い隅丸方形を呈す。断面形状は深さ0.4mの底部の丸い箱型を呈し、壁の立ち上がりはやや外側に開き立ち上がる。覆土は締まりの弱い暗褐色土主体で、基本的に2層に区分され、上部は耕作土に攪乱される。

SK-04 (第41図)

調査区中央やや北西より、E8グリッドに位置する。平面形状は、長軸一辺1.25m、短軸1.0mの卵形を呈す。断面形状は深さ0.3mの逆台形型を呈し、壁の立ち上がりはやや外側に開き立ち上がる。覆土は黒暗褐色土主体の単層である。

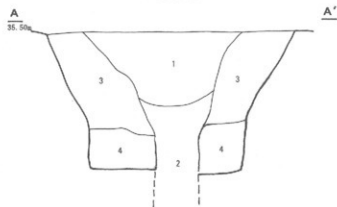
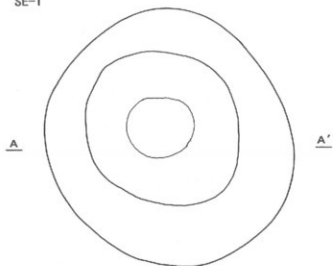
③ 溝跡 (第42図)

溝跡は、調査区東部で合計4条が検出された。いずれも溝幅は検出面での状況にもより多少の大小はあるが概ね50cm前後であり、断面形は浅い皿状を呈す。

SD01は溝の中では最も東よりに位置しており、南西角は途切れてはいるが一辺約10mの方形の範囲を区画するように廻っており、SI45・44・55を壊している。

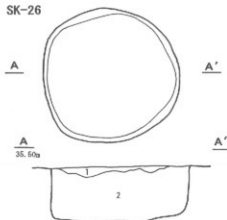
(伊藤 俊治)

SE-1



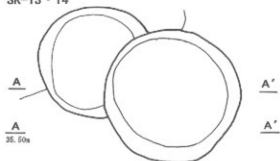
1. 埋め土: ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性、締まり強い。
2. 埋め土: ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性、締まり非常に弱い。
3. 埋め土: ロームブロック・埋め土ブロックを多量含む。
4. 埋め土: 締まりあり。

SK-26



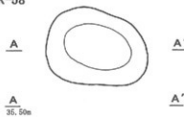
1. 埋め土: 粘性なし、締まりあり。
2. 埋め土: ローム粒子を少量含む。粘性なし、締まりあり。

SK-13・14



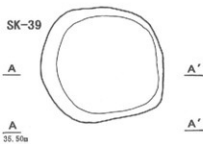
1. 埋め土: ロームブロックを多量含む。粘性、締まり強い。
2. 埋め土: ロームブロック・高粘性土粒子を少量含む。粘性、締まり強い。
3. 埋め土: ローム粒子を少量含む。粘性、締まり弱い。

SK-58



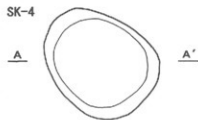
1. 埋め土: ローム粒子を少量含む。粘性、締まりなし。
2. 埋め土: 粘性、締まりなし。
3. 埋め土: ロームブロックを多量含む。粘性、締まりなし。

SK-39



1. 埋め土: 粘性、締まりなし。
2. 埋め土: ローム粒子を少量含む。粘性、締まりなし。
3. 埋め土: ロームブロックを少量含む。粘性、締まりなし。
4. 埋め土: ロームブロックを少量含む。粘性、締まりなし。

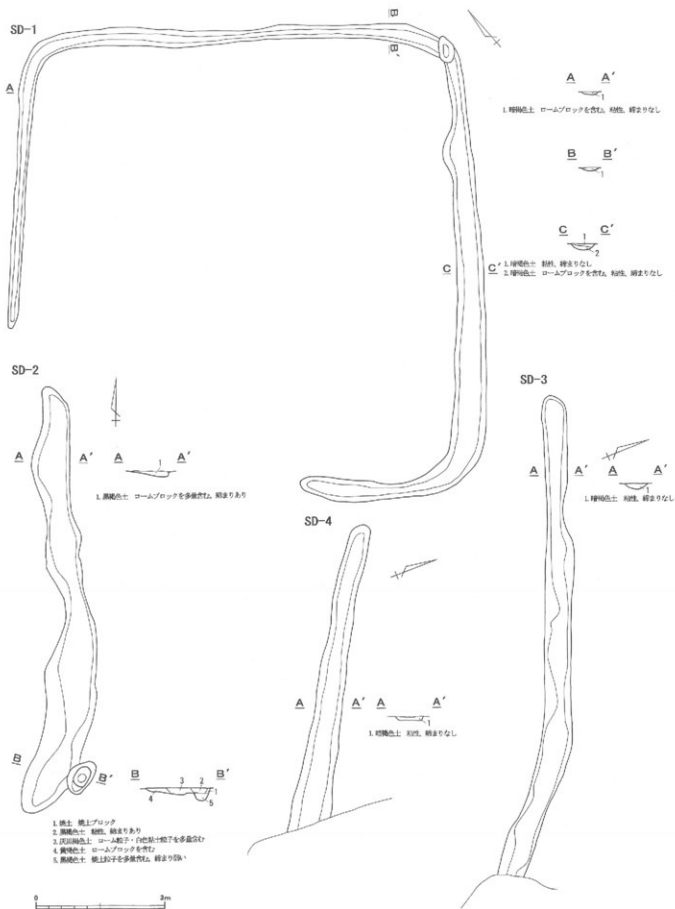
SK-4



1. 埋め土: ローム粒子・高粘性土を少量含む。粘性、締まり強い。



第41図 SE-1・SK-4・13・14・26・39・58遺構図遺構図



第42図 SD-1・2・3・4遺構図

Ⅲ 出土遺物

1. 竪穴住居跡出土遺物

調査の結果、竪穴住居跡を中心に弥生土器・土師器・須恵器、その他木製品など多数の遺物が出土している。その総量は60×34×20cmのテン箱にして約70箱にのぼる。本書ではこれらの出土遺物について遺構毎に主なもの、基本的には遺構に伴うカマドや床直の遺物及び流れ込みのものでも特徴的なものを中心に代表的なものを選出し図示した。ただ、整理を含む調査期間が非常に短かったことから、図示するものの数量をある程度限定した。

(1) 弥生時代

SI-5

図示した遺物は、弥生土器・壺14点である。1・14は、弥生時代末期の十王台式土器の壺で、14はPit5から出土した。1は口縁部にLR縄文地に刺突文が施され、胴部はLR縄文が施されている。頸部は無文である。底部を除き、口縁から胴部まで約半分が残存している。14は、胴上部に横走する櫛描文の上に縦走の櫛描文、下に捺糸文が施されている。胴部の櫛描文の下3箇所に捺糸文の上に重なるようにして窓絵状に四角く区画したヘラ描き文が施される。底部には木葉痕が残る。口縁・頸部は欠損するが、胴部から底部はほぼ完存する。2は、口端部にLR縄文を施し、口縁部はLR縄文地の端に竹管による円文が施されている。3は、壺の頸部で、縦位の3本の櫛描文の間を横位の櫛描波状文が充填している。4・5には櫛描文・LR縄文が施されている。7～10は、胴部に捺糸文が施されている。11の胴部にはRL縄文が、12・13には胴部に羽状縄文が施されている。

SI-28

図示した遺物は、弥生土器・壺20点である。1は、小壺の肩～胴部で、肩部には鋸歯文、胴部には櫛描文・LR縄文が施される。2は、口縁部を折り返して成形し、キザミ目を付ける。3・4は頸部で、鋸歯文・櫛描文が施されている。5～7は縄文地の端に刺突文が施される。13は羽状縄文に刺突文が付く。18～20は胴部がLR縄文の壺で、18の底部には棒状瓦痕が、19・20には木葉痕が残る。

SI-33

図示した遺物は、弥生土器・壺23点、土製品1点である。1～6は壺の口縁部である。1は、LR縄文地に刺突文が施される。2・3は折り返し口縁で、2には11唇部から口縁部にかけてLR縄文が、3には口唇部と頸部に捺糸文が施される。4は口唇部から口縁部の捺糸文地に刺突文が施される。5・6は折り返し口縁に指頭による押圧がなされ、5の口縁部内面には、捺糸文が施される。7～10は頸部で、7には4歯の櫛描波状文が、8には斜位の櫛描文が格子状に施されている。9はLR縄文地に竹管による環状刺突文が2段に渡り施されている。10～12の頸部には横走する櫛描文の上位に山形文が描かれ、胴部にはLR縄文が施される。10・11は接合しないが同一個体と思われる。13～15は捺糸文が施され、13には上部に櫛描文が、15の上部には刺突文が施される。20の胴部には、羽状縄文が施される。21・22の底部には木葉痕が、23の底部には、やや細かい布目が残る。24の土製品は、径4.1、厚さ1.3cmの円盤形を呈し、表裏・横面に竹管による環状刺突文が施文され、中央には径0.4cmの孔が一個穿たれている。土製品の飾りと思われる。

SI-42

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-44

全体的に遺存度が悪く破片が多いが、図示した遺物は、弥生土器・壺30点である。1は小壺の頸部から胴部で、頸部には縷状文が、胴部にはLR縄文が施される。2～8は口縁部である。2・3は、RL縄文地に刺突文が施されている。4は燃糸文が格子状に施される。5～7は折返し口縁で、8には指頭押圧された隆帯が1条施されている。10～16は頸部である。10には3箇の、11には6箇の櫛描波状文が施される。12はかなり崩れた櫛描波状文である。16は縦・横の櫛描文で区画した部分に櫛描波状文を充填している。16は縄文による押圧文様の頸部に半箆竹管による連弧文が施される。17～20は、肩・胴部で、櫛描文・櫛描波状文を上部に、縄文・燃糸文を下部に施す。23・24は縄文地に刺突文が施されている。28の底部には木葉痕と布目が残る。

SI-45

図示した遺物は、弥生土器・壺17点である。1は折返し口縁部で、口唇・口縁部にRL縄文が、折り返しの端部にはキザミ目が入る。2の口唇部にはキザミ目、口縁部には羽状縄文に刺突文が施される。3～6は頸部で、3にはかなり崩れた櫛描波状文、4には櫛描波状文、5には鋸歯文、6には隆帯に刺突文、隆帯の下にはLR縄文が施されている。7～14は胴部で、7～10には縄文が、11～14は羽状縄文が施される。15～17の底部には木葉痕が残る。

SI-54

図示した遺物は、弥生土器・壺13点、土製品1点である。1は弥生時代末期の十王台式土器の壺で、口縁部は折り返して成形されている。口縁部は縄文地に折り返し部分の端部を刺突文で抑えるようにしている。肩部には縷状文が3条横走する。胴部は羽状縄文による地紋を有する。底部には木葉痕が残る。床面直上から出土した。2～4は同一個体と思われる壺の口縁部で、口唇部にキザミ目、口縁部には2段に刺突文が施される。地紋はLR縄文である。5は、口唇部にキザミ目、口縁部に指頭による押圧が施される。6は、縦走する櫛描文を境に左に櫛描格子文、右に櫛描波状文が施される。7の肩部は、縦・横に櫛描文で区画し櫛描波状文を充填し、胴部はLR縄文を有する。8は、縦・横走する櫛描文による区画を、櫛描波状文と横走する櫛描文が充填する。胴部は燃糸文である。9～13は、胴部に羽状縄文を施す。13の底部には木葉痕が残る。口縁・肩部は欠損しているが、遺存度は高く、床面直上から出土した。14は円盤状の土製品で、径が6.1、厚さ1.5cmを測る。周囲は削って加工したと思われる。

SI-62

図示した遺物は、弥生土器・壺16点である。1・2の口縁部は折り返して成形されている。1は口唇・口縁部にキザミ目その下から燃糸文が施されている。3は、磨耗が激しいが、縷状文の下部に櫛描波状文が施されている。4には櫛描波状文が、5には、櫛描波状文・横走の櫛描文・LR縄文が施されている。6～7は燃糸文、9には縄文、10～15には羽状縄文が施されている。14～15の底部には木葉痕が残る。16は弥生時代末期の十王台式土器で、頸部に櫛描波状文、その下を縷状文で区切り、縷状文の下には羽状縄文が施される。底部には木葉痕が残る。口縁部が欠けているが、頸部から底部はほぼ残存している。

SI-66

図示した遺物は、完形の弥生土器・甕1点である。1は、弥生後期の樽式土器である。頸部の括れが少なく、やや膨らみのある胴部から反り口状の口縁部へと続く。口縁部にキザミ目、胴上部に櫛描文が廻る。櫛描文は波状文がかなり崩れた形になっている。底部には木葉痕が残る。口縁部を下にして床面直上から出土した。

SI-74

図示した遺物は、弥生土器・壺の破片2点である。1の口縁部は折り返して作られており、口唇部にはキザミ目があり、口唇部には押型文、頸部には櫛指による連弧文が施されている。2の胴部にはLR縄文が施され、底部には木葉痕が残る。

SI-77

図示した遺物は、弥生土器・壺4点である。1は捲糸文が格子状に、2・3には羽状縄文が施されている。4には木葉痕が残る。

SI-78

図示した遺物は、弥生土器・壺の胴部片4点である。1～3は捲り糸による施文で、1の上部はナデによる無文である。4はRL縄文である。

SI-79

図示した遺物は、弥生土器・壺の胴部片1点である。

SI-80

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-86

本遺構からの掲載遺物はない。

②古墳時代

SI-3

図示した遺物は、土師器・高坏、甕各1点である。1は高坏の坏部である。体下部に明瞭な稜を持ち、口縁・体部は直線的に外方へ広がる。坏部と脚部の粘土接合部ではかれ脚部が欠損している。内外面丁寧にヘラ磨きされている。内外面に赤漆が、外面には赤漆の上に黒漆が施されている。2の甕は、口縁部は横ナデ、胴部はヘラによる整形後ナデ調整、胴下部は磨いて整形されている。胴上部にはヘラ状工具痕が残る。

SI-4

図示した遺物は、土製品・支脚1点である。1は、上部に括れを持ち、直線的にハの字状に下方へ広がる。上部には径3.5cmの楕円形の孔が開いている。外面はヘラ削り・ナデ整形、内面は指ナデ整形である。一部欠損しているが遺存度は高い。6世紀後半の遺物と思われる。

SI-14

図示した遺物は、土師器・坏3点、甕3点、土製品・支脚1点、鉄製品・刀子1点である。1・2の坏は、須恵器模倣の坏で、丸底から口縁部外面に稜を持ち内傾する。1は、体部外面をヘラ削り後ヘラ磨きし、2の体部外面はヘラ削り成形をする。2の内面には放射状暗文の磨きが施される。3の口縁部は横ナデ、体部は指頭による成形で、底部には木葉痕が残る。4の平底の甕は器壁が厚く、粘土紐の接合痕が明瞭に残る。胴・底部外面はヘラ削りされている。8は、鉄製

の刀子の茎で、木質部が残存する。

SI-15

図示した遺物は、土師器・坏3点、甕5点、甌1点、石製品・砥石1点である。土師器・坏3点（1～3）は、腰部に稜を持ち、口縁・体部はやや外反しながら広がる。内外面ヘラ磨きが施される。1の底部内面には「×」のごく浅いヘラ書きが付く。4は、厚手の土師器・甕で全体をナデ整形しており、肩部の張りも少ない。6～8は、小型の甕で、6の胴部外面はナデ、7・8はヘラ削りで整形している。9の小型甌の胎土は緻密で、口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ヘラ磨き調整をする。瓶孔は単穴で径3.6cmを測る。10は、小型の砥石で、表裏2面を使用している。一方の端部に径0.3cmの円孔が一箇所穿たれている。

SI-22

図示した遺物は、土師器・坏3点、甕3点、須恵器・坏1点、土製品・櫛の羽口1点である。1は口縁・体部の境に鋭い稜のある土師器・坏で内面は放射状の暗文が施される。稜の直上から全く欠けており、故意に打ち欠き、破損後も再利用した可能性がある。稜から下は完存している。2は、内外面ヘラ磨き調整され、底部外面には磨きの上から放射状暗文が施されている。やや丸底の底部から体上部に稜を持ち、口縁部は内傾する。3はロクロ成形の土師器で内面はヘラ磨きされている。黒色処理はされていない。4～6の土師器・甕は完形の状態で甕から出土した。4・5は甕の炙き口から正位の状態で二つ並んで出土し、6は甕の右袖の外から正位の状態出土した。4は、小型の甕で、口縁部横ナデ、胴部外面はナデ整形している。7は、6世紀末のTK209形式の須恵器・坏身で外面に蓋受けを持ち、口縁部は内傾する。8の櫛の羽口は、欠損している。一方の端部が酸熱により変色し、一部に溶変した金属が付着している。

SI-24

図示した遺物は、土師器・甕1点である。1はピット内から出土した古墳前期の五領式土器で、胴部外面はハケ目で調整されている。底部・胴部の一部は欠損しているが、遺存度は高い。

SI-27

図示した遺物は、土師器・甕3点、器台2点である。1は、内外面ハケ目で調整されている土師器・甕で、球形の胴部から頸部は「く」の字状に曲がり、口縁部は直線的に開く。胴上部と口縁部の径がほぼ同じである。平底である。2は、口縁部から胴中央部まで細かいハケ目で調整され、胴下部から底部はヘラ削り調整されている。肩部内面に粘土紐の輪積痕が顕著に残る。最大径は胴下半部にある。3は折り返し口縁の甕で、頸部に補強の為と思われる粘土が帯状に巻かれている。4・5は3箇所に透孔がある器台で、外面がヘラ磨き、内面はハケ目で調整する。5の裾部はやや外反する。

SI-30

図示した遺物は、土師器・手捏ね土器1点、土製品・支脚1点である。1はほぼ完形で出土した。指頸による成形で、口縁部には粘土紐接合痕が顕著に残る。2の支脚は、円筒形の下部が膨らんだ形で、所々ヘラ削り整形が見られる。

SI-32

図示した遺物は、土師器・甕3点、土製品・ミニチュア1点である。1は、土師器の甕で、口縁～胴上部にはハケ目が、胴下部にはハケ目後にヘラ削りが施される。2は甕の口縁部で、内外面にハケ目、3の肩部にはハケ目調整が残る。

4は、ミニチュアの坏で、口縁部は粘土紐を輪積みして成形し、内側は折り返し口縁様の形態をなす。外面には、粘土紐を接合した指頭匠痕が残る。内面はハケ状工具によるナデ調整がされている。

SI-43

図示した遺物は、土師器・鉢1点、甕1点、甌1点である。1の土師器・鉢は丸底から口縁部外面に稜を持ち、やや外反しながら上方へ立ち上がる。外面の口縁部は横ナデだがそれ以外は全面へら磨き調整されている。黒色処理はされていない。2は、土師器・甕の口縁部で張りのない肩から頸部は丸く曲がり、口縁部は外へ向かう。口縁部は横ナデ、体部はナデ調整がされている。3は土師器の甌で、外面はへらによるナデと、所々へら磨きが見られ、胴部内面は丁寧なへら磨きが施される。全体的に残存率は低い。

SI-53

図示した遺物は、弥生土器・壺13点、土師器・坏1点、高坏1点、甕5点、ミニチュア土器1点である。1・2はギザミ目のある口縁部で、1は羽状縄文に刺突文が施される。2はLR縄文・刺突文が施されている折り返し口縁である。4・5は、刺突文の下位に縄文が施される。13の胴部には縄文が施され、底部には木葉痕が残る。14は、体部内外面粗いへら磨き調整の丸底の坏で、口縁部はやや外に開く。床面直上から出土した。15の高坏の脚部外面は工具によるナデ調整だが、脚部内面には粘土紐接合痕が明瞭に残る。甕の吹き口から口縁部を下にして出土した。16・17は器壁が厚く、胴部はナデによる整形がなされている。16の底部は欠損しているが、甕として転用されていた可能性がある。南西角壁際の床面直上から出土した。17は甕から出土した土師器・甕の口縁部である。20は、土師器・甕の胴部で、外面にはハケ目調整が残る。21は、ミニチュア土器で、手捏ね成形の俊工具による整形を所々している。東側溝溝から出土した。

1から13の弥生土器は重複するSI-54からの流れ込みの遺物の可能性が高い。

SI-63

図示した遺物は、土師器・坏1点、須恵器・坏1点、皿1点である。1は器壁の厚い坏でやや丸底の底部から口縁・体部は上方へ広がる。外面は体下～底部を手持ちへら削りする。内面は工具によるナデ整形で、内外面に粘土接合痕が残る。2の須恵器・坏はナデ調整した底部から口縁・体部は直線的に外方へ広がる。1・2は甕から出土した。3は酸化焰焼成の皿で、底部はへら切りされている。

SI-71

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-93

図示した遺物は、土師器・甕1点である。1は、器壁が厚く、胴部の張りはなく、頸部は「く」の字状に曲がる。口縁部が横ナデ、胴部外面が縦方向のへら削り整形で、底部に木葉痕が残る。全体的に磨耗している。一部欠けてはいるが依存度は高い。

(3) 奈良・平安時代

SI-1

図示した遺物は、土師器・甕1点、須恵器・坏2点である。1は、口縁部横ナデ、胴上部ナデ、胴下部へら磨き調整を

する。口縁部は「く」の字状に曲がり、口端部は短くつまみ上げられ、外反する。最大径は胴上部にある。甕左袖の構築材として使用されており、底部は欠損しているがほぼ完形である。2は須恵器・坏で、底部から口縁・体部は直線的に外方へ広がり、口端部は外反する。底部全面を手持ちヘラ削りする。ヘラ書き「フ」がある。体部外面には、判読できないが横位に墨書「□□」が書かれている。甕の奥壁付近から出土した。3は、酸化焙焼成の須恵器・坏で、体部は全体的に内湾しながら立ち上がり、底部は右回転糸切り難しされている。ほぼ完形である。

SI-2

図示した遺物は、土師器・坏1点、甕1点である。1は、東甕から出土したロクロ成形の高台付きの坏の底部で、内面はヘラ磨き・黒色処理されている。高台は底部ヘラ削り後貼り付けられている。2は、口縁・胴上部の一部残存しているのみだが、胴部が緩やかに下方へすぼまる形状から甕と判断した。口縁部横ナデ、胴上部はナデ調整後ヘラ状工具によるナデ調整が部分的にされている。口端部は短く上方へつまみ上げられている。北甕から出土した。

SI-6

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-7

図示した遺物は、須恵器・坏1点、鉄製品1点である。1は、8世紀第3四半世紀の須恵器・坏で、底部は全面手持ちヘラ削りされている。2は器種不明の鉄製品で、厚さ0.3cmの環状を呈する。

SI-8

図示した遺物は、土師器・坏1点、甕3点、須恵器・坏1点、土製品・土錘?1点、石製品・砥石1点である。1はロクロ成形の土師器・坏で、胴下～底部を回転ヘラ削りしている。内面はヘラ磨きし黒色処理がされている。2～4は、土師器・甕で、口端部を上方へ短く摘み上げている。4は、口唇部が外反する。5は須恵器の高台付きの坏で、高台はハの字状に広がる。7の砥石は、流紋岩質凝灰質岩で、一方の端部は欠損しているが、長側面4面使用し、3面には筋状の使用痕が残る。図示しなかったが、体部外面に「財万カ」の墨書がある内面黒色処理された土師器・坏が出土した。

SI-9

図示した遺物は、土師器・甕1点、須恵器・坏1点、小皿1点である。1は平底の甕で、胴上部はナデ、胴下部はヘラ削り調整をする。胴部の張りはなく最大径は口縁部にある。2の体下～底部は回転ヘラ削りをする。3の底部はヘラ切りをする。

SI-10

図示した遺物は、土師器・甕1点、須恵器・甕1点である。1の口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り調整されている。口端部は短く摘み上げられている。2は口縁部内面に返りが付く須恵器・甕で、天井部が回転ヘラ削りされている。

SI-11

図示した遺物は、土師器・坏1点、甕1点、須恵器・坏1点、土製品・支脚1点である。1のロクロ成形土師器は、体

下～底部が回転ヘラ削り調整され、内面はヘラ磨き・黒色処理されている。底部内面にはヘラ磨き後、判読不明だがヘラによる文字が書かれている。2～4は甕から出土した。2の臺の口縁部は短く上方へ積み上げられ、口端部は外反する。胴部はナデ整形されている。3は、酸化焰焼成の須恵器で、底部はヘラ切りされている。口縁・体部が半分ほど欠損しているが、口縁部を下にして甕の支脚に被さるように出土した。4は円柱形の甕の支脚である。図示しなかったが、坏の体部に墨書のある内面黒色処理された土師器・坏が出土した。

SI-12

図示した遺物は、土師器・高台付き坏1点、甕1点、須恵器・坏1点、高坏1点である。1は、ロクロ成形の後、内面をヘラ磨き・黒色処理した土師器で、欠損しているが、高台が付いていた痕跡が残る。体部外面には横位に「大」と思われる墨書が付く。2の土師器・甕は口縁部が横ナデ、胴部がナデ調整である。口縁部に稜があり、口端部を短く上に積み上げ外反させる。甕から出土した。3の須恵器は口縁・体部が直線的に外方へ広がる。底部は、ナデ調整をする。4の高坏の口端部は上方へ積み上げられる。内面の磨痕が顕著なため、転用碗として使用した可能性がある。図示していないが、体部外面に「大」の墨書がある内面ヘラ磨き・黒色処理した土師器・皿1点、体部外面に「大カ」、底部外面に判読不明の墨書のある内面にヘラ磨き・黒色処理した土師器・坏1点が出土した。

SI-13

図示した遺物は、須恵器・坏2点、高台付甕2点である。坏2点の底部はヘラ切りされ、2の底部外面にはヘラ書きがある。1・2の口縁・体部は直線的に外方へ広がり、2の口縁部はやや外反する。3・4は高台付甕で、口縁部は短くやや外反する。高台は貼り付けている。

SI-16

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-17

図示した遺物は、土師器・坏2点、須恵器・甕1点である。1・2は内面をヘラ磨き・黒色処理をし、1は右回転糸切り轆し後外周を手持ちヘラ削りする。2は、体下部～底部全面をヘラ削りする。口径に対して器高は低い。底部外面には墨書「大□」がある。3は、酸化焰焼成の須恵器・甕で、胴部外面には平行叩き、内面には当て道具痕が残る。胴下部はヘラ削り調整する。底部は欠損しており孔の数は不明である。3点とも遺存度は高い。

SI-18

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-19

図示した遺物は、土師質土器・高台付坏4点、小皿2点である。1は、体下～底部外面ヘラ削り後、高台を貼り付け、内面はヘラ磨き・黒色処理をする。甕の焚き口付近から出土した。2・4は足高高台の坏で、高さのある脚部がハの字状に広がる。3は歪みが大きく、高台は欠損しているが、足高高台と思われる。5・6の小皿の底部はヘラ切りされている。

SI-20

図示した遺物は、土師器・高台付埴1点、須恵器・坏1点である。1はロクロ成形の土師器・埴で、体下～底部全面ヘラ削りの後高台を貼り付けている。内面はヘラ磨き・黒色処理する。2は、須恵器・坏の体下～底部で、底部は全面手持ちヘラ削り調整されている。

SI-21

図示した遺物は、湖西窯の須恵器・甕1点で、球形の胴部から口縁部は外方へ広がる。肩～胴部外面は平行叩きの後ナデ調整されている。口縁部内面・胴部外面には降灰物が付く。

SI-26

図示した遺物は、土師器・甕1点である。1の頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は短く外に開く。胴部の張りは少なく、最大径は口縁と胴上部がほぼ同じである。口縁部は指頭による成形後、横ナデにより整形されている。口縁部の指頭圧痕が顕著である。胴部は縦方向の軽いヘラ削り・ヘラナデ整形されている。胴最下部は横方向のヘラ削り調整である。底部は欠損しているが、遺存度は高い。

SI-29

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-31

図示した遺物は、土師器・坏2点、土師質土器1点、鉄製品・鎌1点である。1～3は全てロクロ成形後底部ヘラ切りで、1・2は内面ヘラ磨き・黒色処理されている。1の口端部は肥厚する。2の器高は低く、皿に近い。1・2はほぼ完形で出土した。4の茎部は欠損しているが雁又式の鉄鎌で、現存長6.3cmを測る。床面直上から出土した。

SI-34

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-35

図示した遺物は、土師器・坏1点である。1は、体部に稜を持つ丸底の坏で、口縁・体部は直線的に外側へ広がる。胎土は緻密で、口縁部横ナデの後底部以外をヘラ磨きする。黒色処理はされていないが、口縁部内外面に煤が付着する。全体の3/4程残存する。

SI-36

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-37

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-38

図示した遺物は、土師器・坏1点、須恵器・坏1点である。1はロクロ成形の土師器で底部はヘラ切りされ、内面はヘラ磨き・黒色処理されている。2は底部ヘラ切りされており、胎土に砂粒を多く含む。

SI-39

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-40

図示した遺物は、土師器・坏1点、石製品・紡錘車1点である。1はロクロ成形後底部をヘラ切りし、内面はヘラ磨き・黒色処理する。2は欠けているが、推定径5.0cmを測る断面逆台形の石製紡錘車である。

SI-41

図示した遺物は、土師器・坏1点、須恵器・高台付盤1点である。1は丸底の底部から外面に稜を持ち口縁部がやや内湾しながら立ち上がる土師器・坏で、口縁部は内外面横ナデ、体～底部は内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り調整をする。黒色処理はしない。2は、体部に稜を持ち、口縁部が外反する須恵器・盤で、底部全面ヘラ削り後高台を貼り付けている。底部内面に重ね焼き痕が付く。

SI-46

図示した遺物は、土師器・瓶1点、須恵器・坏1点である。1は、欠損しているが双耳の瓶と思われ、把手は貼り付けられている。胴上部はナデ、胴下部はヘラ削り整形されている。甕から出土した。2の底部はヘラ切りされ、ヘラ書きが付く。

SI-47

図示した遺物は、甕から出土した土師器・坏1点である。1はロクロ成形された土師器で、外面は胴下～底部を回転ヘラ削り調整している。内面はヘラ磨き・黒色処理している。図示しなかったが、内面ヘラ磨き・黒色処理された坏の体部外面縦位に「井」の墨書が付く土師器の破片が出土した。

SI-48

図示した遺物は、土師質土器・坏4点、高台付き皿1点である。1～4は底部をヘラ切りした小皿で、底部内面にはロクロ痕が明瞭に残る。口径は9.6～10.4、器高2.0～2.5、底径6.0～7.0cmを測る。1・2の体部はやや内湾しながら立ち上がり、3の体部はやや直線的に外方へ広がる。4の口縁部はやや外反する。歪みが激しく、胎土には砂粒が多く含まれる。1の口縁・体部内面には煤が付着しており、灯明皿として使用されたと思われる。5は、高台を貼り付けた皿で、口縁・体部は直線的に外方へ広がる。底部の器壁は厚い。全体的に遺存度は高く、1・5は完形である。

SI-49

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-50

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-51

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-52

図示した遺物は、土師器・坏1点、土師質土器1点である。1はロクロ成形の土師器で、体下～底部を手持ちヘラ削りし、内面はヘラ磨き・黒色処理をする。体部から底部外面にかけ縦位に墨書「倉田カ」が付く。2は底部をヘラ切りした小皿である。図示しなかったが、体部外面に墨書が付く内面ヘラ磨き・黒色処理した土師器の小皿が出土した。

SI-55

図示した遺物は、土師器・甕1点、甌1点、須恵器・坏1点、高台付盤1点である。1の外側は口縁部横ナデ、胴上部ナデ、胴下部ヘラ磨き調整をする。内面は、口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ調整をする。張りのない胴部から頸部は緩やかに外方へ向かい、口端部は短く上方へ摘み上げられている。最大径は胴上部にある。住居の北壁際北東角から出土した。4は底部を全面ヘラ削りした後高台を貼付けている。底部外面にはヘラ書きが付く。住居東壁際から口縁部を下にして出土した。

SI-56

図示した遺物は、土師器・坏1点である。高台は欠損しているが、ロクロ成形後底部回転ヘラ削りし、高台を貼付けた痕跡が残る。内面はヘラ磨き・黒色処理する。

SI-57

図示した遺物は、土師器・高台付坏1点、埴1点、須恵器・坏4点である。1は、ロクロ成形後体下～底部を回転ヘラ削りし、高台を貼り付ける。内面はヘラ磨き・黒色処理する。体部外面に横位に「万口」の墨書が付く。2はロクロ成形後体下～底部をヘラ削りし、内面ヘラ磨き・黒色処理する。3～5は須恵器・坏で、4点全てにヘラ書きがある。3・5は酸化焙焼成で赤褐色である。4は小礫をやや多く含む。全体的に遺存度は高く、3は完形である。

SI-58

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-59

図示した遺物は、土師器・甕2点、埴形土器1点、須恵器・坏1点、土製品・土鍾？1点である。1は器壁が厚い土師器・甕で、外面は口縁部横ナデ後ヘラ磨き、胴部ヘラ磨き。内面は口縁部ヘラ磨き、胴部はナデ後磨き。2は甕の肩部破片で、口縁部横ナデ、胴部外面平行叩き痕が残る。内面はやや剥離している。3は、土師器で平底の底部から体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は更に外方へ広がる器形で口縁部が欠損しているため埴形土器とした。内外面丁寧にヘラ磨きされている。4の須恵器・坏は焼成が不良で脆い。底部は全面ヘラ削りされている。甕から出土した。

SI-60

図示した遺物は、須恵器・坏2点、高台付坏1点、蓋1点である。1は、口縁部の一部を除き酸化縮焼成の坏で、底部は全面回転ヘラ削りされている。2の須恵器・坏の内面、体部と底部の境には溝があり、底部はヘラ切りされ、ヘラ書きが付く。3は底部全面ヘラ削り後高台を貼り付ける。底部外面にヘラ書き「1」が付く。4は擬宝珠形の紐が付く蓋で、犬井部外面は回転ヘラ削りされている。内面には降灰物が付着し重ね焼きした痕跡が残る。全体的に欠けてはいるが遺存度は高い。

SI-61

図示した遺物は、須恵器・高台付坏1点である。1は酸化縮焼成気味の須恵器で、口縁部は欠けているが、腰部に稜を持ち、体部は直線的に外方へ広がる。底部は、高台貼り付け後底部全面をナデ調整している。

SI-65

図示した遺物は、土師器・高台付皿1点、甕1点、須恵器・高台付壺1点である。1はロクロ成形の土師器で、口縁・体部はほぼ直線的に外方へ広がる。口縁から底部まではやや深い。体～底部回転ヘラ削り後高台を貼り付けている。内外面に少量の煤が付着する。2は小型の甕で、胴部はやや張り、最大径は胴上部にある。口縁部を下にした状態で甕から出土した。支脚として使用されたと思われる。3は体部外面に稜を持つ須恵器・高台付壺で、欠損しているが、推定口径21.6cmを測る。

SI-67

図示した遺物は、底部ヘラ切りされた土師質土器・小皿1点である。完形で出土した。

SI-68

図示した遺物は、土師質土器・高台付坏1点、小皿1点である。2は体部外面に稜を持ち底部をヘラ切りする。完形で出土した。

SI-70

図示した遺物は石製品・紡錘車1点である。断面は逆台形である。

SI-72

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-73

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-75

図示した遺物は、弥生土器・壺6点、土師器・甕2点、須恵器・蓋1点である。1は折り返し口縁部にキザミ目、その下位に波の浅い櫛描文が施されている。2・3は櫛描波状文だが、3は連弧文状になる。4は頸部に横走る櫛描文を境に、上位に櫛描波状文、下位にLR縄文が施される。6の底部には木葉痕が残る。7・8は胴部外面ハケ目の土師器・甕

の胴部片である。9は扁平な鈕が付く須恵器・甕である。天井部内面には浅いがヘラによる「|」が付く。

SI-76

図示した遺物は土師器・坏1点である。丸底の底部から外面に明瞭な稜を持ち、口縁部は内傾する。体～底部外面はヘラ削り後ヘラ磨きされている。内面はナデ調整。黒色処理はされていない。内外面に煤が付着する。ほぼ完存である。

SI-81

図示した遺物は土師器・高台付坏1点、須恵器・坏2点、高台付坏2点である。1は腰部に稜を持ち、口縁・体部は緩やかに外反しながら外方へ広がる。内面はヘラ磨き・黒色処理をする。底部は全面回転ヘラ削り後高台を貼付けている。体部内面にはロクロ成形時の稜が明瞭に残る。2・3の須恵器は酸化焰焼成で底部はヘラ切りされている。3の底部外面には「金」の墨書が付く。4・5は底部全面ヘラ削り後高台を貼付けている。4の底部外面にはヘラ書き「本」が付く。

SI-82

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-83

図示した遺物は土師器・甕2点、須恵器・坏3点、高台付坏2点、高台付盤2点、鉢1点、短頸壺1点である。1・2の土師器・甕は口縁部を短く上に擠み上げ、口端部をやや外反させている。1は、胴下部を粗くヘラ削りし、底部には木葉痕が残る。2は、口縁部を横ナデし、胴上部にはヘラによる調整後ナデ調整をする。3・4の須恵器・坏は底部全面ヘラ削りしている。5は底部ヘラ削り後中央部をヘラで削っている。8の高台は剥離して欠損しているが、4～9の高台付坏及び盤の高台は貼り付けられている。8の盤の底部外面には、「×」のヘラ書きが付く。底部内面には重ね焼き痕が残る。10の鉄鉢模倣の鉢は、丸底の底部から口縁・体部は内湾する。体下～底部が回転ヘラ削りされ、外面には淡黄緑色の自然釉が付着している。11の短頸壺は張りのある肩部から口縁部は短く立ち上がり、やや外に開く。胴上部に最大径がある。高台は貼り付けている。外面には濃緑色の自然釉が付着する。

これらの遺物は、2の土師器・甕の胴部中央から下部が欠損しているのを除きほぼ完形と依存度が高い。また、壺右脇、住居北東側から纏って出土した。2の土師器・甕の中に3～7の須恵器・坏が、10の須恵器・鉢の中に1の土師器・甕などが入った状態で出土した。11の須恵器・短頸壺は東壁際から正位の状態で出土した。

SI-84

図示した遺物は内面ヘラ磨き・黒色処理したロクロ成形の土師器・坏1点である。体下～底部全面は手持ちヘラ削り調整をする。

SI-85

図示した遺物は土師質土器・皿3点である。1の底部は全面ヘラ削り、2・3の底部はヘラ切りされている。2の内面及び口縁部外面には煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。全てほぼ完形である。

SI-87

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-88

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-89

本遺構からの掲載遺物はない。

SI-90

図示した遺物は石製品・紡錘車1点である。両面に放射状の使用痕が残る。

SI-94

図示した遺物は土師器・坏1点である。1はロクロ成形後底部を右方向の回転糸切り離しをして調整しない。内面は粗いヘラ磨きをし、黒色処理を施す。体部外面には縦位に「久井」の墨書が付く。

2. その他の出土遺物

SE-1

図示した遺物は、須恵器・坏1点、木製品1点である。1の底部は、全面をヘラ削りした後ナデ整形をする。底部外面には「川カ」のヘラ書き、底部内面には「大」の墨書が付く。墨書はかなり薄い。口縁部から体部までは酸化焙焼成、体下部から底部は還元焙焼成である。2は、井戸枠の一部と思われる木製品で、途中より欠損しているが、一方の端部は残存しており、現存長70.8、最大幅12.7、厚さ5.7cmの板状を呈している。端部には片面から臍状に窪みを付け、径6.4cmの円孔を穿つ。

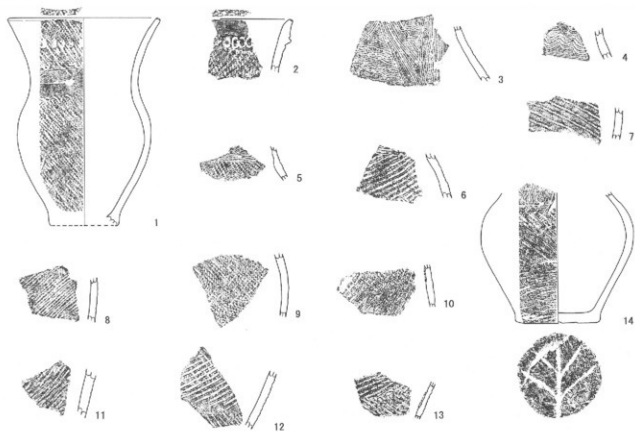
遺構外

図示した遺物は、土師器・坏7点、高坏1点、甕1点、甗1点、須恵器・坏4点、甕1点、炬器・播鉢1点、鉄製品・鏝1点、石製品・ナイフ形石器1点である。1は、体部外面に明確な稜を持つ坏で、内外面ヘラ磨きされている。黒色処理はされていない。2は、丸底の底部から外面に稜を持ち、口縁・体部は外反しながら外方へ広がる。底部外面はヘラ削り、内面は剥離しているがヘラ磨きされている。3・4の土師器・坏は平底の底部から口縁・体部はやや内湾しながら外方へ広がる。体下部をヘラ削り後内外面ヘラ磨きする。粘土は緻密である。5は体部外面に縦位に「田」、それに対面する体部に「□」の墨書が付く。6は内面ヘラ磨きされ、黒色処理を施すが、処理は甘く、全面に黒色化されていない。8は高坏の脚部で、欠けているが3箇所に通孔の痕跡が残る。10の甗は胎土が緻密で、口縁部横ナデ後、外面は縦方向のヘラ削り、内面はナデ後ヘラ磨きで整形する。口縁部には粘土継接合痕が明確に残る。13は酸化焙焼成の須恵器・坏で底部はヘラ削りされている。15の須恵器・甕は酸化焙焼成である。16は欠けているが、注ぎ口を持つ炬器の播鉢で内面には摺痕が認められる。槲目はない。

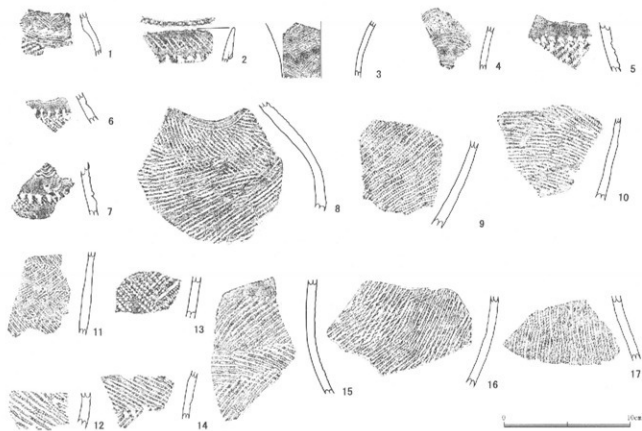
図示しなかったが、横位に「□□」の墨書のあるヘラ磨き・黒色処理された土師器・坏の体部破片が出土した。

(東 早花)

SI-5

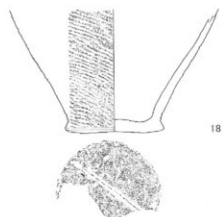


SI-28



第43圖 SI-5・28出土遺物

SI-28



18



19



20

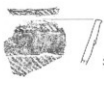
SI-33



1



2



3



4



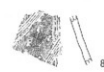
5



6



7



8



9



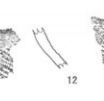
10



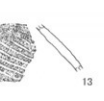
11



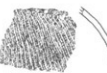
12



13



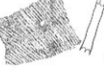
14



15



16



17



18



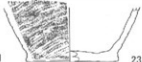
19



20



21



22



23



24



25

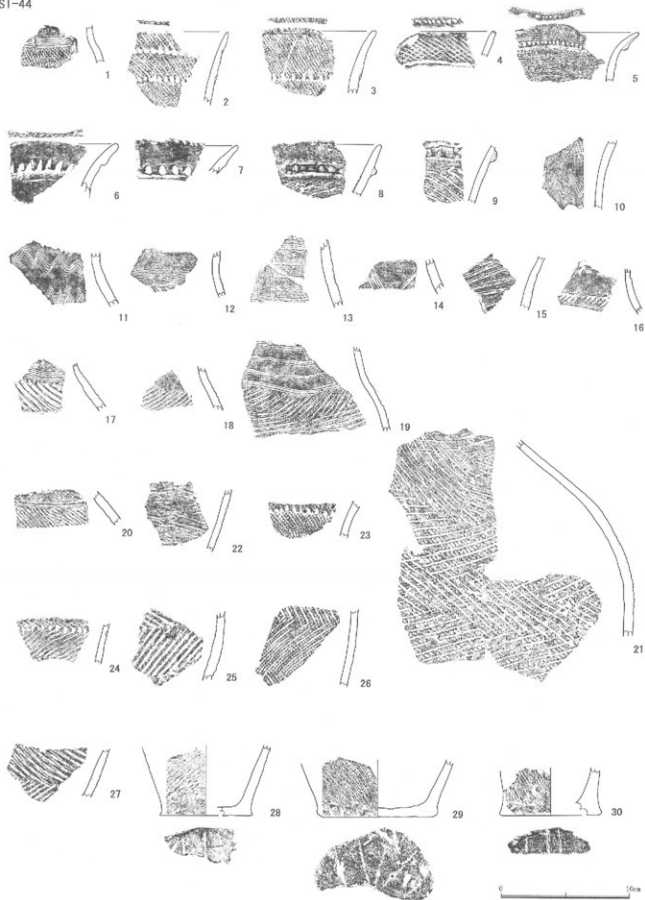


26



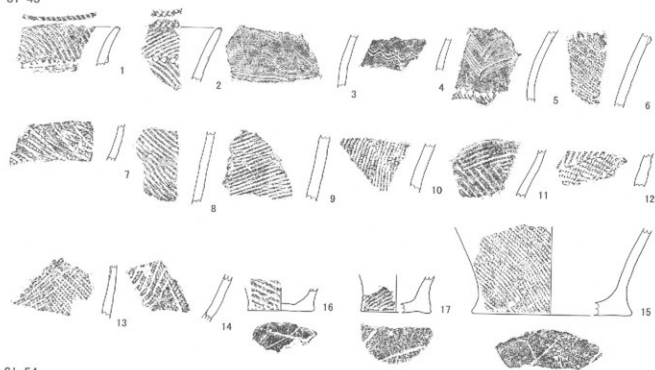
第44圖 SI-28・33出土遺物

SI-44

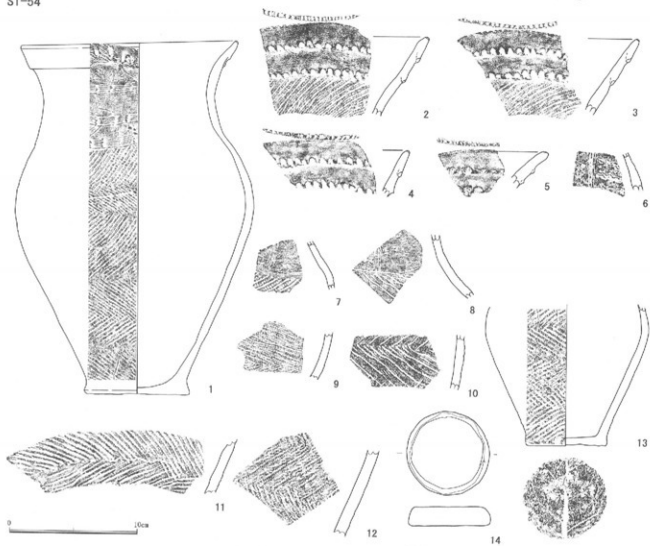


第45圖 SI-44出土遺物

SI-45

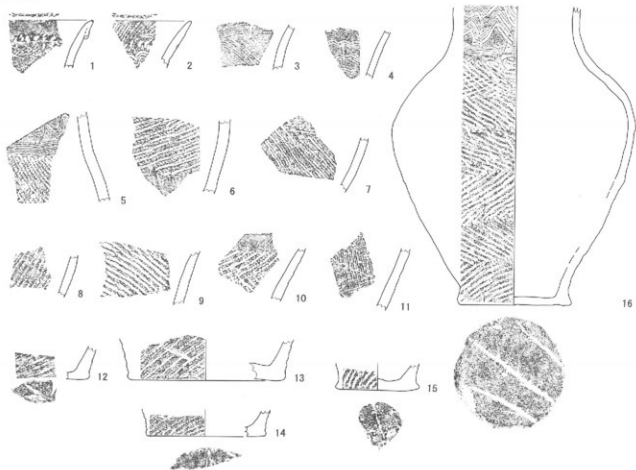


SI-54

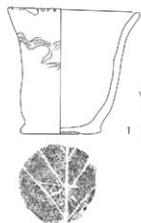


第46圖 SI-45・54出土遺物

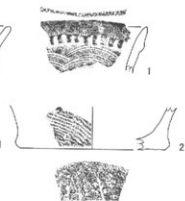
SI-62



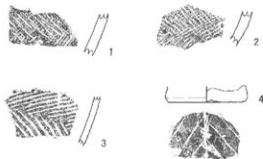
SI-66



SI-74



SI-77



SI-78

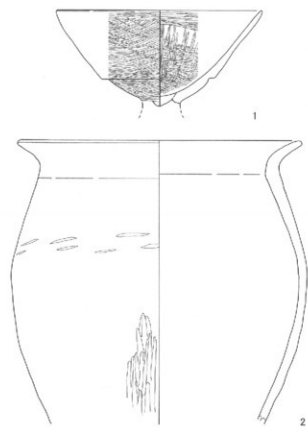


SI-79

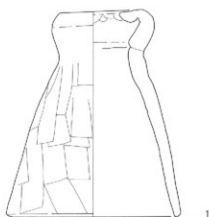


第47图 SI-62·66·74·77·78·79出土遗物

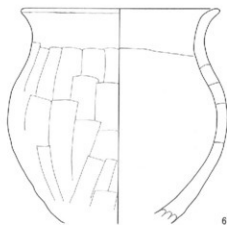
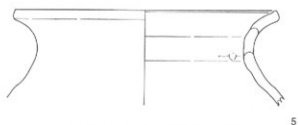
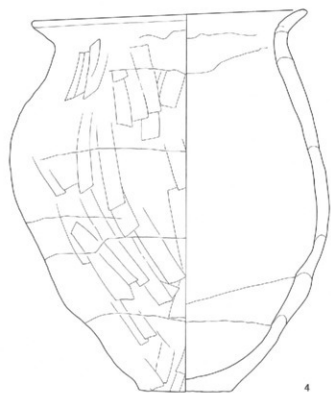
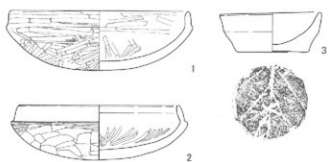
SI-3



SI-4

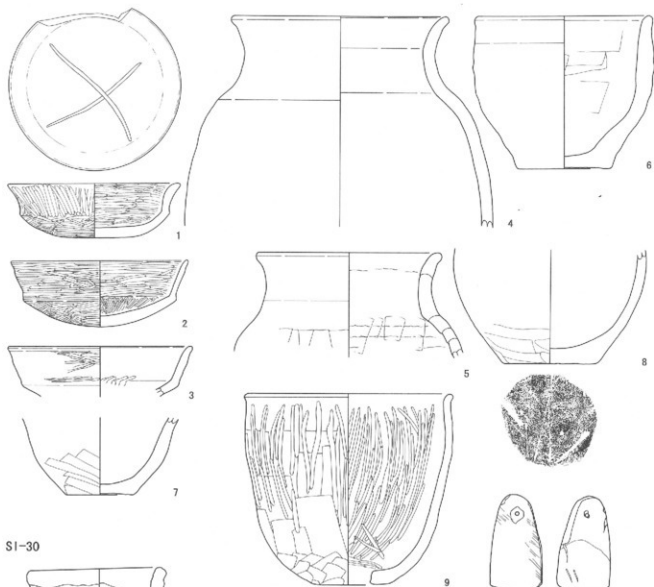


SI-14



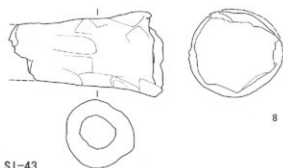
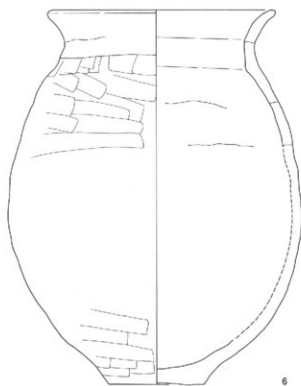
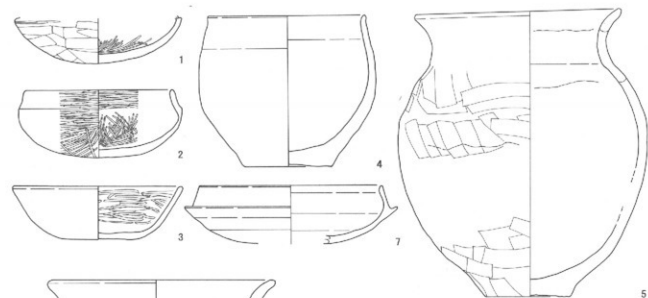
第48図 SI-3・4・14出土遺物

SI-15

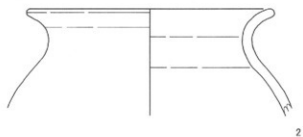
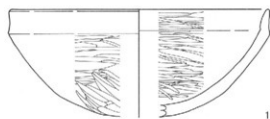


第49図 SI-15・30・32出土遺物

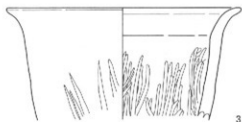
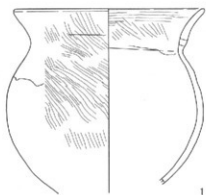
SI-22



SI-43

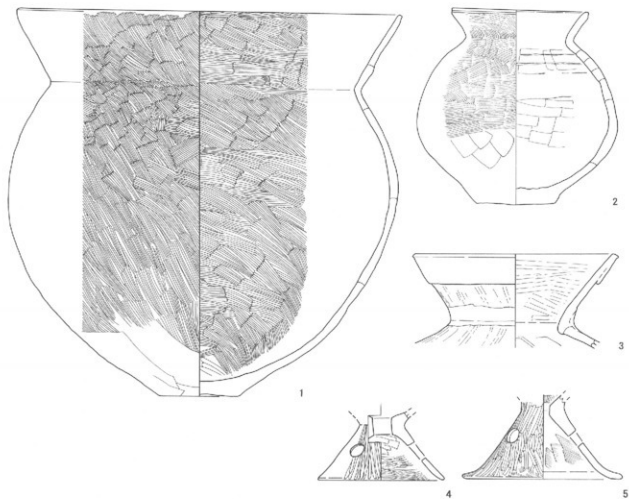


SI-24

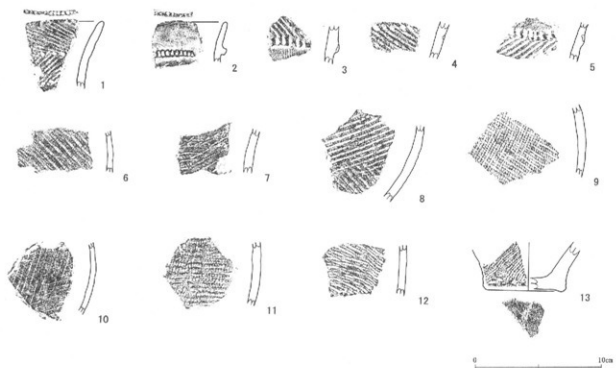


第50图 SI-22·24·43出土遺物

SI-27

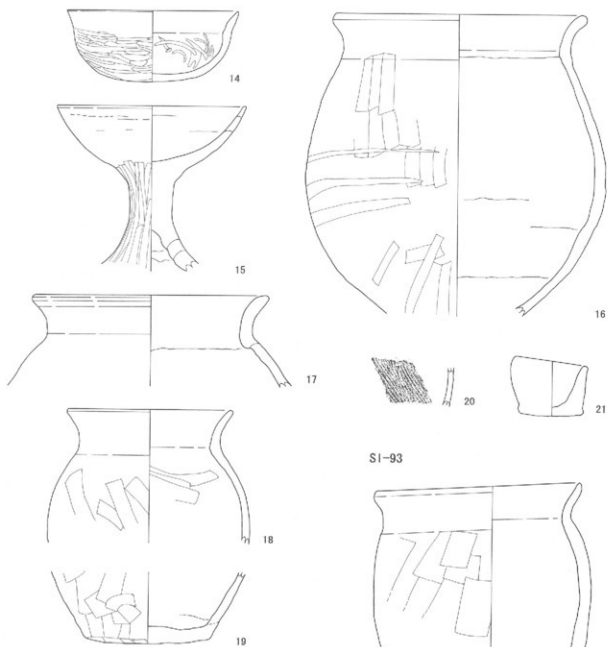


SI-53

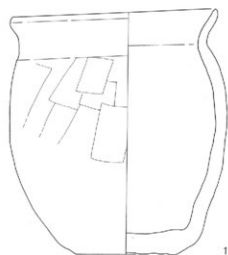


第51圖 SI-27・53出土遺物

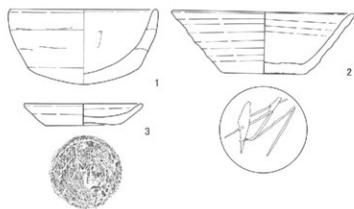
SI-53



SI-93

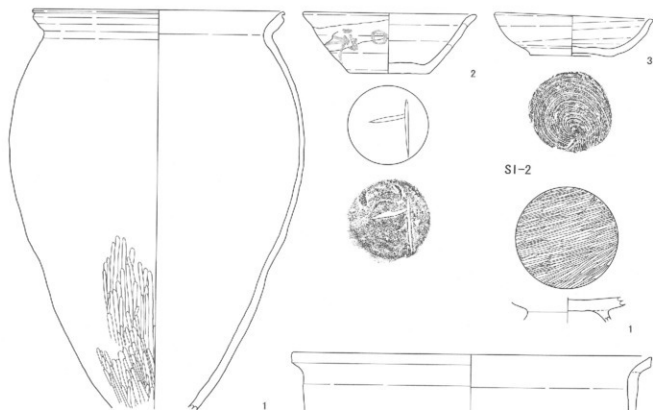


SI-63

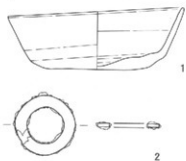


第52図 SI-53・63・93出土遺物

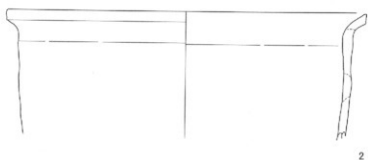
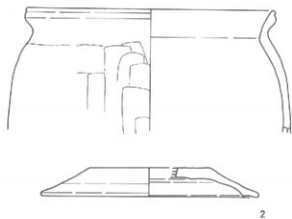
SI-1



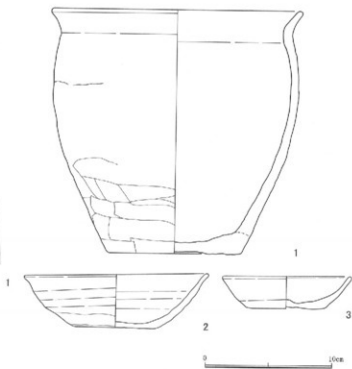
SI-7



SI-10

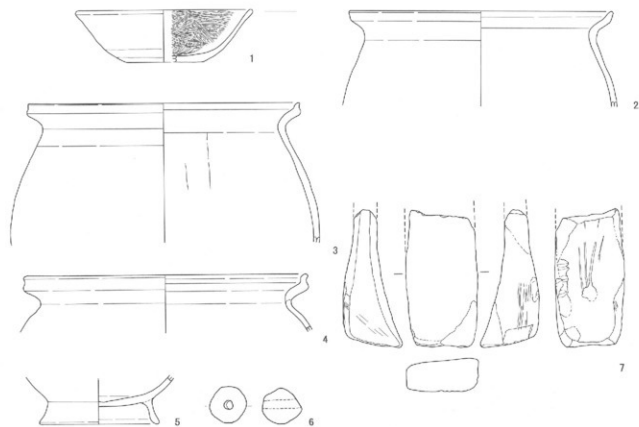


SI-9

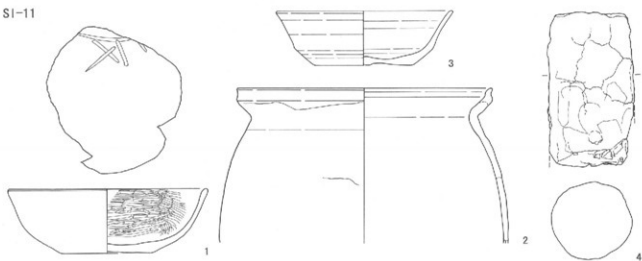


第53图 SI-1·2·7·9·10出土遗物

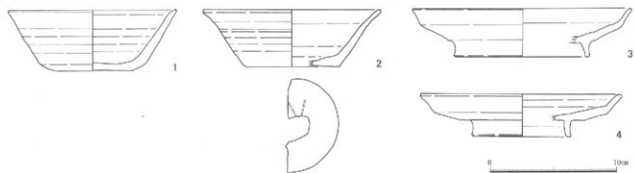
SI-8



SI-11

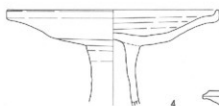


SI-13

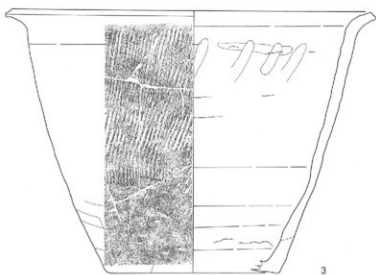
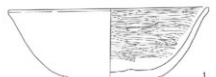


第54図 SI-8・11・13出土遺物

SI-12



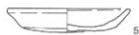
SI-17



SI-20

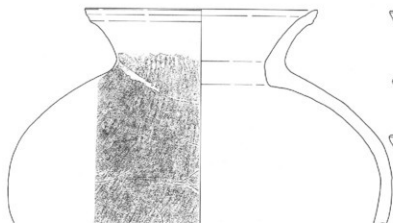


SI-19

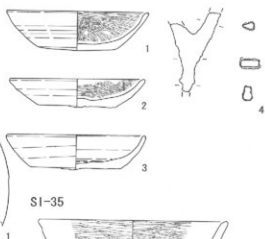


第55図 SI-12・17・19・20出土遺物

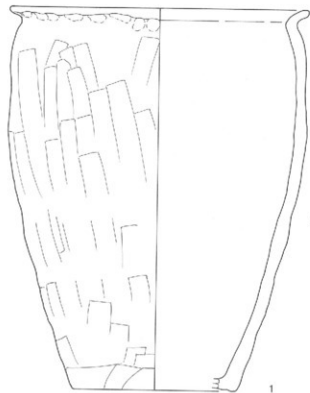
SI-21



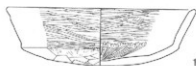
SI-31



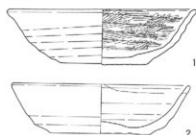
SI-26



SI-35



SI-38



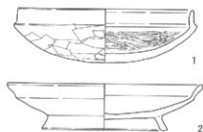
SI-40



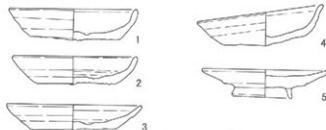
SI-47



SI-41

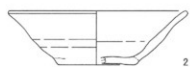
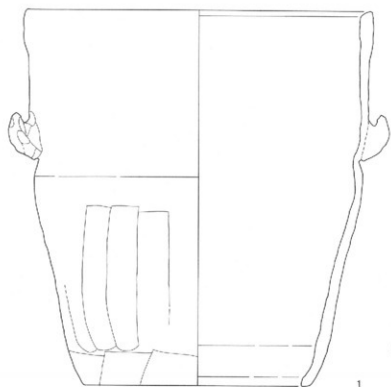


SI-48

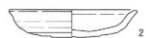


第56图 SI-21·26·31·35·38·40·41·47·48出土遺物

SI-46



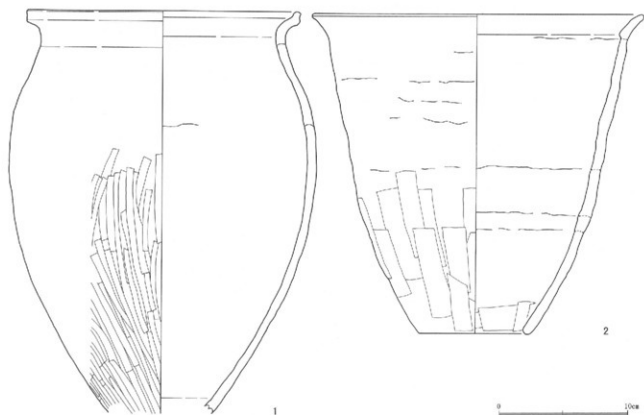
SI-52



SI-56

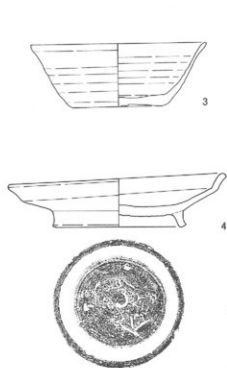


SI-55

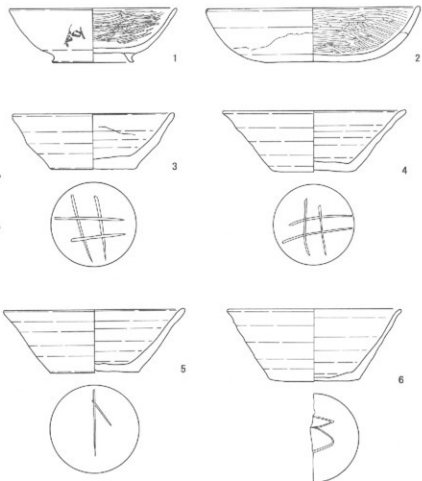


第57図 S I - 46 · 52 · 55 · 56出土遺物

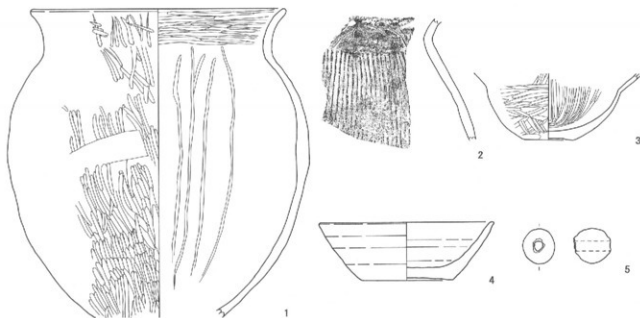
SI-55



SI-57

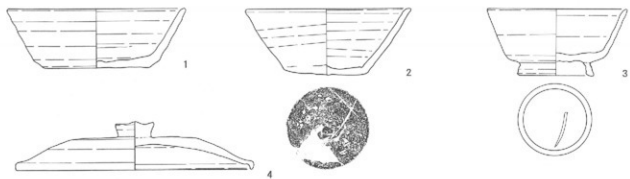


SI-59



第58図 S I - 55 · 57 · 59出土遺物

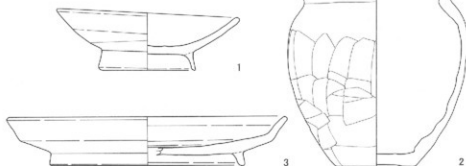
SI-60



SI-61



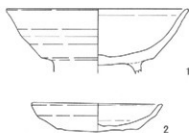
SI-65



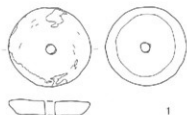
SI-67



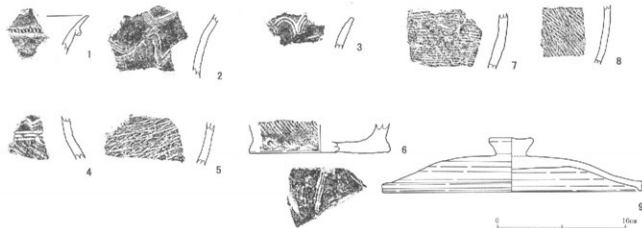
SI-68



SI-70

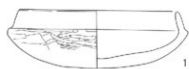


SI-75



第59図 SI-60・61・65・67・68・70・75出土遺物

SI-76



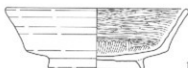
1



3



SI-81



1



2



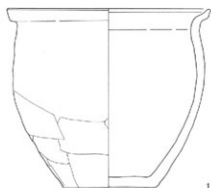
4



5



SI-83



1



2



5



3



4



6



7



第60圖 SI-76・81・83出土遺物

SI-83



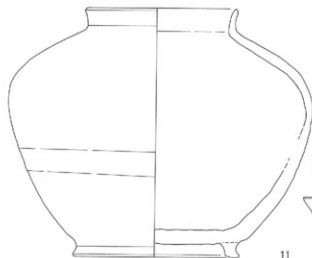
10



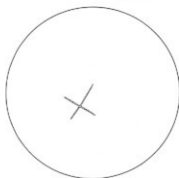
8



9



11



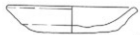
SI-85



1

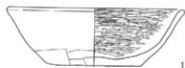


2



3

SI-84



1

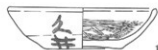
SI-90



1



SI-94



1



SE-1



1



2



第61図 SI-83・84・85・90・94・SE-1 出土遺物

遺構外



第62図 遺構外出土遺物

第1表 遺物観察表(1)

遺物名	遺物番号	所属番号	図記番号	種別	形種	口径1	器高2	底径3	特徴	加工	焼成	色調	備考
SI-5	1	43	61	弥生土器	壺	(12.0)	(16.5)	(5.5)	LR縄文、口端部刺突文。	-	良好	黒褐色	土土台式土器。
SI-5	2	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	竹管文、LR縄文、口端部LR縄文。	①	良好	暗灰黄色	
SI-5	3	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	柳指文、柳指波状文。	-	良好	浅黄色	
SI-5	4	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	柳指波状文。	①	良好	淡黄色	
SI-5	5	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	柳指文、柳指波状文、LR縄文。	①	良好	淡黄色	
SI-3	6	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	柳指文、LR縄文。	①⑥	良好	淡黄色	
SI-3	7	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	捺余文I。	①	良好	にぶい 黄色	
SI-5	8	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	捺余文II。	②④ ②	良好	にぶい 黄褐色	
SI-5	9	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	捺余文II。	①⑤	良好	にぶい 黄色	
SI-5	10	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	捺余文II。	②⑥	良好	にぶい 黄色	
SI-5	11	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	RL縄文。	①	良好	にぶい 黄褐色	
SI-5	12	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文。	③⑤ ⑥	良好	灰黄褐色	
SI-5	13	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文。	⑥	良好	にぶい 黄色	
SI-3	14	43	61	弥生土器	壺	-	(10.3)	6.6	へつ掻き文、捺余文II。 底部本業痕。	④	良好	黄褐色	Pit5出土。土土台式土器。
SI-28	1	43	61	弥生土器	小壺	-	-	-	縦管文、柳指文、LR縄文。	①	良好	灰黄褐色	
SI-28	2	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	折り返し口縁。キザミ口、捺余文II。口端部押圧。	-	良好	にぶい 黄褐色	
SI-28	3	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	縦管文。	①③	良好	褐色	
SI-28	4	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	柳指波状文。	③	良好	にぶい 黄褐色	
SI-28	5	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	刺突文、LR縄文。	⑥	良好	褐色	
SI-28	6	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	柳指文、刺突文、LR縄文。	-	良好	灰黄褐色	
SI-28	7	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	柳指波状文、刺突文、LR縄文。	⑥	良好	褐色	
SI-28	8	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	柳指文、RL縄文。	①⑥	良好	褐色	
SI-28	9	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	LR縄文。	⑥	良好	にぶい 黄褐色	
SI-28	10	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	LR縄文。	①③	良好	にぶい 褐色	
SI-28	11	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	LR縄文。	⑥	良好	にぶい 黄褐色	
SI-28	12	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	LR縄文。	③	良好	にぶい 黄褐色	
SI-28	13	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文。	③⑥	良好	浅黄褐色	
SI-28	14	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文、刺突文。	③	良好	明褐色	
SI-28	15	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文。	⑥	良好	明褐色	
SI-28	16	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	捺余文II。	①③	良好	にぶい 褐色	
SI-28	17	43	61	弥生土器	壺	-	-	-	捺余文II。	⑥	良好	にぶい 黄褐色	
SI-28	18	44	61	弥生土器	壺	-	(9.8)	(7.4)	LR縄文。底部柳指波状文。	④	良好	褐色	
SI-28	19	44	61	弥生土器	壺	-	(11.7)	(9.0)	LR縄文。底部本業痕。	⑤⑥	良好	褐色	
SI-28	20	44	61	弥生土器	壺	-	(2.4)	(4.8)	LR縄文。底部本業痕。	③	良好	にぶい 褐色	
SI-33	1	44	61	弥生土器	壺	-	-	-	LR縄文地に刺突文。	-	良好	灰褐色	
SI-33	2	44	61	弥生土器	壺	-	-	-	折り返し口縁。口端部・口縁部LR縄文。	①	良好	にぶい 黄褐色	
SI-33	3	44	61	弥生土器	壺	-	-	-	折り返し口縁。口端部、頸部捺余文II。	⑥	良好	暗褐色	

第2表 遺物観察表(2)

遺構名	発見層	発見番号	図録番号	種別	器種	口径1	口径2	口径3	特徴	胎土	焼成	色調	備考
SI-33	4	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	口縁・口縁部撫糸文 θ 。刺突文。	①③	良好	赤褐色	
SI-33	5	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	折り返し口縁。指頭押圧。口縁部内縁。撫糸文 r 。	②④⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-33	6	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	折り返し口縁。指頭押圧。	①	良好	にぶい黄褐色	
SI-33	7	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	指頭波状文。	⑥	良好	灰青褐色	
SI-33	8	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	指撞文。	④	良好	灰黄色	
SI-33	9	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	LR織文地に竹管による刺突文。	④	良好	黒褐色	
SI-33	10	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	山形文、指撞文、LR織文。	③	良好	黄褐色	SI-33-11と同じと思われる。
SI-33	11	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	山形文、指撞文、LR織文。	③	良好	黄褐色	SI-33-10と同じと思われる。
SI-33	12	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	山形文、指撞文、LR織文。	-	良好	にぶい黄褐色	
SI-33	13	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	撫糸文 θ 。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-33	14	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	刺突文、撫糸文 θ 。	②③④	良好	にぶい黄褐色	
SI-33	15	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	指撞文、撫糸文 θ 。	⑥	良好	淡黄褐色	
SI-33	16	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	LR織文。	-	良好	にぶい黄褐色	
SI-33	17	44	61	弥生土器	甕	-	-	-	撫糸文 θ 。	③④	良好	灰黄色	
SI-33	18	44	62	弥生土器	甕	-	-	-	撫糸文 θ 。	⑥	良好	黒褐色	
SI-33	19	44	62	弥生土器	甕	-	-	-	LR織文。	⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-33	20	44	62	弥生土器	甕	-	-	-	羽状織文。	③⑤⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-33	21	44	62	弥生土器	甕	-	-	-	RL織文。底部木葉痕。	①③④	良好	にぶい黄褐色	
SI-33	22	44	62	弥生土器	甕	-	-	-	撫糸文 θ 。底部木葉痕。	⑤⑥	良好	褐色	
SI-33	23	44	62	弥生土器	甕	-	-	-	LR織文。底部布目痕。	③	良好	褐色	
SI-33	24	44	62	土製品					径4.1、厚さ1.3cm。衣義橋向に竹管による円形刺突文。中心部に径0.4cmの孔が1ヶ所穿たれている。	③	土師質	褐色	
SI-44	1	45	62	弥生土器	小壺	-	-	-	葉状文、LR織文。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	2	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	口端部キザミ目。RL織文、刺突文。	-	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	3	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	折り返し口縁。口端部キザミ目。RL織文、刺突文。	-	良好	にぶい褐色	
SI-44	4	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	口唇部・口縁部撫糸文 θ 。	③	良好	にぶい赤褐色	
SI-44	5	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	折り返し口縁。キザミ目。口端部押圧。頸部指撞波状文。	④	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	6	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	折り返し口縁。キザミ目。	⑥	良好	赤褐色	
SI-44	7	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	折り返し口縁。キザミ目。口縁部指撞押圧。	⑤	良好	褐色	
SI-44	8	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	口縁部に指頭押圧を描した隆帯1条。撫糸文 θ 。	③④⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	9	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	指頭押圧を施した隆帯1条。撫糸文 r 。	③④⑤	良好	淡黄褐色	
SI-44	10	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	指撞波状文。	①	良好	明褐色	
SI-44	11	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	指撞波状文。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	12	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	指撞波状文、LR織文。	-	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	13	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	指撞波状文、指撞文。	-	良好	にぶい褐色	
SI-44	14	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	山形文。	③⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	15	45	62	弥生土器	甕	-	-	-	指撞文。	①	良好	にぶい黄褐色	

第3表 遺物観察表(3)

遺物名	遺物番号	採集番号	図版番号	種別	器種	口径1	器高2	底径3	特徴	胎土	焼成	色調	備考
SI-44	16	45	62	弥生土器	壺	-	-	-	平截竹管による刺突文、縄文押圧。	⑤	良好	黄褐色	
SI-44	17	45	62	弥生土器	甗	-	-	-	菊描状文、RL縄文。	⑥	良好	褐色	
SI-44	18	45	62	弥生土器	甗	-	-	-	菊描状文、LR縄文。	①	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	19	45	62	弥生土器	壺	-	-	-	菊描状文、器糸文r。	⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	20	45	62	弥生土器	壺	-	-	-	菊描文、器糸文r。	③④	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	21	45	62	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文l。	③④⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	22	45	62	弥生土器	甗	-	-	-	器糸文r。	③	良好	にぶい褐色	
SI-44	23	45	62	弥生土器	甗	-	-	-	LR縄文地に刺突文。	①③	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	24	45	62	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文、刺突文。	①	良好	褐色	
SI-44	25	45	62	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文。	⑥	良好	褐色	
SI-44	26	45	62	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	27	45	62	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文。	①③⑥	良好	褐色	
SI-44	28	45	62	弥生土器	甗	-	(5.6)	(7.3)	器糸文l。底部木炭痕・布目。	①	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	29	45	62	弥生土器	甗	-	(4.5)	(9.3)	RL縄文。底部木炭痕。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-44	30	45	62	弥生土器	壺	-	(3.7)	(8.0)	LR縄文。底部木炭痕。	①	良好	褐色	
SI-45	1	46	62	弥生土器	壺	-	-	-	折り返し口縁。口唇部・口縁部にRL縄文、キザミ目。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-45	2	46	62	弥生土器	壺	-	-	-	口唇部キザミ目、羽状縄文、刺突文。	-	良好	黒褐色	
SI-45	3	46	62	弥生土器	壺	-	-	-	菊描状文。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-45	4	46	62	弥生土器	甗	-	-	-	菊描状文。	-	良好	にぶい黄褐色	
SI-45	5	46	62	弥生土器	甗	-	-	-	衝刺文、刺突文、LR縄文。	④	良好	黄褐色	
SI-45	6	46	62	弥生土器	甗	-	-	-	1条の降帯に刺突文、LR縄文。	①	良好	褐色	
SI-45	7	46	62	弥生土器	壺	-	-	-	LR縄文。	⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-45	8	46	62	弥生土器	壺	-	-	-	LR縄文。	⑥	良好	褐色	
SI-45	9	46	62	弥生土器	壺	-	-	-	LR縄文。	-	良好	にぶい黄褐色	
SI-45	10	46	62	弥生土器	壺	-	-	-	RL縄文。	③	良好	褐色	
SI-45	11	46	62	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縄文。	⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-45	12	46	62	弥生土器	甗	-	-	-	羽状縄文。	-	良好	褐色	
SI-45	13	46	62	弥生土器	甗	-	-	-	羽状縄文。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-45	14	46	62	弥生土器	甗	-	-	-	器糸文l。	③④	良好	淡黄褐色	
SI-45	15	46	62	弥生土器	甗	-	(6.8)	(12.6)	LR縄文。底部木炭痕。	③⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-45	16	46	62	弥生土器	壺	-	(1.8)	(5.3)	LR縄文。底部木炭痕。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-45	17	46	62	弥生土器	壺	-	(2.9)	(5.6)	RL縄文。底部木炭痕。	③⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-54	1	46	63	弥生土器	甗	16.8	27.7	8.2	折り返し口縁、縄文RL、刺突文、脈状文、羽状縄文。底部木炭痕。	①④	良好	灰褐色、にぶい黄褐色	土台式土器。
SI-54	2	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	口唇部キザミ目。刺突文、LR縄文。	①⑤	良好	暗灰黄色	SI-54-3・4と同一と思われる。
SI-54	3	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	口唇部キザミ目。刺突文、LR縄文。	⑤⑥	良好	淡黄褐色	SI-54-2・4と同一と思われる。
SI-54	4	46	63	弥生土器	甗	-	-	-	口唇部キザミ目。刺突文。	①	良好	暗灰黄色	SI-54-2・3と同一と思われる。

第4表 遺物観察表(4)

遺物名	遺物番号	検出層	図版番号	種別	器種	口径1	器高2	底径3	特徴	胎土	焼成	色調	備考
SI-54	5	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	口唇部キザミ目、折り返し口縁、指幅波状文。	①⑤	良好	明灰黄色	
SI-54	6	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	指幅文、指子文、指幅波状文。	①⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-54	7	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	指幅文、指幅波状文、LR縹文。	①	良好	黄褐色	
SI-54	8	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	指幅文、指幅波状文、器糸文 ℓ 。	①	良好	にぶい黄褐色	
SI-54	9	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文 ℓ 。	①	良好	にぶい黄褐色	
SI-54	10	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縹文。	③	良好	暗灰黄色	
SI-54	11	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縹文。	⑤⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-54	12	46	63	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縹文。	⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-54	13	46	63	弥生土器	壺	-	<11.1>	6.0	横羽状条痕。底部木葉痕。	-	良好	赤褐色 黄褐色	
SI-54	14	46	63	土製品					径6.1、厚さ1.5cmの円盤	-	酸化焙焼	灰色	
SI-62	1	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	折り返し口縁、口唇部・口唇部キザミ目。器糸文 ℓ 。	①⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	2	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	口唇部器糸文 ℓ 。LR縹文、刺突文、指幅波状文。	①⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	3	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	染状文、指幅文。	⑤⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	4	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	指幅波状文。	⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	5	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	指幅波状文、指幅文、LR縹文。	①③⑤⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	6	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文 ℓ 。	②	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	7	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文 ℓ 。	②	良好	浅黄褐色	
SI-62	8	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文 r 。	②⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	9	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	LR縹文。	③⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	10	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	指幅文、羽状縹文。	⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	11	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縹文。		良好	にぶい黄褐色	
SI-62	12	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文 r 。底部木葉痕。	⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	13	47	63	弥生土器	壺	-	<3.3>	(12.4)	器糸文 r 。	③⑤⑥⑦	良好	褐色	
SI-62	14	47	63	弥生土器	壺	-	<2.1>	(10.8)	器糸文 r 。底部木葉痕。	⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	15	47	63	弥生土器	壺	-	<2.1>	(6.6)	器糸文 ℓ 。底部木葉痕。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-62	16	47	63	弥生土器	壺	-	<23.7>	8.9	器底文、器底文、羽状縹文。底部木葉痕。	③⑥	良好	褐色	土上台式土器。
SI-66	1	47	63	弥生土器	小型甕	10.4	10	6.4	口唇部キザミ目、体上部指幅文。底部木葉痕。	⑤	良好	黄褐色	体面直上出土。樽式土器。
SI-74	1	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	折り返し口縁、口唇部キザミ目、押捺文、指幅波状文。	①	良好	にぶい黄褐色	
SI-74	2	47	63	弥生土器	壺	-	<3.4>	(12.2)	LR縹文。底部木葉痕。	③	良好	明黄褐色	
SI-77	1	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文 ℓ 。	⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-77	2	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縹文。	③⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-77	3	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	羽状縹文。	-	良好	にぶい黄褐色	
SI-77	4	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	底部木葉痕。	①③	良好	にぶい黄褐色	
SI-78	1	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文 ℓ 。	①③	良好	にぶい黄褐色	
SI-78	2	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文 ℓ 。	②④	良好	にぶい黄褐色	
SI-78	3	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	器糸文 ℓ 。	⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-78	4	47	63	弥生土器	壺	-	-	-	LR縹文。	②⑥	良好	にぶい黄褐色	

第5表 遺物観察表(5)

遺物名	発掘層	検出番号	図録番号	種別	器種	口径1	器高2	底径3	特徴	胎土	焼成	色調	備考
SI-79	1	47	63	赤生土器	器	-	-	-			⑤	良好 褐色	
SI-3	1	48	64	土師器	高坏	16.0	<7.6>	-	内外面へう磨き。内外面赤色塗彩、外面黒色塗彩。		③⑤	良好 暗赤色	
SI-3	2	48	64	土師器	甕	(21.8)	<22.5>	-	口縁部横ナデ。外面は胴部ナデ、胴下部へう磨き。内面横ナデ。		③⑤⑥	良好 赤褐色	
SI-4	1	48	64	土製品	支脚	6.7	16.5	13.5	外面へう削り・ナデ整形。上部に径3.5cmの孔。		⑥	良好 褐色	
SI-14	1	48	64	土師器	坏	13.8	4.7	-	外面は口縁部横ナデ、体部はへう削り後へう磨き。内面は横ナデ。		④	良好 赤い黄色	
SI-14	2	48	64	土師器	坏	(12.5)	4.3	-	口縁部横ナデ、体部内面は放射状彫文。外面はへう削り後へう磨き。		⑤	良好 明黄褐色	
SI-14	3	48	64	土師器	坏	8.0	3.2	5.7	口縁部横ナデ、体部は指による成形。底部本塗面。		③⑤	良好 黄色	
SI-14	4	48	64	土師器	甕	20.8	30.0	7.2	口縁部横ナデ、胴へう削り後へう磨き。内面ナデ。		②④	良好 赤褐色	
SI-14	5	48	64	土師器	甕	20.3	<7.5>	-	口縁部横ナデ。		③⑥	良好 褐色	
SI-14	6	48	64	土師器	甕	(15.7)	<17.0>	-	外面は口縁部横ナデ、胴部はへう削り。内面は、口縁部横ナデ、胴部ナデ。		③④⑤	良好 赤い黄色	
SI-14	7	48	64	土製品	支脚	-	<4.3>	(4.6)	外面へう削り・ナデ整形。		⑥	良好 褐色	
SI-14	8	48	64	鉄製品	刀子				現存長6.7。現存幅1.6cm。刀子の茎。木炭が残存。				
SI-15	1	49	64	土師器	坏	13.2	4.3	-	内外面へう磨き。底部内面にへう磨き×。		③	良好 赤褐色	
SI-15	2	49	64	土師器	坏	13.8	5.2	-	外面は、口縁部横ナデ、体へう削り後へう磨き。内面はへう磨き。		-	良好 赤褐色	
SI-15	3	49	65	土師器	坏	(14.2)	(4.0)	-	外面へう磨き。内面横ナデ。		③⑤	良好 褐色	
SI-15	4	49	64	土師器	甕	(16.5)	(16.6)	-	内外面ナデ。		⑤⑥	良好 褐色	
SI-15	5	49	65	土師器	甕	14.0	(8.2)	-	口縁部横ナデ。胴部外面無調整。胴部外へう削り。肩部内面粘土継ぎ合痕。		③⑤⑥	良好 赤い黄色	
SI-15	6	49	66	土師器	小型甕	13.4	12.1	7.2	口縁部横ナデ。内面ヘラナデ。		⑤⑥	良好 褐色	
SI-15	7	49	65	土師器	小型甕	-	(6.1)	5.2	胴下部へう削り。		⑥	良好 褐色	
SI-15	8	49	65	土師器	小型甕	-	(9.0)	7.2	胴下部外へう削り。内面ヘラナデ。底部本塗面。		⑥	良好 褐色	
SI-15	9	49	65	土師器	瓶	(15.8)	15.2	6.0	口縁部横ナデ、胴部へう削り後へう磨き。		④	良好 赤い黄色	
SI-15	10	49	65	石製品	砥石				長さ7.4。幅4.1。厚さ0.9cm。一方の端部に径0.3cmの孔が1箇所穿たれている。表面2面使用。				
SI-22	1	50	65	土師器	坏	-	<3.6>	-	外面へう削り。内面放射状彫文。		①③	良好 暗褐色	
SI-22	2	50	65	土師器	坏	11.4	5.3	-	外面へう削り後へう磨き調整し、放射状彫文。内面へう磨き。		①③	良好 褐色	
SI-22	3	50	65	土師器	坏	13.1	4.2	6.0	内面へう磨き。底部外面へう削り。		①⑤	良好 赤い黄色	
SI-22	4	50	65	土師器	小型甕	12.0	12.0	6.8	口縁部横ナデ、胴部内外面ナデ。		③④	良好 赤褐色	甕出土。
SI-22	5	50	65	土師器	甕	16.2	22.5	6.6	口縁部横ナデ。胴部は外面へう削り。内面ナデ。		①⑤⑥	良好 褐色	完形。甕出土。砂粒多量。
SI-22	6	50	65	土師器	甕	17.2	29.6	7.2	口縁部横ナデ。胴部内外面ナデ。胴上部、胴下部へう削り。内外面に粘土継ぎ合痕。		⑥	良好 褐色	甕出土。
SI-22	7	50	65	須恵器	坏身	(14.1)	(4.6)	-	体一底部調整へう削り調整。		②	良好 灰色	
SI-22	8	50	65	土製品	輪の羽口				現存長12.1。幅6.7cm。指環成形後ヘラナデ整形。		⑥	良好 灰褐色	
SI-24	1	50	65	土師器	甕	14.6	(14.6)	-	口縁部ハケ目後、横ナデ。胴部外面ハケ目。胴部内面ナデ。内外面に粘土継ぎ合痕。		①⑤	良好 褐色	五稜式土器。Pit出土。
SI-27	1	51	66	土師器	甕	30.3	30.5	6.2	内外面ハケ目。胴下部外へう削り。		④⑥	良好 赤い黄色	五稜式土器。

第6表 遺物観察表(6)

遺物名	発掘番号	検出番号	図録番号	類別	器種	口径1	器高2	底径3	特徴	胎土	焼成	色澤	備考
SI-27	2	51	66	土師器	壺	(10.6)	15.4	6.0	外面は口縁部ハケ目後横ナデ、胴上部ハケ目、胴下部ナデ。内面は横ナデ、ヘラ状工具によるナデ。胴部内面粘土接合痕。	③⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-27	3	51	66	土師器	甕	15.4	(6.1)	—	折り返し口縁。胴部粘土貼り付け。内面はハケ目後横ナデ、外面は口縁部横ナデ、胴部工具によるナデ。	③⑤	良好	褐色	
SI-27	4	51	66	土師器	器台	—	(7.5)	9.8	外面ヘラ磨き。内面ハケ目、ヘラ削り。透孔3。底部から胴部にかけて穿孔。	①	良好	にぶい黄褐色	
SI-27	5	51	66	土師器	器台	—	(6.7)	12.6	外面ハケ目後ヘラ磨き。内面ハケ目後ナデ。透孔3。底部から胴部にかけて穿孔。	⑤⑥	良好	褐色	
SI-30	1	49	66	土師器	手捏土器	11.1	5.6	8.5	卵形成形。口縁部粘土接合痕。	③④	良好	褐色	ほぼ完形。
SI-30	2	49	66	土製品	支脚	—	—	—	縦17.0、横7.0cm。ヘラ削り成形。	①③	良好	褐色	少量欠損。
SI-32	1	49	66	土師器	甕	(13.8)	(14.6)	—	口縁部ハケ目後横ナデ。胴上部ハケ目、胴下部ハケ目後ヘラ削り。胴部内面ナデ。	③⑤	良好	褐色	
SI-32	2	49	66	土師器	甕	—	—	—	内外面ハケ目。	—	良好	褐色	
SI-32	3	49	66	土師器	甕	—	—	—	外面ハケ目。内面ナデ。	②	良好	にぶい黄褐色	
SI-32	4	49	66	土製品	ミニチュア	6.7	2.8	4.6	口縁部折り返し口縁。内面工具によるナデ。口縁部外面指押圧痕が残る。	②③	良好	赤褐色	五瓣式土器。
SI-43	1	50	66	土師器	鉢	(20.2)	(8.6)	—	外面は、口縁部横ナデ。体～底部ヘラ磨き。内面はヘラ磨き。	③	良好	明褐色	
SI-43	2	50	66	土師器	甕	(19.3)	(6.1)	—	口縁部横ナデ。胴部ナデ。	⑥	良好	にぶい赤褐色	
SI-43	3	50	66	土師器	甕	(18.2)	(8.8)	—	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。内面は口縁部横ナデ、胴部ヘラ磨き。	③⑥	良好	褐色	
SI-53	1	51	66	弥生土器	甕	—	—	—	口縁部キザミ目。羽状縄文、刺突文。	⑤	良好	暗灰黄色	
SI-53	2	51	66	弥生土器	甕	—	—	—	折り返し口縁。口縁部キザミ目。	—	—	にぶい黄褐色	
SI-53	3	51	66	弥生土器	甕	—	—	—	折り返し口縁。LR縄文、刺突文。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-53	4	51	66	弥生土器	甕	—	—	—	刺突文、LR縄文。	④	良好	褐色	
SI-53	5	51	66	弥生土器	甕	—	—	—	刺突文、LR縄文。	③	良好	にぶい褐色	
SI-53	6	51	66	弥生土器	甕	—	—	—	刺突文 r。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-53	7	51	66	弥生土器	甕	—	—	—	刺突文 r。	④⑤	良好	灰白色	
SI-53	8	51	66	弥生土器	甕	—	—	—	羽状縄文。	①③	良好	にぶい黄褐色	
SI-53	9	51	66	弥生土器	甕	—	—	—	羽状縄文。	③	良好	褐色	
SI-53	10	51	67	弥生土器	甕	—	—	—	羽状縄文。	⑤④③	良好	浅黄褐色	
SI-53	11	51	67	弥生土器	甕	—	—	—	LR縄文。	③	良好	浅黄褐色	
SI-53	12	51	67	弥生土器	甕	—	—	—	LR縄文。	①③	良好	浅黄褐色	
SI-53	13	51	67	弥生土器	甕	—	(3.9)	(6.5)	刺突文 r。底部木炭痕。	③	良好	浅黄色	
SI-53	14	52	67	土師器	坏	13.4	5.7	—	口縁部横ナデ。体部内外面ナデ。ヘラ磨き。	③⑤	良好	明赤褐色	
SI-53	15	52	67	土師器	高坏	14.6	(13.1)	—	坏部内外面横ナデ。胴部外面ヘラナデ。胴部内面に粘土接合痕。	③	良好	褐色	甌出土。
SI-53	16	52	67	土師器	甕	19.8	(23.8)	—	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ・ヘラ削り・ヘラナデ。内面は、口縁部横ナデ、胴部工具によるナデ。	②③⑥	良好	明黄褐色	半面直上出土。

第7表 遺物観察表(7)

遺構名	遺物番号	検出層	出土層	種別	器種	口径1	口径2	底径3	特徴	胎土	焼成	色調	備考
SI-53	17	52	67	土師器	甕	(18.0)	(7.2)	-	外面は口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面は、口縁部横ナデ、胴部上具によるナデ。粘土接合痕。	①③⑥	良好	赤褐色	甕出土。
SI-53	18	52	67	土師器	甕	(13.0)	(10.6)	-	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ、ヘラ削り。内面は口縁部横ナデ、胴部上具によるナデ。	③⑥	良好	褐色	
SI-53	19	52	67	土師器	甕	-	(5.7)	9.9	胴下～底部外面ヘラ削り。内面ナデ。胴部と底部の境に粘土接合痕が残る。	①③⑥	良好	明灰褐色	
SI-53	20	52	67	土師器	甕	-	-	-	外面ハケ目。	①	良好	にぶい褐色	
SI-53	21	52	67	土師器	ミニチュア	5.1	4.7	5.0	部分的ヘラ削り。	⑥	良好	黄褐色	周溝出土。
SI-63	1	52	67	土師器	坏	11.3	6	8.8	体下～底部手持ちヘラ削り。内面口縁部によるナデ。粘土接合痕。	③	良好	褐色	甕出土。
SI-63	2	52	67	須恵器	坏	14.0	4.9	6.6	底部手持ちヘラ削り後、ナデ調整。底部外面ヘラ磨き。	①⑥	良好	灰色	甕出土。
SI-63	3	52	67	須恵器	皿	9.1	1.7	5.8	底部ヘラ切り、ヘラ磨き「一」。	①⑥ ②	酸化焙焼成	赤褐色	甕出土。
SI-93	1	52	67	土師器	甕	15.5	19.5	8.0	外面は口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。底部木炭痕。	⑤⑥	良好	褐色	
SI-1	1	53	67	土師器	甕	19.0	(31.4)	-	外面は口縁部横ナデ、胴1部ナデ、胴2部ヘラ磨き。内面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。	-	良好	褐色	甕左袖構築材。
SI-1	2	53	67	須恵器	坏	12.8	4.8	6.2	底部全面手持ちヘラ削り後ヘラ磨き「一」。体部外面に炭素「一」。	②	良好	灰色	
SI-1	3	53	67	須恵器	坏	12.0	3.4	6.6	底部回転(右)糸切り磨し。	⑤	酸化焙焼成	褐色	
SI-2	1	53	68	土師器	高台付坏	-	(2.0)	-	底部内面ヘラ磨き、黒色処理。底部外面全面ヘラ削り後高台削り。	③	良好	にぶい黄褐色	
SI-2	2	53	68	土師器	甕	(27.8)	(10.1)	-	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。内面は口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	①④⑥	普通	にぶい黄色	
SI-7	1	53	68	須恵器	坏	13.5	4.7	8.3	底部全面手持ちヘラ削り。	①⑤⑥	良好	灰色	
SI-7	2	53	68	金属製品	不明				内径2.9、外径4.8、厚さ0.3cm。環状。断面方形状。				
SI-8	1	54	68	土師器	坏	(13.5)	4.1	(6.0)	胴下～底部外面回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き・黒色処理。	⑤⑥	良好	明黄褐色	
SI-8	2	54	68	土師器	甕	(20.5)	(7.5)	-	内外面口縁部横ナデ、胴部ナデ。	⑥	良好	褐色	
SI-8	3	54	68	土師器	甕	(21.0)	(11.1)	-	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。内面は、口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。胴部外面に工具痕。	①④⑥	良好	褐色	
SI-8	4	54	68	土師器	甕	(21.9)	(4.6)	-	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。内面は口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	③⑥	良好	褐色	
SI-8	5	54	68	須恵器	高台付坏	-	(3.9)	9.4	底部全面回転ヘラ削り後、高台削り。	②⑤	良好	明赤灰色	
SI-8	6	54	68	土師器	土師?				長53.1、径2.8、孔径0.7cm。	①⑤	土師器	褐色	
SI-8	7	54	68	石製品	砥石				現存長10.8、幅5.6、厚さ1.6cm。長軸面4面使用。方の端部欠損。4本の溝状の使用痕。				
SI-9	1	53	68	土師器	甕	(19.5)	19.2	(10.2)	内面ナデ。外面胴部によるナデ。胴下部ヘラ削り。底部木炭痕。	①⑤	良好	にぶい黄褐色	
SI-9	2	53	68	須恵器	坏	14.4	4.5	6.3	体～底部回転ヘラ削り。	①④	酸化焙焼成	褐色	
SI-9	3	53	68	須恵器	小皿	9.9	2.6	6.2	底部ヘラ切り。	②	酸化焙焼成	明赤褐色	
SI-10	1	53	68	土師器	甕	(19.3)	(9.9)	-	外面は口縁部横ナデ、胴部縦方向のヘラ削り。内面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。	④	良好	褐色	

第8表 遺物観察表(8)

遺物名	遺物番号	調査番号	調査番号	種別	群種	口径1	口径2	口径3	特徴	出土	焼成	色調	備考
SI-10	2	33	68	須恵器	壺	(17.0)	(2.3)	-	火井部回転へら削り。	①② ⑤	良好	灰色	
SI-11	1	54	68	土師器	坏	(15.6)	5.1	7.0	体下～底部全面回転へら削り。内面へら磨き・黒色処理。底部内面にへら磨き。	③④	良好	にぶい黄褐色	
SI-11	2	54	68	土師器	甕	19.8	(12.2)	-	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。内面は口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	③⑥	良好	褐色	露出上。
SI-11	3	54	68	須恵器	坏	13.4	4.3	7.8	底部へら切り。	④⑥	酸化焼成	黄灰色	露出上。
SI-11	4	54	68	土製品	支那				現存長12.3、径6.3cm。一方の端部欠損。	③⑥	不良	褐色	露出上。
SI-12	1	55	68	土師器	高台付坏	12.4	(4.2)	-	体下～底部へら削り後高台貼付け。内面へら磨き・黒色処理。体部外面に磨面「大」。	①③④⑤	良好	褐色	
SI-12	2	35	68	土師器	甕	(21.3)	(12.0)	-	外面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。内面は口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	④⑥	良好	赤褐色	露出上。
SI-12	3	35	69	須恵器	坏	13.2	5.4	6.0	底部ナデ割製。	①② ⑤	良好	灰色	
SI-12	4	35	69	須恵器	高坏	(16.3)	(7.4)	-	体下～底部へら削り後、脚部貼付け。転用痕。	④⑥	良好	灰色	
SI-13	1	54	69	須恵器	坏	13.0	4.8	6.6	底部へら切り。	⑥	良好	灰色	
SI-13	2	54	69	須恵器	坏	(13.8)	4.5	(7.5)	底部へら切り後へら磨き。	②⑥	良好	灰色	
SI-13	3	54	69	須恵器	高台付甕	(18.0)	3.8	(11.5)	高台貼付け。	③⑥	良好	灰色	
SI-13	4	54	69	須恵器	高台付甕	(15.6)	3.3	(7.7)	高台貼付け。	②⑥	良好	灰褐色	
SI-17	1	53	69	土師器	坏	15.6	5.8	6.8	高台回転(軸)垂直削り。後外周を手持ちへら削り。内面へら磨き・黒色処理。	①③⑤	良好	褐色	
SI-17	2	53	69	土師器	坏	16.2	3.6	7.7	体一底部回転へら削り。内面へら磨き・黒色処理。底部外面に磨面「大」。	③⑤⑥	良好	褐色	
SI-17	3	55	69	須恵器	甕	28.3	20.6	13.2	口縁部横ナデ。胴上部外向平行削き。胴下部外面へら削り。内面に磨面器具痕。	④	酸化焼成	にぶい褐色	
SI-19	1	55	69	土師質土器	高台付坏	10.4	4.1	4.8	体下～底部回転へら削り後高台貼付け。内面へら磨き・黒色処理。	③④⑤	良好	黄褐色	露出土。
SI-19	2	55	69	土師質土器	高台付坏	15.7	6.2	8.5	高台貼付け。	④⑥	良好	黄褐色	足高台。
SI-19	3	55	69	土師質土器	高台付坏	16.2	(4.0)	-	高台貼付け。	③④	良好	黄褐色	高台欠損。足高台内。
SI-19	4	55	69	土師質土器	高台付坏	-	(4.3)	(8.5)	体下～底部へら削り後、高台貼付け。	③	良好	赤褐色	足高台。
SI-19	5	55	69	土師質土器	小皿	9.4	1.9	7.2	底部へら切り。	③	良好	黄褐色	
SI-19	6	55	69	土師質土器	小皿	9.7	2.5	7.1	底部へら切り。	⑤⑥	良好	褐色	
SI-20	1	55	69	土師器	高台付坏	7.5	6.1	7.1	体下～底部全面へら削り後、高台貼付け。内面へら磨き・黒色処理。	③⑤⑥	良好	褐色	
SI-20	2	55	69	須恵器	坏	-	(2.3)	(6.2)	底縁子母とへら削り。	⑤	良好	灰色	
SI-21	1	56	69	須恵器	甕	18.0	(17.3)	-	胴一胴部外面、平行削き後、ナデ割製。	②	良好	灰色	
SI-26	1	56	70	土師器	甕	24.0	30.1	12.8	外面は口縁部指成形後、横ナデ、胴部へら削り、へらナデ。内面はナデ。	⑥	良好	褐色	
SI-31	1	56	69	土師器	坏	16.0	3.1	6.0	底部へら切り。内面へら磨き・黒色処理。	-	良好	にぶい黄褐色	
SI-31	2	56	69	土師器	坏	(10.3)	2.2	6.0	底部へら切り。内面へら磨き・黒色処理。	⑤	良好	黄褐色	
SI-31	3	56	69	土師質土器	坏	13.6	2.7	7.0	底部へら切り。	①③	良好	浅黄褐色	
SI-31	4	56	69	鉄製品	鍔				現存長6.3、幅1.4、厚さ1.1cm。雁入式。				尾縁部欠損。床面直上出土。
SI-35	1	56	70	土師器	坏	14.6	4.5	-	外面は口縁部横ナデ後へら磨き。底部へら削り後へら磨き。内面へら磨き。	⑤⑥	良好	赤褐色	
SI-38	1	56	70	土師器	坏	14.5	4.4	7.0	底部へら切り。内面へら磨き・黒色処理。	①	良好	淡褐色	
SI-38	2	56	70	須恵器	坏	13.6	3.9	7.8	底部へら切り。	④	良好	灰色	

第9表 遺物観察表(9)

通称名	調査区	調査番号	出土層	種別	形状	口径1	器高2	底径3	特徴	胎土	焼成	色相	備考
SI-40	1	56	70	土師器	坏	13.4	3.7	6.5	底部ヘラ切り。内面ヘラ磨き・黒色処理。	①③	良好	黄褐色	
SI-40	2	56	70	石製品	防錆棒				上部径(5.0)、下部径(2.2)厚さ1.7、孔径(0.6)cm。全面的に磨痕。				1/3残存。
SI-41	1	56	70	土師器	坏	(13.8)	4.3	—	外面は口縁部ナデ、帯一足部ヘラ削り。内面は口縁部ナデ、帯一足部ヘラ磨き。	③⑤⑥	良好	黄褐色	
SI-41	2	56	70	須恵器	高台付盤	(15.0)	3.6	9.7	底部全面ヘラ削り後、高台貼付け。内面ヘラ磨き。	②⑤⑥	良好	灰色	
SI-47	1	56	70	土師器	坏	13.4	4.2	7.9	体下～底部外面同軸ヘラ削り高整。内面はヘラ磨き・黒色処理。	①	良好	赤褐色	甕出土。
SI-48	1	56	70	土師質土器	小皿	10.0	2.5	7.0	底部ヘラ切り。口縁・体部内面に煤片。	③④⑤	良好	棕色	
SI-48	2	56	70	土師質土器	小皿	9.6	2.3	6.0	底部ヘラ切り。	③⑤⑥	良好	棕色	
SI-48	3	56	70	土師質土器	小皿	10.4	2.0	6.7	底部ヘラ切り。	①③⑤⑥	良好	棕色	
SI-48	4	56	70	土師質土器	小皿	9.6	2.5	6.7	底部ヘラ切り。	③④⑥	良好	棕色	
SI-48	5	56	70	土師質土器	高台付小皿	9.6	2.2	4.7	底部ヘラ削り後、高台貼付け。	③④⑥	良好	にぶい黄褐色	甕出土。砂粒多量。
SI-46	1	57	70	土師器	甕	(27.3)	29.2	(17.6)	把手貼付け。胴形外面ヘラ削り。	③⑥	良好	棕色	甕出土。
SI-46	2	57	70	須恵器	坏	14.3	4.3	6.2	底部ヘラ切り。ヘラ磨き。	③⑤⑥	良好	黄灰色	
SI-52	1	57	71	土師器	坏	12.0	2.9	7.0	体下～底部外面手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き・黒色処理。	③	良好	棕色	
SI-52	2	57	71	土師質土器	小皿	9.7	2.2	7.0	底部ヘラ切り。	③⑥	良好	棕色	
SI-53	1	57	71	土師器	甕	21.0	(31.8)	—	外面は、口縁部ナデ、胴上部ナデ、胴下部ヘラ磨き。内面は、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	③⑥	良好	棕色	
SI-53	2	57	71	土師器	甕	(25.9)	25.1	(8.8)	口縁部ナデ。胴部外面ヘラ削り。ヘラナデ。胴下部内面ヘラナデ。	③④⑤⑥	良好	にぶい棕色	
SI-55	3	58	71	須恵器	坏	13.5	5.6	7.0	底部全面同軸ヘラ削り。	②③④⑥	良好	灰色	
SI-55	4	58	71	須恵器	高台付盤	16.5	4.3	10.2	底部全面ヘラ削り後、高台貼付け。底部外面ヘラ磨き。	②③④⑥	良好	灰色	
SI-56	1	57	71	土師器	高台付碗	17.6	(4.5)	—	底部同軸ヘラ削り後、高台貼付け。内面ヘラ磨き・黒色処理。	③④⑥	良好	褐色	
SI-57	1	58	71	土師器	高台付坏	(13.2)	4.3	(6.4)	体下～底部外面同軸ヘラ削り後、高台貼付け。内面ヘラ磨き・黒色処理。体部外面磨き「方口」。	③④⑤	良好	棕色	
SI-57	2	58	71	土師器	坏	16.4	4.3	8.4	体下～底部外面同軸ヘラ削り。内面ヘラ磨き・黒色処理。	③④⑤⑥	良好	棕色	
SI-57	3	58	71	須恵器	坏	12.4	4.4	6.6	底部全面ナデ。底部外面ヘラ磨き「方口」。重ね焼成。	③	酸化塩焼成	赤褐色	
SI-57	4	58	71	須恵器	坏	13.8	4.8	6.4	底部同軸手切り磨き。底部ナデ。底部外面ヘラ磨き「方口」。	③④⑥	良好	灰色	
SI-57	5	58	71	須恵器	坏	13.8	5	6.9	底部全面ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ磨き。	③	酸化塩焼成	赤褐色	
SI-57	6	58	71	須恵器	坏	13.3	5.7	7.0	底部全面ナデ。底部外面ヘラ磨き。	③④⑥	良好	淡黄色	
SI-59	1	58	72	土師器	甕	20.0	(24.4)	—	外面は口縁部ナデ、胴部ヘラ磨き。内面は口縁部ヘラ磨き・胴部ナデ、ヘラ磨き。	③④⑥	良好	明褐色	
SI-59	2	58	72	土師器	甕	—	—	—	外面は口縁部ナデ、胴部平行叩き。内面は口縁部ナデ、胴部ナデ。	①	良好	灰褐色	
SI-59	3	58	72	土師器	球形土器	—	(7.2)	3.7	内外面ヘラ磨き。	①④⑤	良好	棕色	
SI-59	4	58	72	須恵器	坏	13.2	4.6	7.0	底部全面ヘラ削り。	①	不良	にぶい黄褐色	
SI-59	5	58	72	土製品	土軸?				径2.8、長さ2.8、孔径0.8cm。	⑤	土師質	黄褐色	

第10表 遺物観形表(10)

遺構名	遺構番号	新宮番号	旧宮番号	種別	器種	口径1	口径2	口径3	特徴	胎土	焼成	色調	備考
SI-60	1	59	72	須恵器	坏	(13.8)	4.7	(4.0)	底部全面回転ヘラ削り。	③⑥	酸化緑焼成	灰白色	
SI-60	2	59	72	須恵器	坏	12.6	5.3	6.5	底部ヘラ切り。底部ヘラ磨き「X」。	③⑥	良好	灰色	
SI-60	3	59	72	須恵器	高台付坏	10.7	5.3	5.8	底部全面回転ヘラ削り後、高台貼付け。底部外面ヘラ磨き「I」。	③⑥	良好	灰色	
SI-60	4	59	72	須恵器	蓋	(18.4)	3.8	3.0	天井部外面回転ヘラ削り後、板蓋珠形の突起付け。内面に自然釉付着。	⑥	良好	暗灰色	
SI-61	1	59	72	須恵器	坏	-	(3.9)	6.6	底部高台貼り付け後、底部全面ナデ。	①⑥	良好	灰褐色	
SI-65	1	59	72	土師器	高台付皿	11.0	4.5	7.4	体・底部回転ヘラ削り後、高台貼付け。	①③⑤	良好	明赤褐色	
SI-65	2	59	72	土師器	壺	11.8	14.8	6.0	外面は口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面は口縁部横ナデ、胴部ナデ。	①	良好	にぶい黄褐色	破出十。
SI-65	3	59	72	須恵器	高台付甗	(21.6)	3.8	(15.0)	底部回転ヘラ削り後、高台貼付け。	⑥	良好	灰色	破出十。
SI-67	1	59	72	土師器	小皿	8.8	2.3	6.3	底部ヘラ切り。	③⑤	良好	明赤褐色	完形。
SI-68	1	59	72	土師器	高台付坏	(14.2)	(5.1)	-	高台貼付け。	①③	良好	にぶい褐色	
SI-68	2	59	72	土師器	小皿	10.0	2.2	6.4	底部ヘラ切り。	①③	良好	にぶい黄褐色	完形。
SI-70	1	59	72	石製品	特種車	-	-	-	上面径6.4、下面径4.7、厚さ1.3、孔径0.8cm。				
SI-75	1	59	72	弥生土器	壺	-	-	-	折り返し口縁、キザ目、胸撞文。	①	良好	灰黄褐色	
SI-75	2	59	72	弥生土器	蓋	-	-	-	胸撞文状文。	⑥	良好	褐色	
SI-75	3	59	72	弥生土器	甗	-	-	-	胸撞文状文。	①③	良好	にぶい黄褐色	
SI-75	4	59	72	弥生土器	壺	-	-	-	胸撞文状文、胸撞文、LR織文。	①	良好	藍色	
SI-75	5	59	72	弥生土器	壺	-	-	-	燕尾文。	⑤	良好	浅黄褐色	
SI-75	6	59	72	弥生土器	甗	-	(2.3)	(10.8)	LR織文。底部木葉痕。	③	良好	褐色	
SI-75	7	59	72	土師器	甗	-	-	-	胴部外面ハケ目。	⑤	良好	浅黄褐色	
SI-75	8	59	72	土師器	甗	-	-	-	胴部外面ハケ目。	⑤	良好	黒褐色	
SI-75	9	59	72	須恵器	壺	20.2	4.3	3.5	天井部回転ヘラ削り後、扁平な高台貼付け。天井部内面にヘラ磨き「I」。	⑤	良好	灰色	
SI-76	1	60	72	土師器	坏	12.4	4.6	-	外面は口縁部横ナデ、体・底部ヘラ削り。ヘラ磨き。内面は染ナデ、ナデ。内外面厚付着。	③④	良好	浅黄褐色	ほぼ完形。
SI-81	1	60	73	土師器	高台付坏	13.8	4.8	7.0	底部全面回転ヘラ削り後、高台貼付け。内面ヘラ磨き・着色処理。	③⑤	良好	明赤褐色	
SI-81	2	60	73	須恵器	坏	14.0	5.1	6.2	底部ヘラ切り。	③⑤⑥	酸化緑焼成	褐色	
SI-81	3	60	73	須恵器	坏	(14.7)	5.3	6.5	底部ヘラ切り。底部外面に磨き「金」。	③⑤⑥	酸化緑焼成	淡褐色	
SI-81	4	60	73	須恵器	高台付坏	11.6	5.5	6.5	底部全面回転ヘラ削り後、高台貼付け。底部外面にヘラ磨き「金」。	③⑥	良好	暗灰色	
SI-81	5	60	73	須恵器	高台付坏	(15.6)	5.9	8.9	底部全面回転ヘラ削り後、高台貼付け。	③⑤⑥	良好	にぶい黄褐色	
SI-83	1	60	73	土師器	甗	16.0	14.2	7.3	外面は口縁・胴中央部ナデ、胴下部ヘラ削り。内面は染ナデ。底部木葉痕。	③	良好	赤褐色	
SI-83	2	60	73	土師器	甗	(22.1)	(13.4)	-	外面は口縁部横ナデ、胴上部ナデ。内面は口縁部横ナデ、胴上部ヘラナデ、胴部ナデ。	③⑥	良好	赤褐色	
SI-83	3	60	73	須恵器	坏	13.5	4.8	9.0	底部全面ヘラ削り。	⑤	良好	明灰色	
SI-83	4	60	73	須恵器	坏	13.8	4.8	8.8	底部全面ヘラ削り。	(7)⑥	良好	灰黄色	
SI-83	5	60	73	須恵器	坏	13.1	4.6	8.3	底部ヘラ切り。口縁部内外面厚付着。	⑤⑥	良好	灰色	
SI-83	6	60	73	須恵器	高台付坏	14.7	5.6	9.5	底部全面ヘラ削り後、高台貼付け。外面に厚付着。	⑤⑥	良好	灰色	

第11表 遺物観察表(11)

遺構名	遺構番号	層位	遺物番号	特別	器種	口径1	口径2	口径3	特徴	胎土	焼成	色調	備考
SI-83	7	60	73	須忠器	高台付杯	18.1	7.1	12.1	底部回転へつ削り後、高台削り。	②③ ④	良好	灰色	ほぼ定形。
SI-83	8	61	73	須忠器	高台付盥	20.2	3.9	12.4	底部全面回転へつ削り後、高台削り付け。内面黒色焼き痕。	②③ ④	良好	灰色	
SI-83	9	61	73	須忠器	高台付盥	21.5	4.1	-	底部全面回転へつ削り後、高台削り付け。底部外面にへつ削り×。底部内面黒色焼き痕。	⑥⑤	良好	灰色	
SI-83	10	61	74	須忠器	鉢	19.8	9.6	-	体下～底部回転へつ削り。自然焼付着。	⑥	良好	灰色	ほぼ定形。
SI-83	11	61	74	須忠器	甕	12.1	19.6	13.1	底部全面ナデ調整後、高台削り付け。削り部外面へつ削り。自然焼付着。	②③	良好	灰色	
SI-84	1	61	74	土師器	杯	13.6	4.6	7.2	外面は体下～底部手持ちへつ削り。内面はへつ削り×。黒色処理。	③	良好	にぶい 褐色	
SI-85	1	61	74	土師器 土師盥	皿	13.0	3.2	7.7	底部全面回転へつ削り。	③⑤	良好	褐色	ほぼ定形。
SI-85	2	61	74	土師器 土師盥	皿	10.2	2.0	7.1	底部へつ削り。内外面焼付着。	③⑥	良好	浅黄褐色	定形。
SI-85	3	61	74	土師器 土師盥	皿	10.2	2.2	6.3	底部へつ削り。	③⑥	良好	浅黄褐色	ほぼ定形。
SI-90	1	61	74	石製品	紡錘車				上部径3.5、下部径2.7、厚さ2.0、孔径0.6cm。表裏面に使用痕。				
SI-94	1	61	74	土師器	杯	11.4	3.2	6.0	底部回転(右)未切り離し。内面へつ削り×。黒色処理。外部外面に黒書「久野」。	④	良好	黄褐色	
SE-1	1	61	74	須忠器	杯	14.5	5.5	7.2	底部全面ナデ。底部内面黒書「久」、底部外面へつ削り×。黒色処理。	③⑤ ⑥	酸化塩 焼成	にぶい 褐色	
SE-1	2	61	74	木製品					現存長70.8、幅12.7、厚さ5.7cm。端部に径6.4cmの円孔。				
遺構外	1	62	74	土師器	杯	13.0	(3.9)	-	内外面へつ削り。	③	良好	褐色	
遺構外	2	62	74	土師器	杯	14.4	(5.4)	-	外面は口縁部ナデ。底部へつ削り。内面へつ削り×。内面黒色。	③⑥	不良	褐色	
遺構外	3	62	74	土師器	杯	(12.0)	5.5	(4.5)	体下部へつ削り後、内外面へつ削り。	⑤⑥	良好	灰黄褐色	
遺構外	4	62	74	土師器	杯	12.0	6.5	4.0	体下部へつ削り後、内外面へつ削り。底部内面に工具痕。	⑤	良好	褐色	
遺構外	5	62	74	土師器	杯	13.3	3.9	7.5	底部へつ削り。内面黒色処理。体部外面黒書「田」「口」。	⑤	良好	にぶい 黄褐色	
遺構外	6	62	74	土師器	杯	14.9	4.8	-	体下～底部回転へつ削り。内面へつ削り×。黒色処理。外面焼付着。	⑤⑥	良好	にぶい 黄褐色	
遺構外	7	62	74	土師器	高台付杯	10.6	3.9	6.3	内面へつ削り×。黒色処理。高台削り付け。	-	良好	灰黄色	
遺構外	8	62	74	土師器	高杯	-	(6.1)	-	脚部外面へつ削り。透孔3。	③④	良好	黄褐色	
遺構外	9	62	74	土師器	甕	(16.3)	(5.3)	-	口縁部ナデ。	⑥⑦	良好	にぶい 黄褐色	
遺構外	10	62	75	土師器	甕	22.0	(16.7)	-	外面は、口縁部ナデ、胴部へつ削り。内面は口縁部ナデ、胴部ナデへつ削り×。	③⑥	良好	にぶい 褐色	
遺構外	11	62	74	須忠器	杯	(12.9)	4.8	(8.0)	底部手持ちへつ削り。	⑥	良好	灰色	
遺構外	12	62	74	須忠器	杯	13.2	5.1	(6.4)	底部ナデ。底部内面黒色焼き痕。	⑤⑥	良好	灰色	
遺構外	13	62	75	須忠器	杯	12.7	3.4	7.4	底部へつ削り。	③④	酸化塩 焼成	にぶい 褐色	
遺構外	14	62	75	須忠器	高台付杯	10.9	5.1	6.8	底部全面へつ削り後、高台削り付け。	⑤⑥	良好	灰色	
遺構外	15	62	75	須忠器	甕	(24.2)	(10.5)	-	胴部内面当て道具痕。	③	酸化塩 焼成	浅黄色	
遺構外	16	62	75	須忠器	鉢	(25.8)	10.7	(16.0)		⑤	良好	にぶい 黄褐色	
遺構外	17	62	75	鉄製品	鎌				幅6.9、横4.2、厚さ1.0cm。				
遺構外	18	62	75	石器	ナイフ 型石器				長さ6.7、幅1.1、厚さ0.8cm。				

IV ま と め

1. はじめに

本遺跡で検出された遺構は、竪穴住居跡93軒、土坑89基、溝跡5条、井戸跡1基を数える。これらの遺構は調査区のほか全域に密集した状態で分布しているが、調査終了後に出土遺物や覆土、切り合いなどからそれぞれの帰属時代を区分した結果、時代別の数量は、弥生時代の竪穴住居跡が15軒、古墳時代の竪穴住居跡が14軒、奈良平安時代では竪穴住居跡64軒および井戸跡が1基、中世以降の土坑が89基、溝跡5条である。

本稿では、各時代毎に遺構の分布状況や形状などを中心にみていき、本遺跡における各時代の様相や時代変遷を考えてみたい。

2. 弥生時代

該期の竪穴住居跡の分布状況を概観すると、合計15軒のうち13軒が、中央やや南側から南に向かって緩やかに傾斜する谷地形の縁辺部（標高35.00～35.50m前後）に沿って東西方向に並んでいる状況が看取される。住居と住居の間隔は概ね10m前後である。これ以外の2軒（SI-54・62）は傾斜部の下方（34.50m前後）に位置している。また、該期同志で切りあい関係にあるもの、言い換えれば同時に存在しないものは、SI-76とSI-77、SI-80とSI-79の4軒であり、新旧関係はいずれも前者が後者に切られている。その他の11軒は該期同志では重複していない。後述するが切り合いのある4軒の住居は出土遺物からすると時期的な差がないことから、建て替えられた可能性も考えられる。

次に平面形状を見てみると、15軒中13軒は隅丸長方形（推定を含む）で、他の2軒（SI-77・79）は方形である。ちなみに方形の2軒はいずれも前述した切り合っている遺構の新しいほうである。隅丸長方形の住居の長軸方向は、13軒中12軒が角度の差こそあれ、すべて東西方向である。南北方向のものは谷下方（南壁近く）に位置するSI-54のみである。

住居の規模は、大きく2種類に分類できる。比較的大型のもの（7×5m前後）とやや小型のもの（6×4m前後）である。床面積に換算すると約35㎡前後のもの約24㎡前後のものである。前者はSI-44・74・77・54・86・76の6軒で、後者はSI-42・45・78・33・5・28・62・80・66の9軒であり、小型のものがやや多い。

炉は、推定位置が攪乱や他の遺構に壊されているもの以外は、全て住居のほぼ中央に位置している。形状は大小の差はあるが概ね楕円形を呈す地床炉で、やや窪んだ中央の火床部には焼土や被熱痕が認められる。

配列などから主柱穴（壁柱穴を除く）と思われるピットの数を見ていくと、SI-5は4本柱、SI-28は南に位置する2本は古墳時代の住居や攪乱に壊されているため推定ではあるがおそらく4本柱、以下、SI-33・42・44・54・62（1本は推定）・66（1本は推定）・74・78（1本は推定）・80（2本は調査区外のため推定）は4本柱、SI-79は一部奈良平安時代の住居に壊されているため推定ではあるが4～6本、SI-77は1本、SI-42・86は大部分が奈良平安時代の住居に壊されているため不明である。まとめると、4本の主柱穴のものが11軒、その他が4軒である。4本柱のものうち、SI-28・42の2軒は中央に位置する主柱穴の他に西壁際に3～4本の柱穴と思われるピットが穿たれており、その配置などから西側に入り口の施設があった可能性も考えられる。また、主軸が南北方向のSI-54は4本の主柱穴の他に中央部に8本の小ピットが穿たれている。この住居は、検出位置や主軸の方向、柱穴の数などを考えると、何らかの他の住居とは違う特殊な施設であった可能性もある。

出土遺物については、どの遺構の遺物についても概ね弥生時代末期十王台式であり、切り合いのある遺構間でも時期的な差異は認められなかった。

以上のことから推察すると、本遺跡における弥生時代の様相は、畝期末期に構築された東西に長い大小の竪穴住居が台地の南側縁辺部に沿って概ね10m前後の間隔で立ち並び、その幾つかは西側に入り口があり、どの住居からも煮炊き時の煙が立ち昇っていたようである。さらに、狹範な調査区だけでなく遺跡全体を見れば、中央に広場を持って展開する集落の南側の一部である可能性も考えられる。

3. 古墳時代

合計14軒検出された竪穴住居の分布状況を概観すると、1軒（SI-43）は東端際に位置するが、その他の13軒はすべて中央より西側に位置している。東側の1軒と中央の住居との距離は約30mあり、その中間部分は南北帯状の空白地帯とも考えられる。また、該期同士で切り合い関係のあるものはSI-15とSI-34だけであり、その他は5m前後の距離を保って配置している。

平面形状で分類すると、方形のものが10軒、長方形のものが4軒である。規模は、大型（7.2×6.2m前後）のもの2軒、中間（5.1×4.1m前後）のもの4軒、小型（4.0×3.2m前後）のもの8軒であり、小型のものが最も多い。

カマドの位置は、西カマドのものが8軒あり、その他のものは確認できていない。主柱穴は、形状が方形を呈するSI-14・22・27・43・63（推定）には4本の柱穴が確認されている。特に大型のSI-27には規模の大きな柱穴が穿たれている。

次に遺構に伴うであろう出土遺物から時期を分類すると、5世紀代がSI-3の1軒で調査区中央北側に位置している。6世紀前半のものはSI-15・24・30・32・27の5軒で調査区中央西側に集中する。6世紀後半がSI-4・14・22・43・53・63・93の7軒で調査区西側を中心に南端から、中間に空白部分はあるが東端まで分布しているようである。

以上から、古墳時代での本遺跡の様相は、調査区の北側の台地上を中心に5世紀代から少数ながら建物が建ち始め、6世紀前半には縁辺部を中心に大型住居を含む竪穴住居が建ち、その後6世紀後半になると集落の規模が大きくなるとともに西側にカマドを持つ住居群が広範に広がっていくようである。

4. 奈良・平安時代

該期の竪穴住居跡は、合計64軒検出されているが、その大半が重複し切り合っている。その分布状況は、中央部の台地縁辺部はやや少ないものの、調査区全域に広がっている。特に、北西部や南西部、南部での密度は非常に高く重複関係も著しい。

形状は、東西方向が長軸の長方形を呈するものもあるが、大半はほぼ方形を呈している。規模は最大のもの（SI-60）で6.2×6.0mを測り、最小のもの（SI-50）は3.0×2.5mを測る。主軸の方向は北壁に接するSI-17・42以外は、多少の差はあるがその殆どが座標北を示している。主柱穴については、4本以上の柱穴が穿たれているものはSI-8・13・20・55・57・60・81（推定）・94・90の9軒である。

カマドの位置は東カマドのもの（SI-50・56）が2基あるが、カマドが確認できたものの殆どは北壁に構築されている。

出土遺物の時期からその構築年代がわかるものについてのみその配置をみると、8世紀代のはSI-7・10・41の3軒で調査区北側の東端と西端に位置する。9世紀代はSI-13・31・55・57・60・61の6軒で調査区の南西端を中心に中央より南下半に位置している。ただし、SI-13のみは北東端に位置している。10世紀・11世紀代ではSI-1・2・8・11・12・17・19・38・40・47・48・52・67・94であり、分布状況は全域に分布しやや北西部に多いがさほど偏りは見られない。

次に井戸跡であるが、調査区の北西部北壁近く、10世紀代の住居SI-2とSI-8の調査中間部に位置している。周辺

の建物は重複し立て替えられているが、井戸のある周辺部分はある一定の距離が保たれているように見える。

以上のことから、奈良平安時代の遺跡の様相は、8世紀代には調査区の北を中心に少数ながら建物が建てられ、9世紀代になるとさらに南方向に範囲は拡大し、10世紀以降には住居の間に井戸も掘られ、より多数の住居が立ち並んでいくようである。ちなみに、調査区の東西南北のどの壁にも住居が懸っており、集落の範囲は調査区外へとかなり広範に及んでいるようである。

5. 中世以降

中世以降とした遺構は、土坑89基、溝跡5条である。土坑については、形態や覆土から近代の芋穴と思われるが、その分布状況は調査区のはほぼ全域に亘っている。特に中央の東寄りと西寄りに多く密集し分布していることが看取される。

溝跡は、調査区東部で合計4条が検出されたが、いずれも溝幅は概ね50cm前後で、断面形は浅い皿状を呈している。そのうち、S D01は溝の中では最も東よりに位置しており、南西角は途切れてはいるが一辺約10mの方形の範囲を区画するように廻っている。これらの溝は、周囲の状況から考えると、おそらく畑の区画溝乃至根切り溝の痕跡であると思われる。

以上のことから、本遺跡の周辺は中世以降、特に近代頃までには、現況と同じような純然たる田園地帯になっていったと思われる。

6. おわりに

今回の調査は小原地区の「県営畑地帯総合整備事業」に伴うものであり、その調査対象面積は3,400㎡と、遺跡全体から見ればほんの一角に過ぎなかった。にもかかわらず、調査区の中に総計98軒にもほる竪穴住居群が確認され、弥生時代末期から古墳・古代の永きに亘り、畿時期かの変遷を経ながら集落が営まれてきたことが明らかとなった。

このことは、本遺跡の周辺にはかなり広範囲に亘って大規模な集落群が展開し、当該地域が「いばらぎ」の名の由来の地であるとともに旧茨城国の中心的地域であったことが、発掘調査という考古学的手法によって実証されたと云う事であり、同時に、北側に隣接する一本松古墳群、古代律令期の主要官道との関連を考える上でも貴重且つ重要な資料を手にすることが出来たと云うことでもある。今後、継続して実施される予定の発掘調査により、さらに、本遺跡の全容が明らかになる事に期待したい。

(板野音鏡)

参考文献

- 「友部町史」 友部町 1990年
- 「茨城県教育財団文化財調査報告第162集」 仲丸遺跡 久保塚群 五万福古道 向原遺跡・向原塚群
前原塚 仲丸塚 財団法人茨城県教育財団 2000年
- 「茨城県友部町 小原香取・坂場遺跡」 友部町小原香取・坂場遺跡発掘調査会 1994年11月
- 「茨城県西茨城郡友部町 四十八塚発掘調査報告書」 友部町教育委員会 1998年6月
- 「完全寺裏遺跡発掘調査報告書」 西茨城郡友部町教育委員会 完全寺裏遺跡発掘調査会 1991年9月
- 「慈教堂古墳発掘調査報告書」 友部町教育委員会 慈教堂古墳発掘調査会 1990年3月
- 「上郷遺跡発掘調査報告書」 西茨城郡友部町上郷遺跡発掘調査会 1998年3月
- 「諏訪山古墳」 茨城県西茨城郡友部町諏訪山古墳発掘調査会 1980年3月
- 「茨城県友部町 北山不動遺跡」 友部町北山不動遺跡発掘調査会 1992年4月
- 「友部町歴史年表」 友部町教育委員会 1986年3月
- 「友部町の植生と植物」 友部町教育委員会 1988年3月

写真図版



1.SI-5 全景



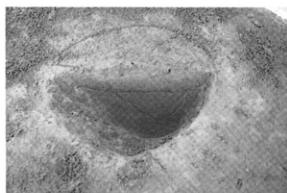
2.SI-5 土层断面



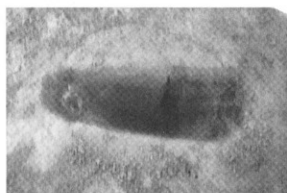
3.SI-5 犁跡土层断面



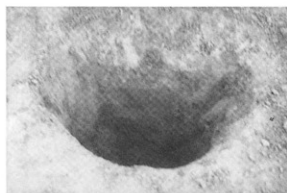
4.SI-5 P1 土层断面



5.SI-5 P2 土层断面



6.SI-5 P3 土层断面



7.SI-5 P4 土层断面



8.SI-5 P5 土层断面



1.SI-28 全景



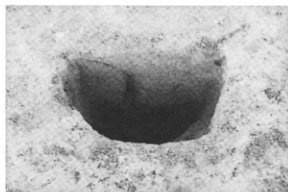
2.SI-28 土層断面



3.SI-28 炉



4.SI-28 P1 土層断面



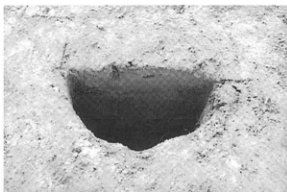
5.SI-28 P2 土層断面



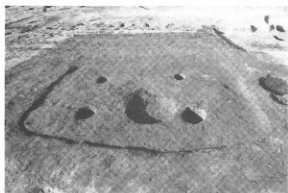
6.SI-28 P3 土層断面



7.SI-28 P4 土層断面



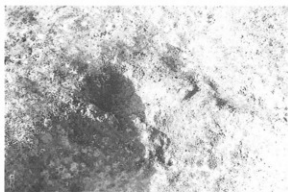
8.SI-28 P6 土層断面



1.SI-33 全景



2.SI-33 土層断面



3.SI-33 伊跡完掘



4.SI-33 伊土層断面



5.SI-33 遺物出土狀況



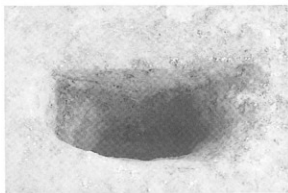
6.SI-33 P1 土層断面



7.SI-33 P2 土層断面



8.SI-33 P3 土層断面



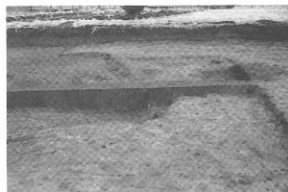
1.SI-33 P4 土層断面



2.調査光景



3.SI-39・40・41・42 全景



4.SI-41・42 土層断面



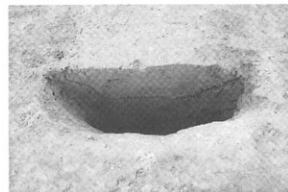
5.SI-44 全景



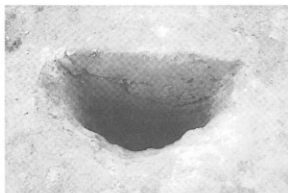
6.SI-44 土層断面



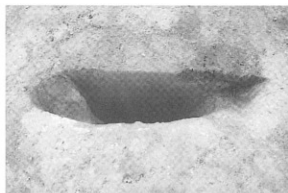
7.SI-44 P1 土層断面



8.SI-44 P2 土層断面



1.SI-44 P3 土层断面



2.SI-44 P4 土层断面



3.SI-45 全景



4.SI-45 土层断面



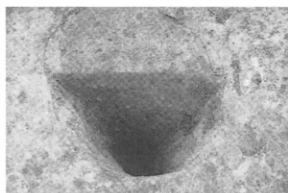
5.SI-45 炉完掘



6.SI-45 炉坑土层断面



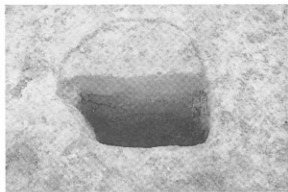
7.SI-45 P5 土层断面



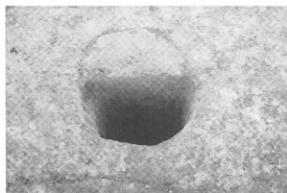
8.SI-45 P2 土层断面



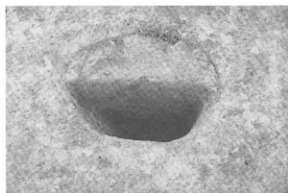
1.SI-45 P4 土层断面



2.SI-45 P7 土层断面



3.SI-45 P6 土层断面



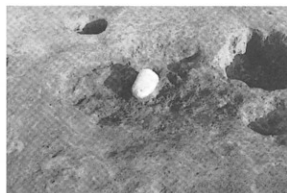
4.SI-45 P1 土层断面



5.SI-54 全景



6.SI-54 土层断面



7.SI-54 炉



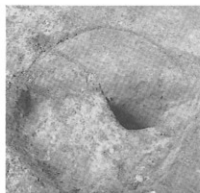
8.SI-54 炉土层断面



1.SI-54 遺物出土狀況



2.SI-54 P1 土層剖面



3.SI-54 P2 土層剖面



4.SI-54 P3 土層剖面



5.SI-54 P4 土層剖面



6.SI-54 P6 土層剖面



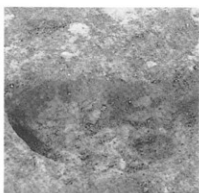
7.SI-54 P7 土層剖面



8.SI-54 P9 土層剖面



9.SI-54 P11 土層剖面



10.SI-54 P10 土層剖面



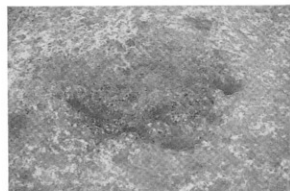
11.SI-54 P12 土層剖面



1.SI-62 全景



2.SI-62 土層剖面



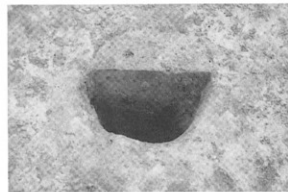
3.SI-62 炉



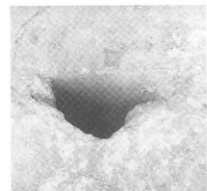
4.SI-62 炉跡土層剖面



5.SI-62 遺物出土狀況



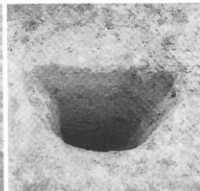
6.SI-62 P2 土層剖面



7.SI-62 P1 土層剖面



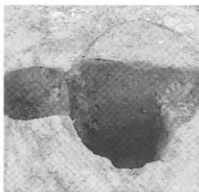
8.SI-62 P2 土層剖面



9.SI-62 P3 土層剖面



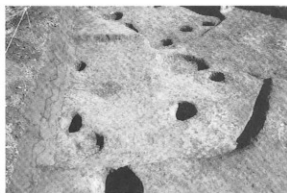
1.SI-62 P6 土層断面



2.SI-62 P1 土層断面



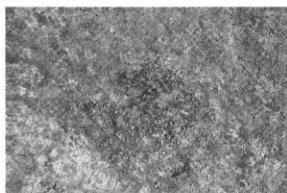
3.SI-62 P5 土層断面



4.SI-66 全景



5.SI-66 土層断面



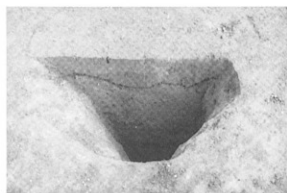
6.SI-66 表層



7.SI-66 遺物出土狀況



8.SI-66 P1 土層断面



9.SI-66 P2 土層断面



1.SI-66 P3 土層剖面



2.SI-66 P5 土層剖面



3.SI-66 P4 土層剖面



4.調查光景



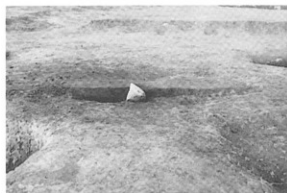
5.SI-74 全景



6.SI-74 土層剖面



7.SI-74 炉完堀



8.SI-74 炉跡土層剖面



1.SI-77・78 全景



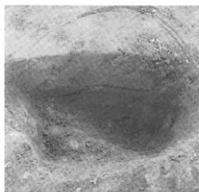
2.SI-77 土層断面



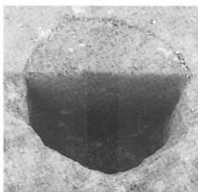
3.SI-77 黍跡



4.SI-77 Pit1



5.SI-77 P2



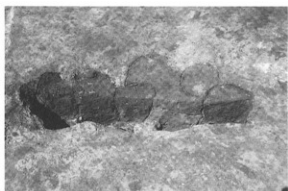
6.SI-77 P3



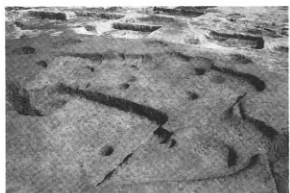
7.SI-77 P4



8.SI-78 土層断面



9.SI-78・79間のピット群土層断面



1.SI-79 全景



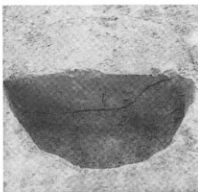
2.SI-79 土层断面



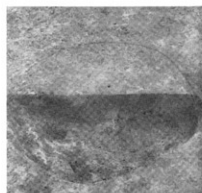
3.SI-79 P1 土层断面



4.SI-79 P2 土层断面



5.SI-79 P3 土层断面



6.SI-79 P4 土层断面



7.SI-79 P5 土层断面



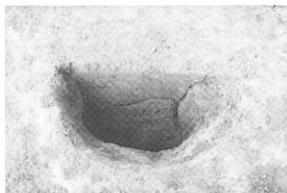
8.SI-79 P7 土层断面



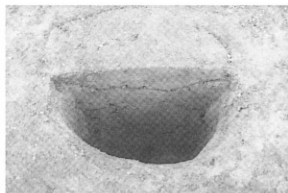
9.SI-80 全景·土层断面



10.SI-80 P1



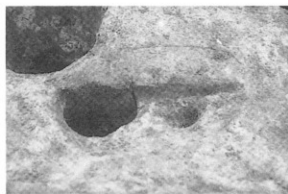
1.SI-80 P2



2.SI-80 P3



3.SI-80 P4 土层断面



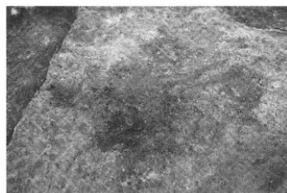
4.SI-80 P5 土层断面



5. SI-86 土层断面



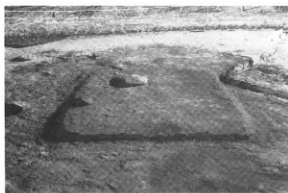
6.SI-86 全景



7.SI-86 印跡



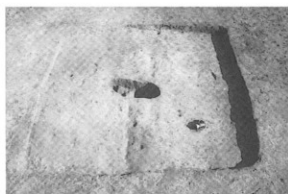
8.調查全景



1.SI-3 全景



2.SI-3 土層断面



3.SI-4 全景



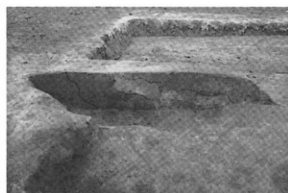
4.SI-4 土層断面



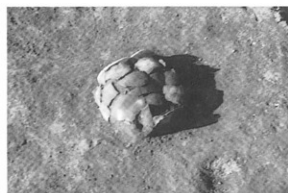
5.SI-14 全景



6.SI-14 土層断面



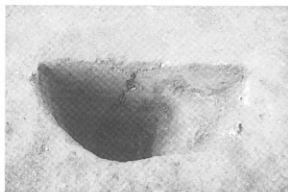
7.SI-14 カマド土層断面



8.SI-14 遺物出土状況



1.SI-14 P1



2.SI-14 P2



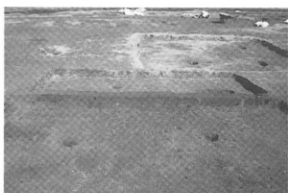
3.SI-14 P3



4.SI-14 P4



5.SI-15 全貌



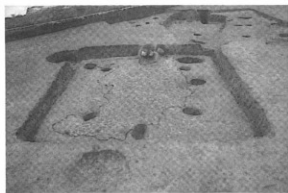
6.SI-15 ベルト土層断面



7.SI-15 カマド



8.SI-15 遺物出土状況



1.SI-22 全景



2.SI-22 土層断面



3.SI-22 カマド



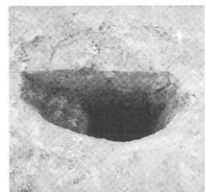
4.SI-22 カマド南北土層断面北側



5.SI-22 カマド東西土層断面



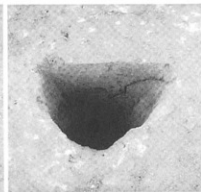
6.SI-22 カマド遺物出土状況



7.SI-22 P3 土層断面



8.SI-22 P2 土層断面



9.SI-22 P4 土層断面



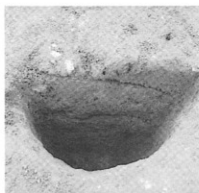
1.SI-22 P6 土層断面



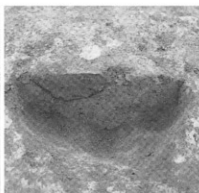
2.SI-22 P5 土層断面



3.SI-22 東壁下P6土層断面



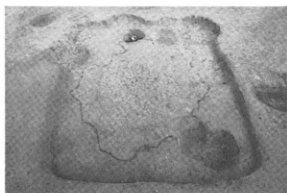
4.SI-22 東壁下P7 土層断面



5.SI-22 P8 土層断面



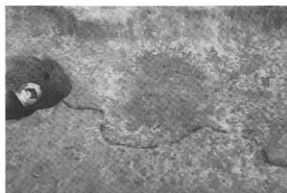
6.SI-24 作業光景



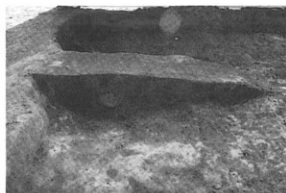
7.SI-24 全景



8.SI-24 土層断面



9.SI-24 カマド



10.SI-24 カマド土層断面



1.SI-27 遺物出土状況



2.SI-24 Pit 東壁寄り土層断面



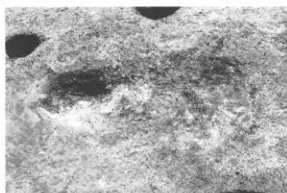
3.SI-27 全景



4.SI-27 東西土層断面



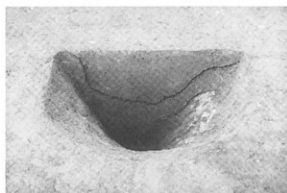
5.SI-27 南北土層断面



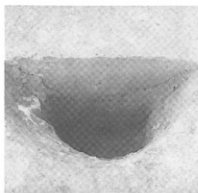
6.SI-27 炉完掘



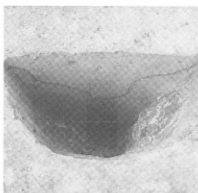
7.SI-27 炉土層断面



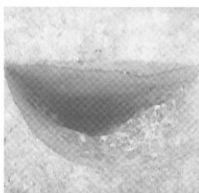
8.SI-27 P1 土層断面



1.SI-27 P2 土層断面



2.SI-27 P3 土層断面



3.SI-27 P4 土層断面



4.SI-30 全景



5.SI-30 土層断面



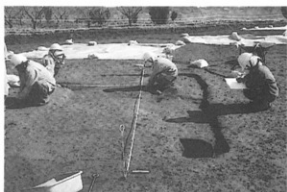
6.SI-30 カマド



7.SI-30カマド土層断面



8.SI-30 P1 土層断面



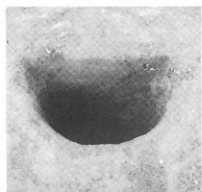
9.SI-30 調査光景



1.SI-32 全景



2.SI-32 印跡



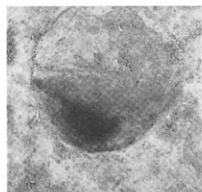
3.SI-32 P1 土層断面



4.SI-32 P2 土層断面



5.SI-32 P3 土層断面



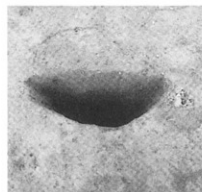
6.SI-32 P4 土層断面



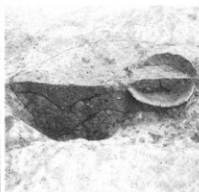
7.SI-32 P5 土層断面



8.SI-32 P6 土層断面



9.SI-32 P7 土層断面



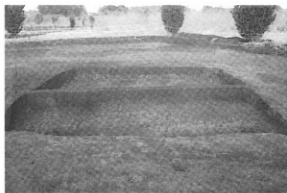
10.SI-32 Pit8 土層断面



11.調查光景



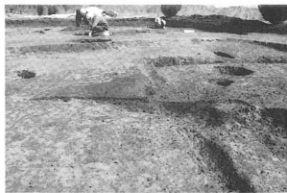
1.SI-43 全景



2.SI-43 土層断面



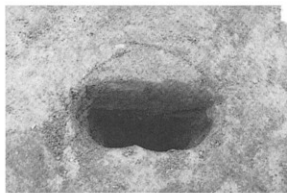
3.SI-43 カマド完掘



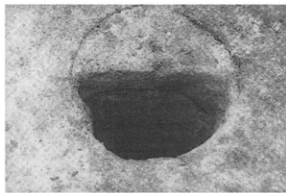
4.SI-43 カマド土層断面



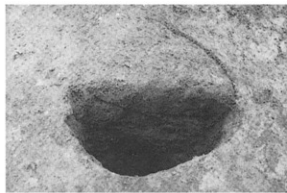
5.SI-43 P1



6.SI-43 P2



7.SI-43 P3



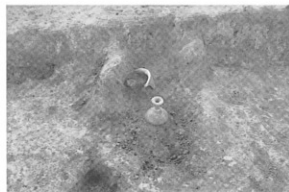
8.SI-43 P4



1.SI-53 全景



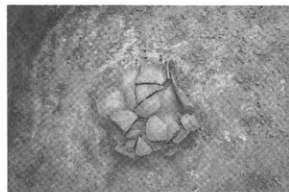
2.SI-53 土層断面



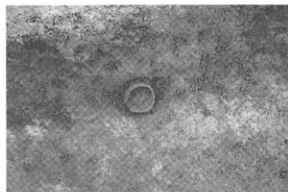
3.SI-53 カマド



4.SI-53 カマド土層断面



5.SI-53 遺物出土状況



6.SI-53 遺物出土状況



7.SI-53 遺物出土状況



8.SI-53 カマド前ビット土層断面



1.SI-53 南側ピット土層断面



2.調査光景



3.SI-63 全景



4.SI-63 土層断面



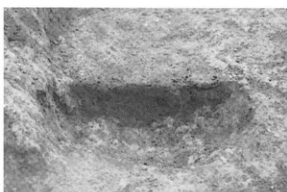
5.SI-63 カマド



6.SI-63 P1 土層断面



7.SI-63 P2 土層断面



8.SI-63 P3 土層断面



1.SI-71・72 土層断面



2.SI-71 全景



3.SI-71 カマド完掘



4.SI-71 作業光景



5.SI-75 土層断面



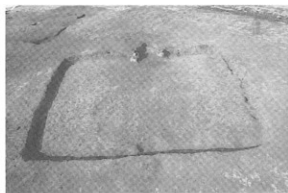
6.SI-75 全景



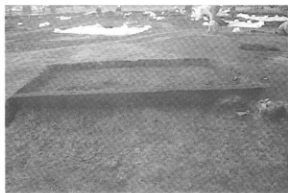
7.SI-93 カマド土層断面



8.SI-93 全景



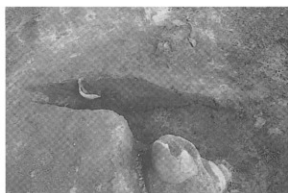
1.SI-1 使用面全景



2.SI-1 土層断面



3.SI-1 カマド



4.SI-1 カマド土層断面



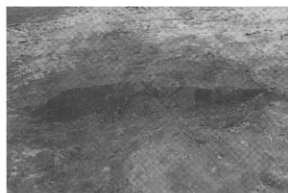
5.SI-2 全景



6.SI-2 土層断面



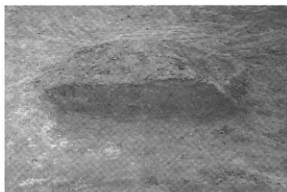
7.SI-2 東カマド



8.SI-2 東側カマド土層断面



1.SI-2 北カマド



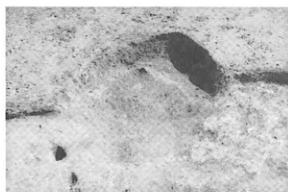
2.SI-2 北壁カマド土層断面



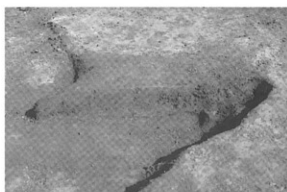
3.SI-6 全景



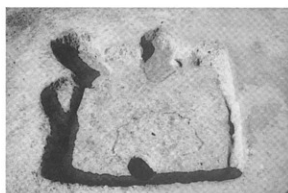
4.SI-6 土層断面



5.SI-6 カマド



6.SI-6 カマド土層断面



7.SI-7 使用面全景



8.SI-7 土層断面



1.SI-7 カマド使用面



2.SI-7 カマド土層断面



3.SI-7 ビット土層断面



4.SI-7 ビット (南壁寄り)



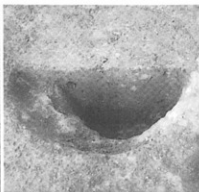
5. SI-8 全景



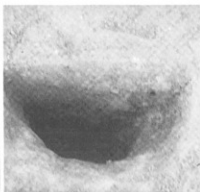
6.SI-8 土層断面



7.SI-8 カマド土層断面



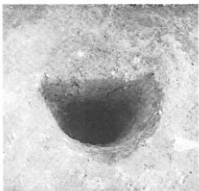
8.SI-8 P1 土層断面



9.SI-8 P2 土層断面



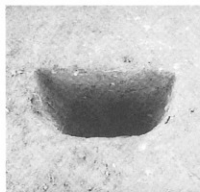
1.SI-8 P3 土層断面



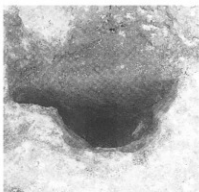
2.SI-8 P4 土層断面



3.SI-8 P5 土層断面



4.SI-8 P6 土層断面



5.SI-8 カマド右袖ピット土層断面



6.SI-8 カマド左袖ピット土層断面



7.SI-9 全景



8.SI-9 土層断面



9.SI-9 カマド



10.SI-10 カマド土層断面



1.SI-10 全景



2.SI-10 土層断面



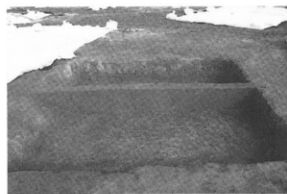
3.SI-10 カマド完掘



4.調査光景



5.SI-11 全景



6.SI-11 土層断面



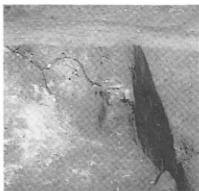
7.SI-11 カマド



8.SI-11 カマド(支脚)



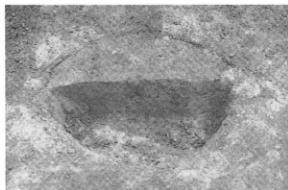
1.SI-11 カマド南北土層断面



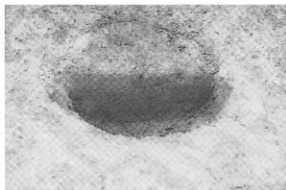
2.SI-11 カマド東西土層断面西



3.SI-11 カマド東西土層断面東側



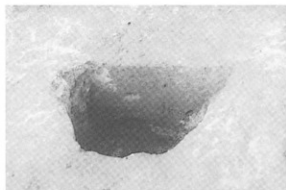
4.SI-11 P1 土層断面 (東壁寄り)



5.SI-11 P2 土層断面 (南壁寄り)



6.SI-11 P3 土層断面 (中央の柱穴)



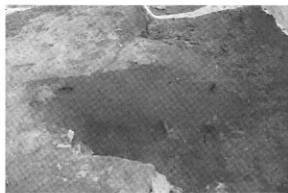
7.SI-11 P (カマド手前)



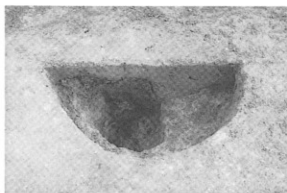
8.SI-12 全景



9.SI-12 カマド



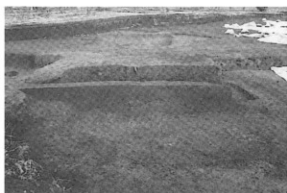
1.SI-12 カマド土層断面



2.SI-12 P1



3.SI-13 全景



4.SI-13 土層断面



5.SI-13 カマド土層断面



6.SI-13 カマド土層断面



7.SI-13 P1 土層断面



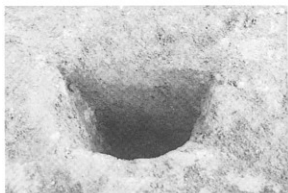
8.SI-13 P2 土層断面



9.SI-13 P3 土層断面



1.SI-13 P4 土層断面



2.SI-13 P5 土層断面



3.SI-16 全景



4.SI-16 カマド



5.SI-16 カマド土層断面



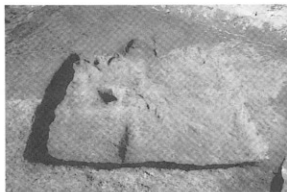
6.調査光景



7.SI-17 全景



8.SI-17 土層断面



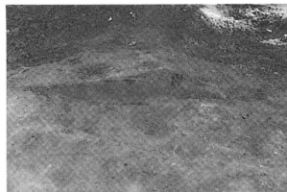
1.SI-18 全景



2.SI-18 土層断面



3.SI-18 カマド使用面全景



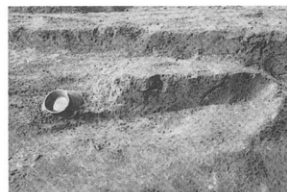
4.SI-18 カマド土層断面



5.SI-19 全景



6.SI-19 土層断面



7.SI-19 カマド土層断面



8.SI-19 Pit1 土層断面



1.SI-20 全景



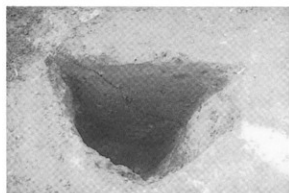
2.SI-20 土层断面



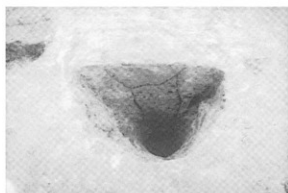
3.SI-20 土层断面



4.SI-20 P1 土层断面



5.SI-20 P2 土层断面



6.SI-20 P3 土层断面



7.SI-21 全景



8.SI-21 土层断面



1.SI-25 全景



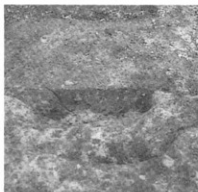
2.SI-25 土層断面



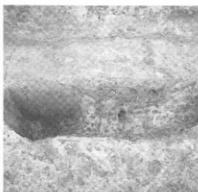
3.SI-25 カマド



4.SI-25 カマド土層断面



5.SI-25 P1 土層断面



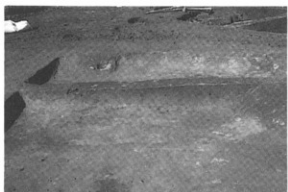
6.SI-25 P2 土層断面



7.SI-25 P3 土層断面



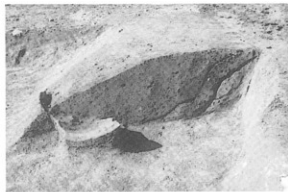
8.SI-26 全景



9.SI-26 土層断面



1.SI-26 北カマド



2.SI-26 北壁カマド土層断面



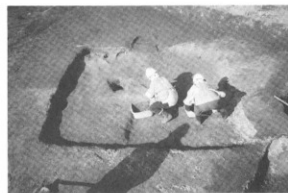
3.SI-26 東カマド



4.SI-26 東壁カマド土層断面



5.SI-26 P1 土層断面



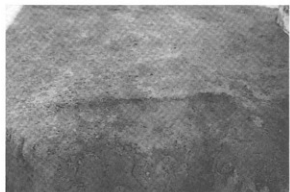
6.調査光景



7.SI-29 全景



8.SI-29 土層断面



1.SI-29 カマド土層断面



2. 作業光景



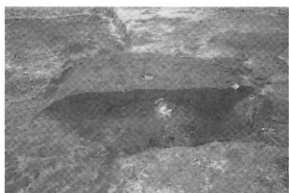
3.SI-31 全景



4.SI-31 土層断面



5.SI-31 カマド



6.SI-31 カマド土層断面



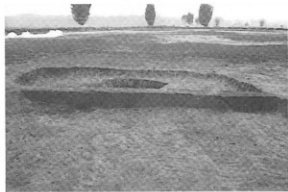
7.SI-31 鉄器出土状況



8.SI-31 ビット土層断面



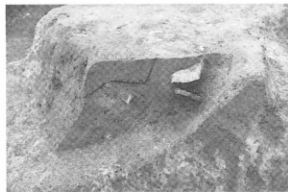
1.SI-34 全景



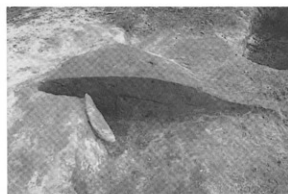
2.SI-34 土層断面



3.SI-34 東西カマド完掘



4.SI-34 東カマド土層断面



5.SI-34 カマド土層断面



6.調査光景



7.SI-35 全景



8.SI-35 全景と土層断面



1.SI-35 P1 土層断面



2.作業光景



3.SI-36 全景



4.SI-36 土層断面



5.SI-36 カマド



6.SI-36 カマド土層断面



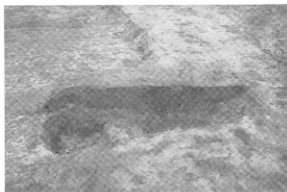
7.SI-37 全景



8.SI-37 土層断面



1.SI-37 カマド完掘



2.SI-37 カマド土層断面



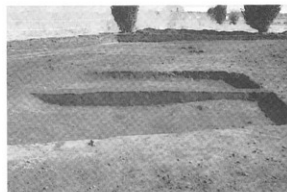
3.SI-38 カマド土層断面



4.SI-38 カマド完掘



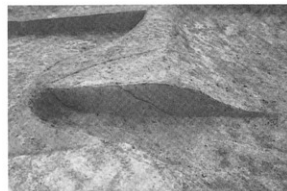
5.SI-39・40・41 全景



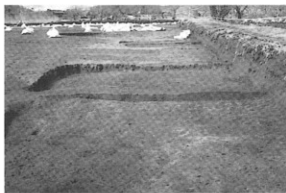
6.SI-39 土層断面



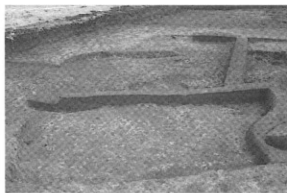
7.SI-39 カマド



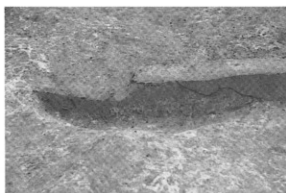
8.SI-39 カマド土層断面



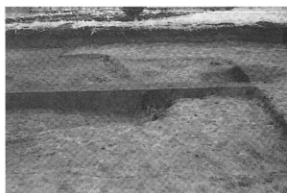
1.SI-40 土層断面



2.SI-41 土層断面



3.SI-41 カマド土層断面



4.SI-41・42 切合土層断面



5.SI-46 全景



6.SI-46 土層断面



7.SI-46 カマド



8.SI-46 カマド土層断面



1.SI-47 全景



2.SI-47 土層断面



3.SI-47 カマド



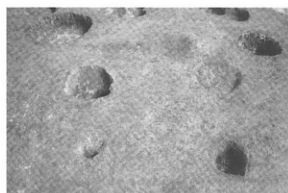
4.SI-47 カマド土層断面



5.SI-48 全景



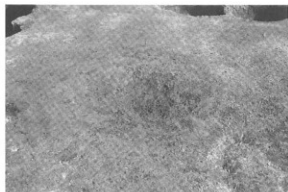
6.SI-48 土層断面



7.SI-49 全景



8.SI-49 土層断面



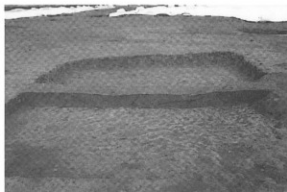
1.SI-49 カマド



2.SI-49 カマド土層断面



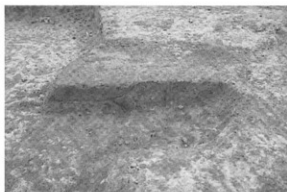
3.SI-50 全景



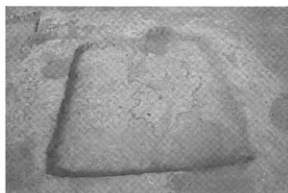
4.SI-50 土層断面



5.SI-50 カマド完掘



6.SI-50 カマド土層断面



7.SI-51 全景



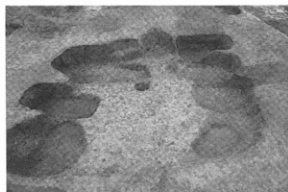
8.SI-51 土層断面



1.SI-51 カマド完掘



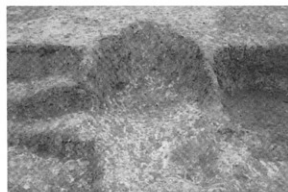
2.SI-51 カマド土層断面



3.SI-52 全景



4.SI-52 土層断面



5.SI-52 カマド



6.SI-52 カマド土層断面



7.SI-52 内坑土層断面



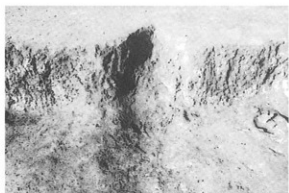
8.作業光景



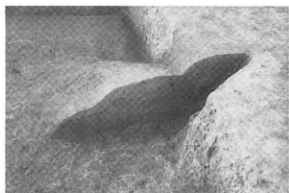
1.SI-55 全景



2.SI-55 土層断面



3.SI-55 カマド完掘



4.SI-55 カマド土層断面



5.SI-55 P1 土層断面



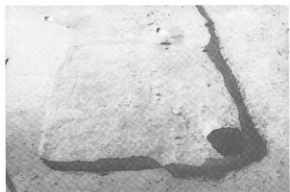
6.SI-55 P3 土層断面



7.SI-55 P4 土層断面



8.SI-55 P2 土層断面



1.SI-56 全景



2.SI-56 カマド



3.SI-56 カマド土層断面



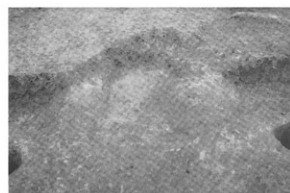
4.SI-56 P1 土層断面



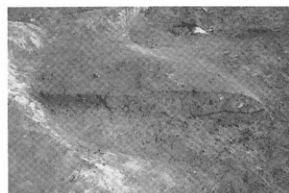
5.SI-57 全景



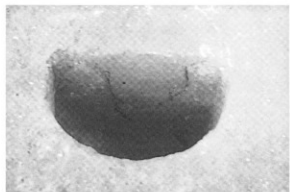
6.SI-57 土層断面



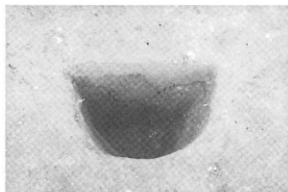
7.SI-57 カマド



8.SI-57 カマド土層断面



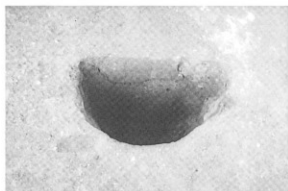
1.SI-57 P1 土層断面



2.SI-57 P2 土層断面



3.SI-57 P3 土層断面



4.SI-57 P4 土層断面



5.SI-58 全景



6.SI-58 土層断面



7.SI-58 カマド土層断面



8.SI-58 カマド完掘



1.SI-59 全景



2.SI-59 土層断面



3.SI-59 カマド



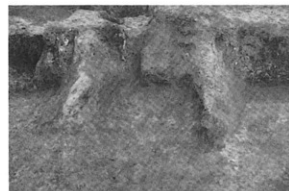
4.SI-59 カマド土層断面



5.SI-60 全景



6.SI-60 土層断面



7.SI-60 カマド



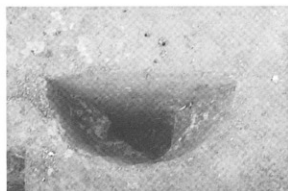
8.SI-60 カマド土層断面



1.SI-60 P1 土層断面



2.SI-60 P2 土層断面



3.SI-60 P3 土層断面



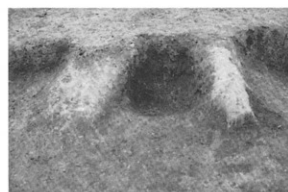
4.SI-60 P4 土層断面



5.SI-61 全景



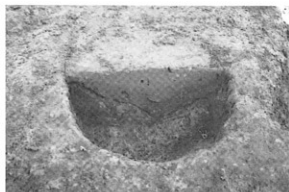
6.SI-61 土層断面



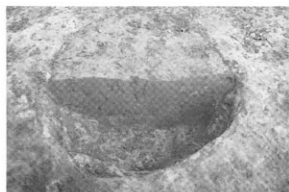
7.SI-61 カマド



8.SI-61 カマド土層断面



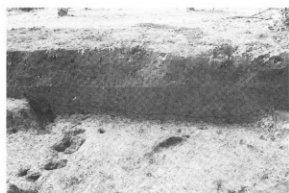
1.SI-61 P2 土層断面



2.SI-61 P1 土層断面



3.SI-64 全景



4.SI-64 カマド



5.SI-65 全景



6.SI-65 土層断面



7.SI-65 カマド



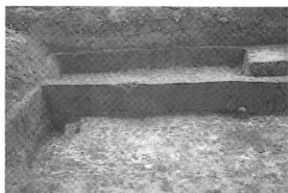
8.SI-65 カマド土層断面



9.SI-65 P1 土層断面



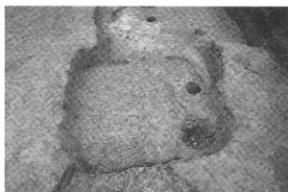
1.SI-67 A・B全景



2.SI-67 A・B土層断面



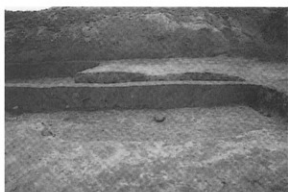
3.SI-67 Aカマド



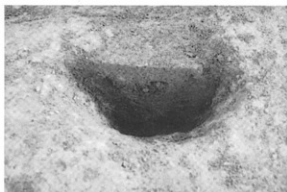
4.SI-68 A・B全景



5.SI-68 A全景



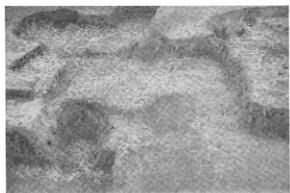
6.SI-68 A・B土層断面



7.SI-68 P2 土層断面



8.SI-68 P1 土層断面



1.SI-69 全景



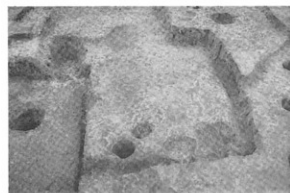
2.SI-69・70 土層断面



3.SI-69 カマド土層断面



4.作業光景



5.SI-70 全景



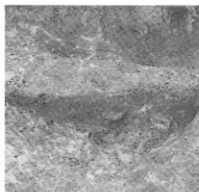
6.SI-70 土層断面西側



7.SI-70 土層断面東側



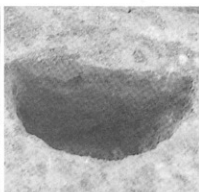
8.SI-70 紡錘車出土状況



1.SI-70 P1 土層断面



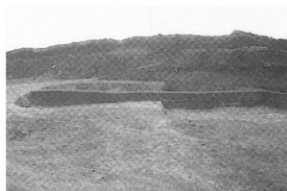
2.SI-70 P3 土層断面



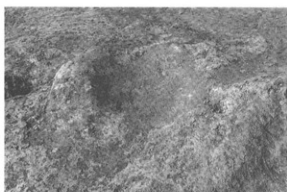
3.SI-70 P4 土層断面



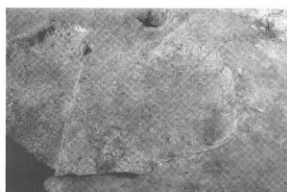
4.SI-72 全景



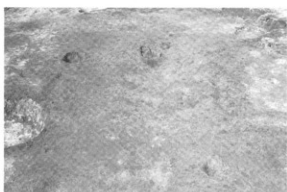
5.SI-72・73 土層断面



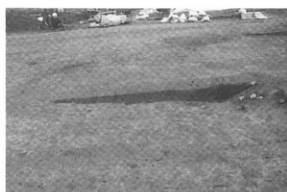
6.SI-72 カマド完掘



7.SI-73 全景



8.SI-76 全景



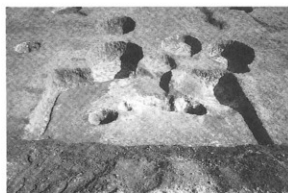
9.SI-76 土層断面



1.SI-76 カマド



2.SI-76 カマド土層断面



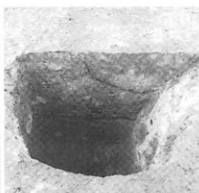
3.SI-81 全景



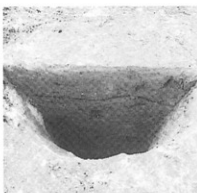
4.SI-81 土層断面



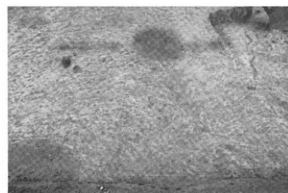
5.SI-81 カマド



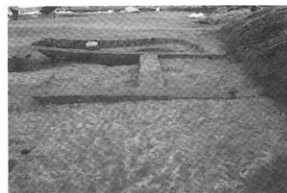
6.SI-81 P1 土層断面



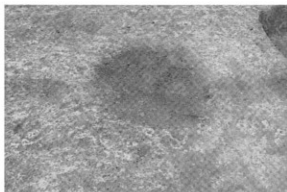
7.SI-81 P2 土層断面



8.SI-82 全景



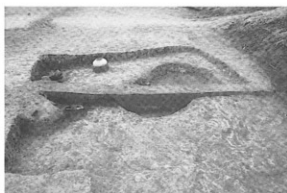
9.SI-82 土層断面



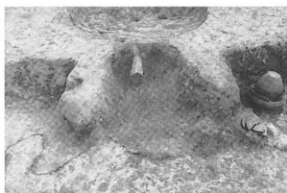
1.SI-82 カマド



2.SI-83 全景



3.SI-83 土層断面



4.SI-83 カマド



5.SI-83 遺物出土状況



6.SI-83 遺物出土状況



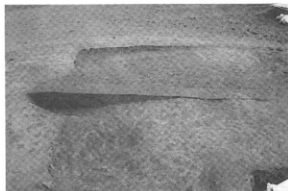
7.SI-83 遺物出土状況



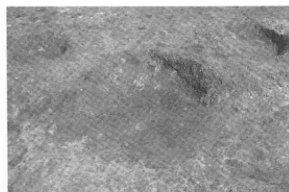
8.調査光景



1.SI-84 全景



2.SI-84 土層断面



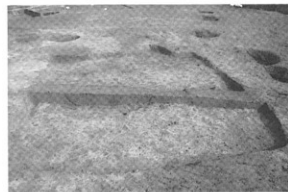
3.SI-84 カマド



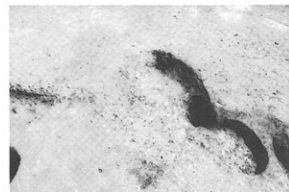
4.作業光景



5.SI-85 全景



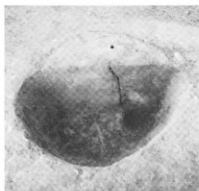
6.SI-85 土層断面



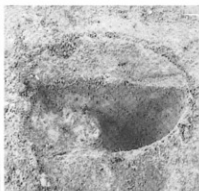
7.SI-85 カマド



8.SI-85 カマド土層断面



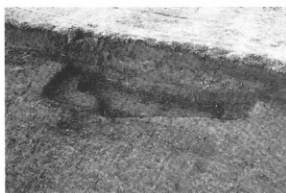
1.SI-85 P1 土層断面



2.SI-85 P2 土層断面



3.SI-85 P3 土層断面



4.SI-87 全景



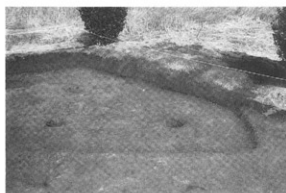
5.SI-89 全景



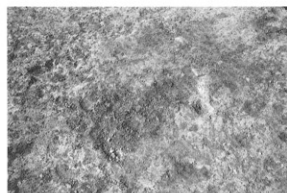
6.SI-88 全景



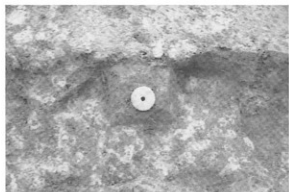
7.SI-88 土層断面



8.SI-90 全景



9.SI-90 炉跡



1.SI-90 紡織車出土状況



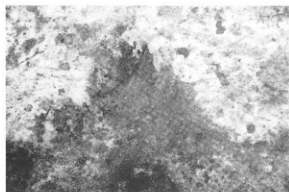
2.SI-91 全景



3.SI-92 全景



4.SI-92 カマド土層断面



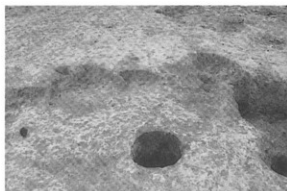
5.SI-92 カマド



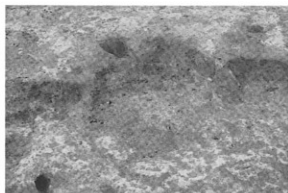
6.作業風景



7.SI-94 全景



8.SI-94 南北カマド



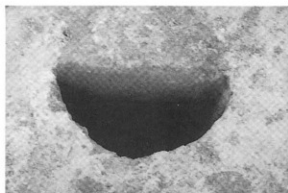
1.SI-94 北カマド



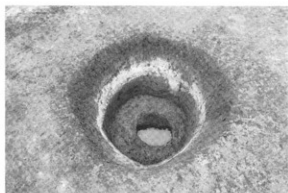
2.SI-94 南カマド



3.SI-94 カマド土層断面



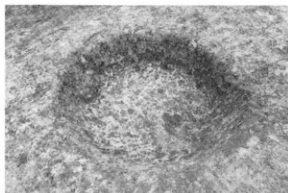
4.SI-94 P4 土層断面



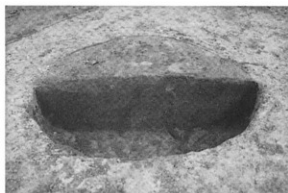
5.SE-1 完堀



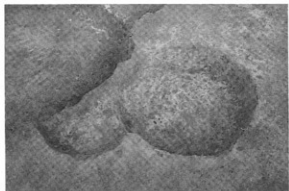
6.SE-1 土層断面



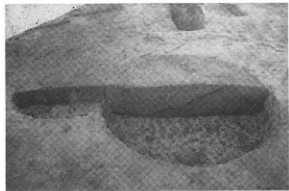
7.SK-4 完堀



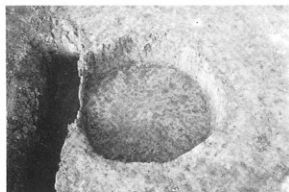
8.SK-4 土層断面



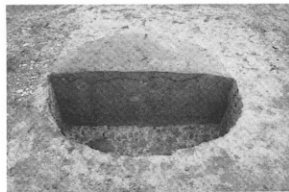
1.SK-13·SK-14 完掘狀態



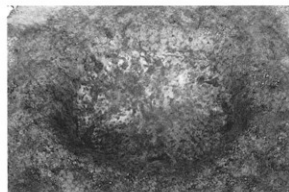
2.SK-13·SK-14 土層剖面



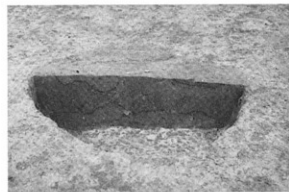
3.SK-26 全景



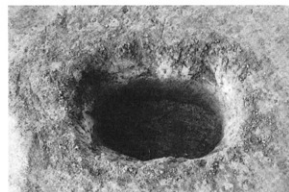
4.SK-26 土層剖面



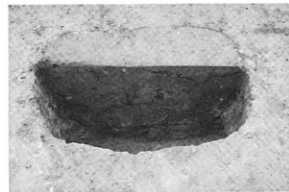
5.SK-39 完掘



6.SK-39 土層剖面

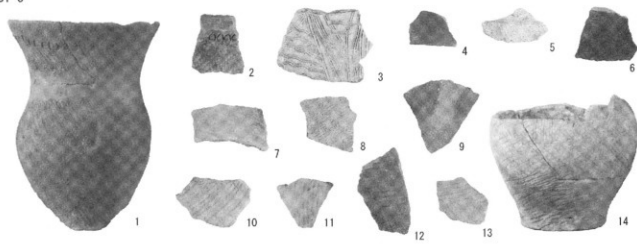


7.SK-58 完掘

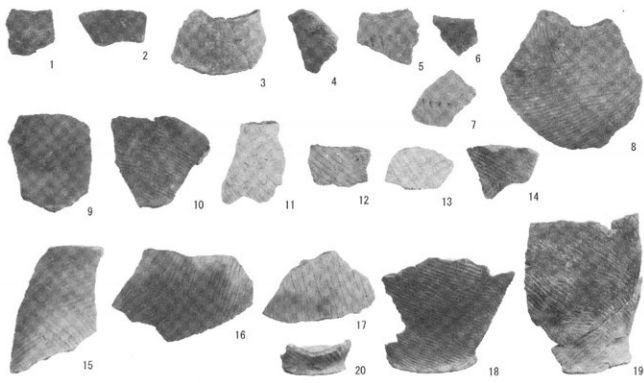


8.SK-58 土層剖面

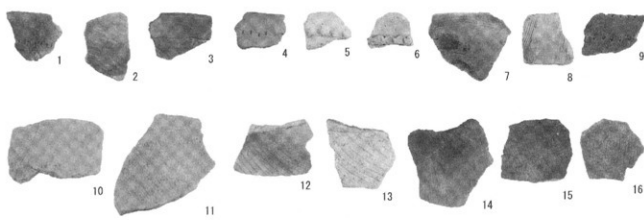
SI-5



SI-28

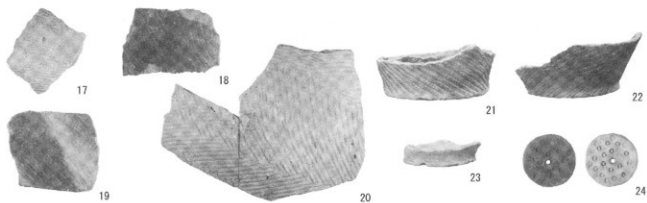


SI-33

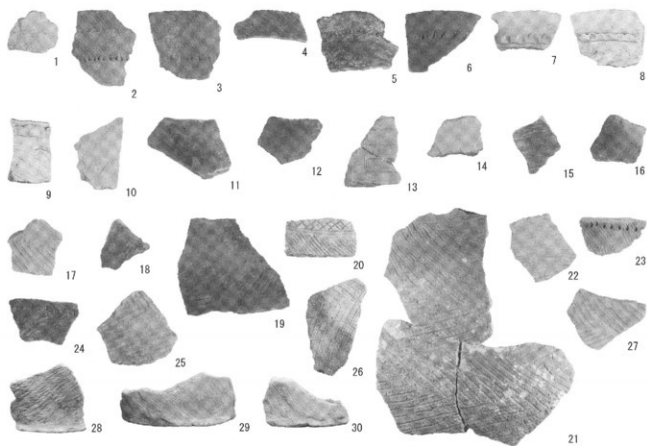


SI-5・28・33 出土遺物

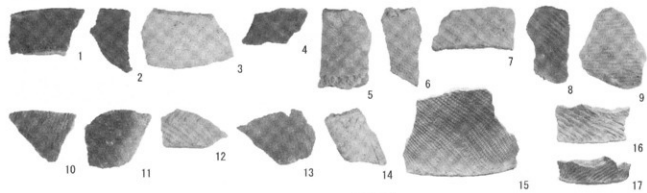
SI-33



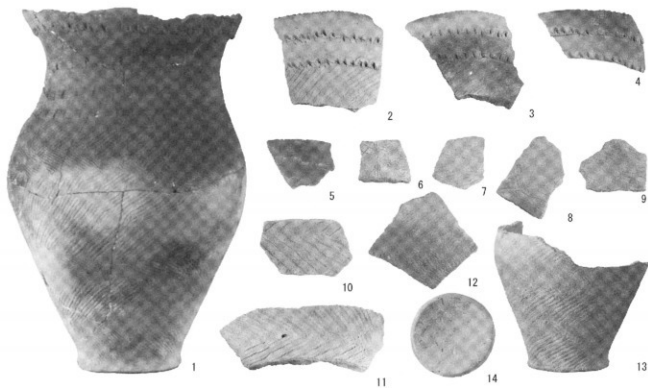
SI-44



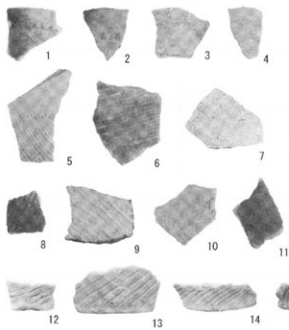
SI-45



SI-54



SI-62



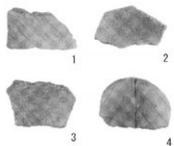
SI-66



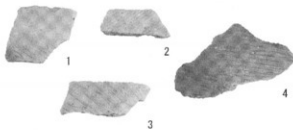
SI-74



SI-77



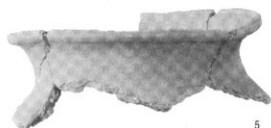
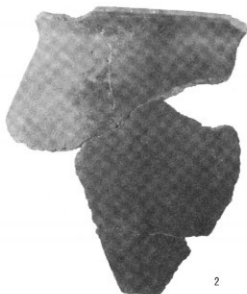
SI-78



SI-79



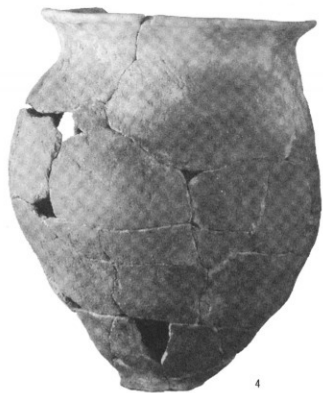
SI-3



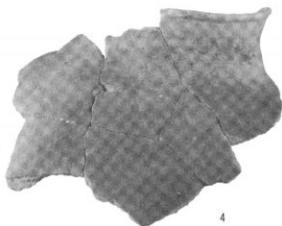
SI-4



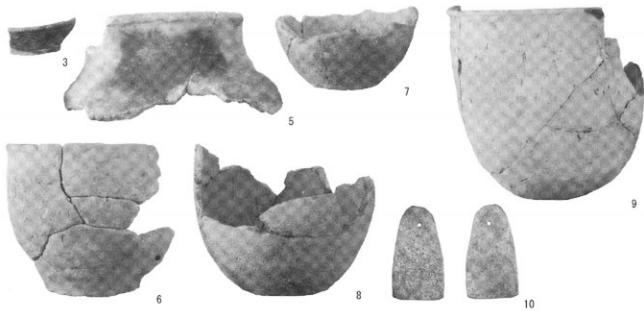
SI-14



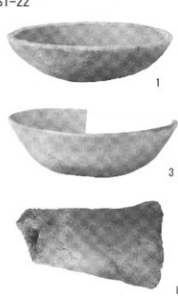
SI-15



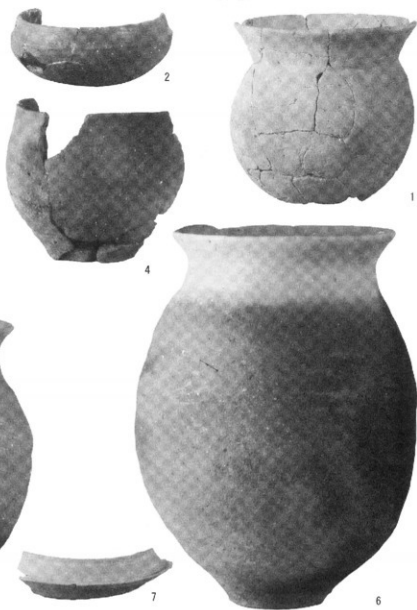
SI-15



SI-22



SI-24



SI-15・22・24 出土遺物

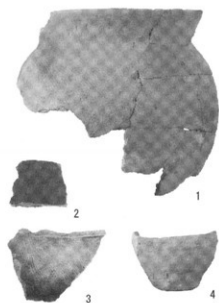
SI-27



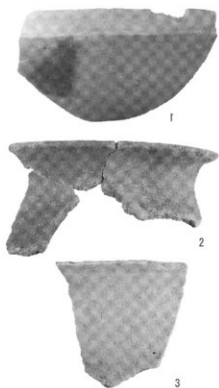
SI-30



SI-32



SI-43

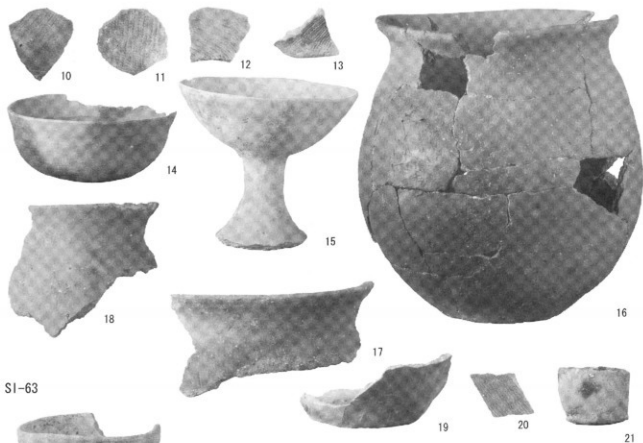


SI-53



SI-27・30・32・43・53 出土遺物

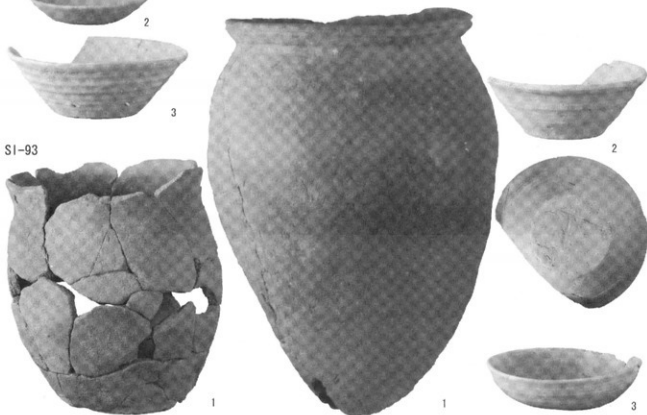
SI-53



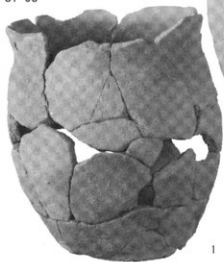
SI-63



SI-1

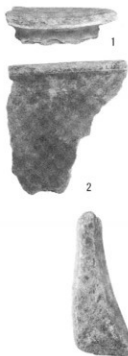


SI-93



SI-53・63・93・1 出土遺物

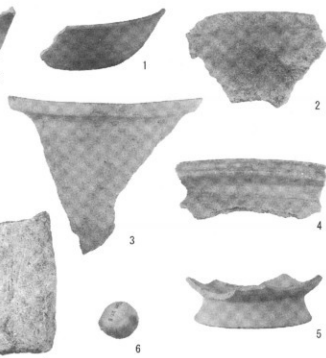
SI-2



SI-7



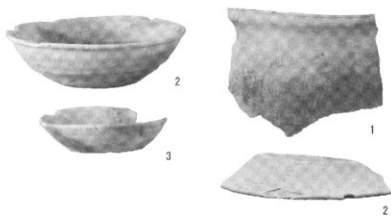
SI-8



SI-9



SI-10



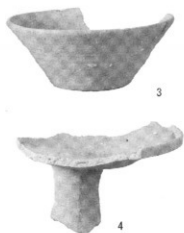
SI-11



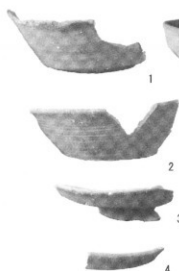
SI-12



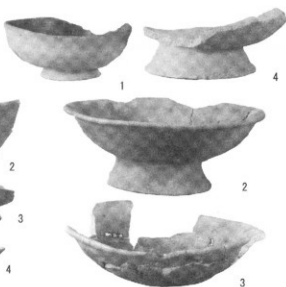
SI-12



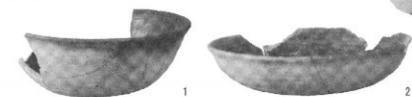
SI-13



SI-19



SI-17



SI-20



SI-21



SI-31



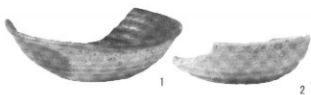
SI-26



SI-35



SI-38



SI-40



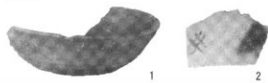
SI-41



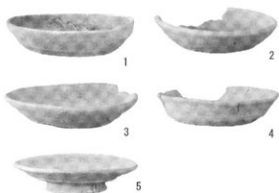
SI-46



SI-47



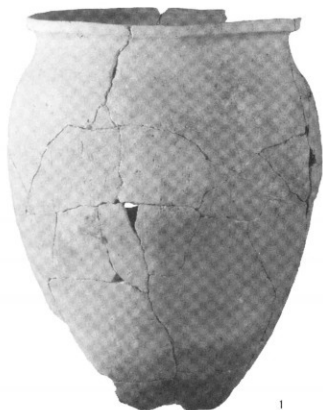
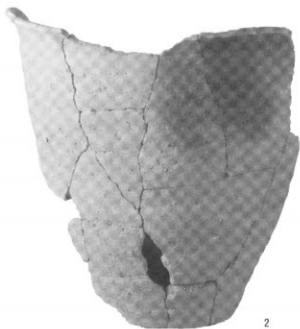
SI-48



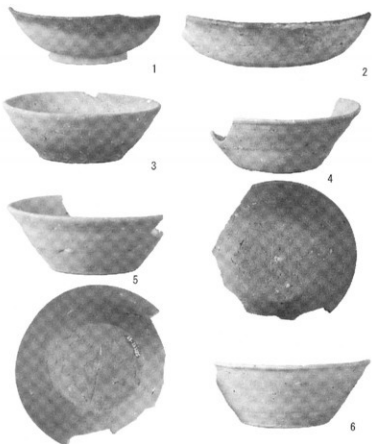
SI-52



SI-55



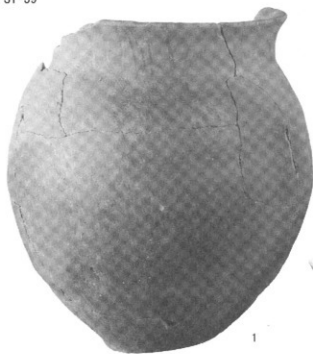
SI-57



SI-56

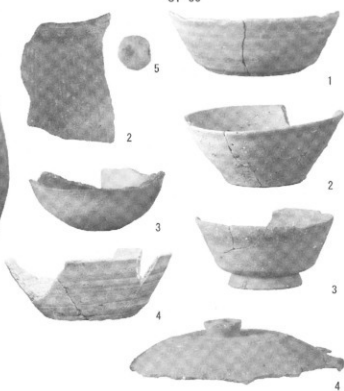


SI-59



1

SI-60



1

2

3

4

5

SI-61



1

SI-65



1

SI-67



1



3

SI-70



2



1



1

SI-68

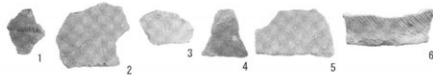


1



2

SI-75



1

2

3

4

5

6

SI-76



1



7

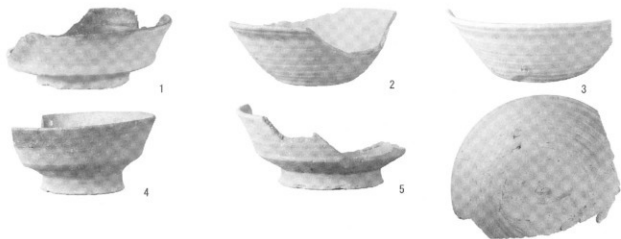


8



9

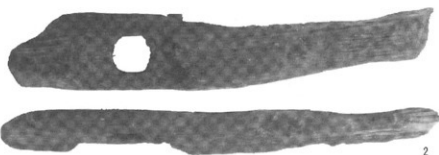
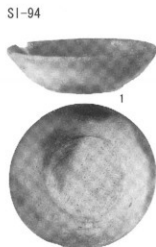
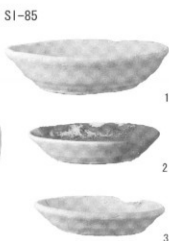
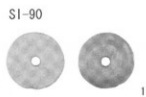
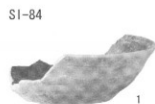
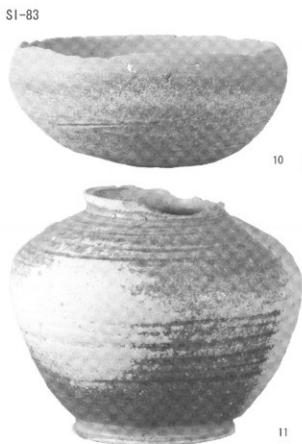
SI-81



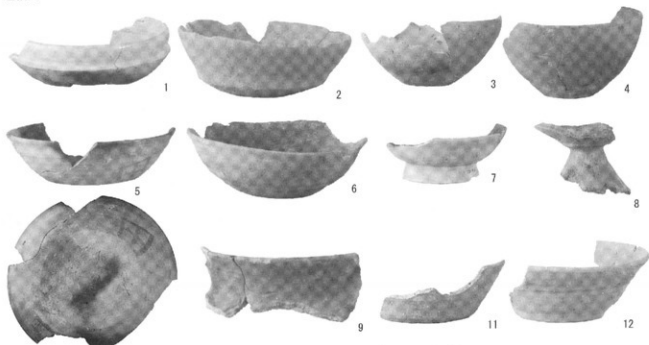
SI-83



SI-81・83 出土遺物



遺構外



遺構外



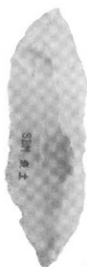
10



13



14



18



15



16

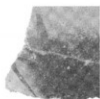


17

墨書集成



S1-8



S1-11



S1-12



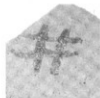
S1-12



S1-12



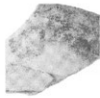
S1-17



S1-47



S1-52



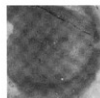
S1-52



S1-81



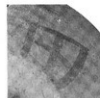
S1-94



SE-1



表土



表土



表土

報告書抄録

ふりがな	さんぼんまついせき							
書名	三本松遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	早川泉 板野晋鏡 伊藤俊治 東早花							
編集機関	大成エンジニアリング株式会社 埋蔵文化財調査部							
所在地	〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 日本生命早稲田ビル8F							
発行機関	友部町三本松遺跡発掘調査会							
発行年月日	2003年（平成15年）3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんぼんまついせき 三本松遺跡	いばらきけんにしほろきやう 茨城県西茨城郡 友部町小原 ほんまがわい 1353番地外	8321	95	36度 18分 12秒	140度 20分 51秒	2003年 1月15日 ～ 2003年 3月20日	3,400㎡	県営畑地帯総合整備事業（一般型）に伴う埋蔵文化財発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	検出遺構	主な遺物		特記事項		
三本松遺跡	集落	弥生	住居 15軒 古墳 住居 14軒 奈良・平安 住居 64軒 中世以降 土坑 89基 井戸 1基 溝 4条 道路 1条	鉄製品 土製品 石製品など。		奈良・平安時代を中心とした住居跡が計93軒密集して検出された。		

茨城県友部町

三本松遺跡

平成15年3月20日

発行 友部町三本松遺跡発掘調査会
編集 大成エンジニアリング株式会社
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1
日本生命早稲田ビル8F
電話 03-5285-3155

印刷・製本 松涛印刷株式会社

